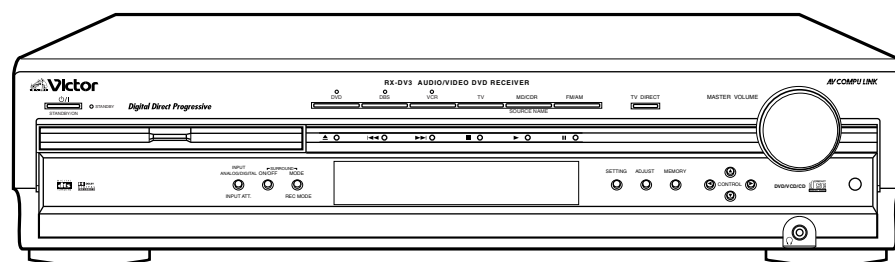
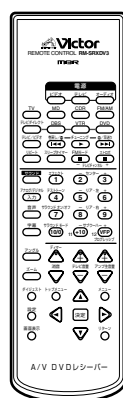
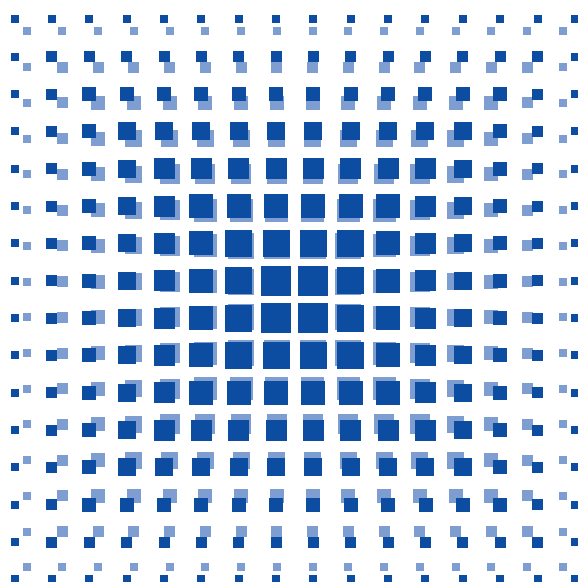
プログレッシブ DVD 内蔵 AV レシーバー

型名 **RX-DV3**

Audio/Video DVD Receiver
RX-DV3

AV COMPU LINK

Digital Direct Progressive

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に 4 ～ 7 ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

LVT0875-014A

目　次

お使いになる前に　ページ

とりあえず簡単操作　ページ

その他の基本操作　ページ

■ **ステレオを聞くときのエチケット**

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。
特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

音のエチケット

DVDを使いこなす　ページ

いろいろな設定をする　ページ

知っておいてほしいこと　ページ

安全上のご注意　ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

注意をうながす記号

一般的注意

感電

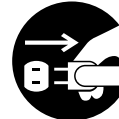
行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

行為を指示する記号

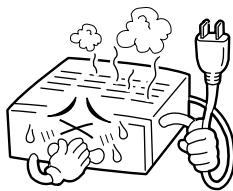
一般的指示

電源プラグを抜く

⚠警告

万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

• 煙が出ている、へんなにおいがするとき

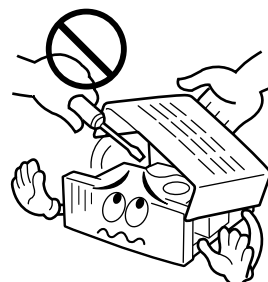
電源プラグを抜く

• 内部に水や異物が入ってしまったとき
• 落としたり、破損したとき
• 電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

電源プラグを抜く

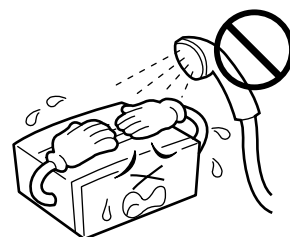
すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜く。異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解や改造をしない。カバーを外さない。

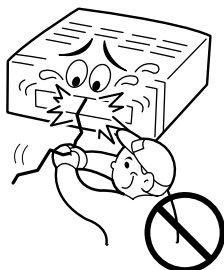
火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

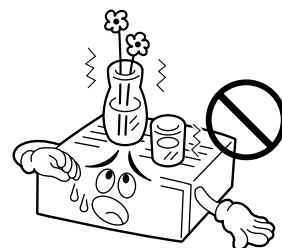
分解禁止

風呂場やシャワー室では使用しない。

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

水場での使用禁止

⚠警告

本機の中に物を入れない。

通風孔などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

本機の上に水などの入った容器を置かない。

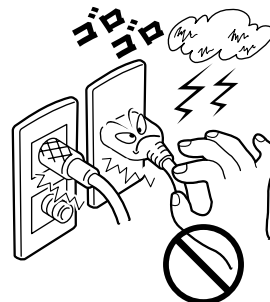
花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

電源コードを傷つけない。

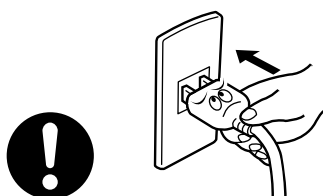
電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。
特に、次のことに注意してください。

- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

感電の原因となります。

接触禁止

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する。

表示された電源電圧以外では、火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取り除いてください。

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

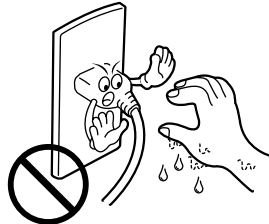
⚠注意

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

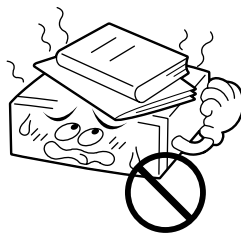
電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

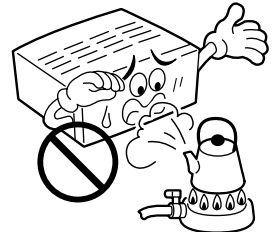
感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置する場合は、壁から10cm以上離してください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

設置場所に注意する。

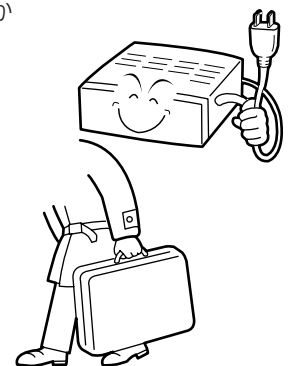
次のような所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多い所
- 直射日光の当たる所や、熱器具の近くなど高温になる所
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所

本機の上に重い物を置かない。

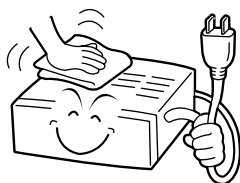
テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

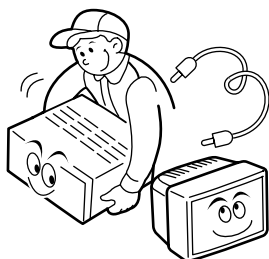
電源プラグを抜く

⚠注意

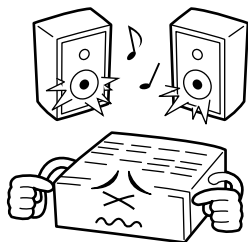
お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

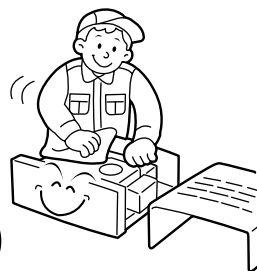
電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

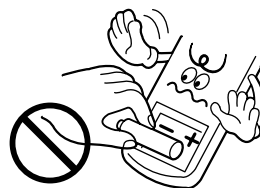
接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

はじめから音量を上げすぎない。

突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。
電源を切る前に音量（ボリューム）を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。
次のことに注意してください。

- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス（＋）とマイナス（－）を間違えない

- 電池のプラス（＋）とマイナス（－）をショートさせない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく

もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

設置についてのご注意

故障などを防止するため次の場所は避けてください。
- 不安定な所
- 振動の激しい所
- 湿気やほこりの多い所

寒い所から急に暖かい部屋へ移動したときは、約1～2時間待ってから電源を入れてください。

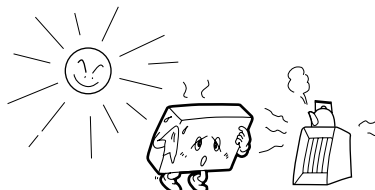
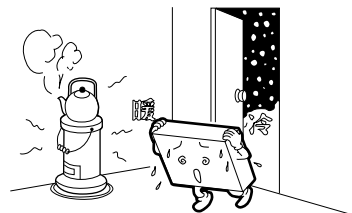
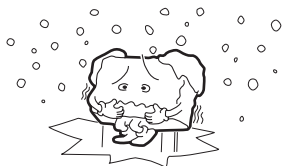
使用中の本体の温度上昇について

使用状態によっては、本体の温度が上昇することがありますが、これは故障ではありません。
特に、大音量で使い続けると本体キャビネットが熱くなります。このようなときは、火傷などの原因となりますので本体には触れないようにしてください。

ご使用になる前に

本機の置き場所について

本機は5℃から35℃までの温度で使用できるように設計されています。これを超える温度環境で使用すると、誤動作をしたり、故障の原因となります。また故障などを防止するため次の場所は避けてください。

・ 湿気やほこりの多い所

・ 直射日光が当たる所や暖房器のそば

・ 寒い所から急に暖かい部屋へ移動したあとしばらくの間

・ 極端に寒い所

・ 磁気を発生する所
・ 振動の激しい所
・ OA機器やけい光灯のすぐそば

露がついたら

次のような場合、本機内部のレンズに露（水滴）が付いてDVDやCDなどが正しく再生できないことがあります。

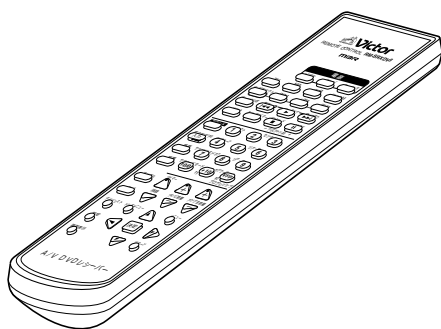
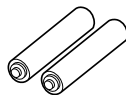
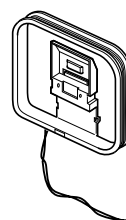
- 暖房を始めた直後
- 湯気や湿気の多いところに置いてあるとき
- 寒い所から急に暖かい部屋に移動したとき

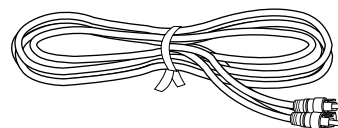
このようなときは、電源を入れたまま、1～2時間待ってからお使いください。

■設置上のご注意

本機はハイパワーであるため、連続動作や大音量動作によっては、本体内部の温度が上昇します。十分な冷却効果を得るため本体周囲の通風孔をふさがないようご注意ください。

付属品

お使いになる前に付属品をお確かめください。
不足しているものがありましたら、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

リモコン（RM-SRXDV3）（1個）

単3形乾電池（2本）
（リモコン動作確認用）

AMループアンテナ（1個）

FM簡易型アンテナ（1本）

ビデオコード 長さ約3m（1本）

- このほかに、取扱説明書（本書）や保証書が添付されています。

ディスクの予備知識

本機で再生できるディスク

本機で再生できるディスクは以下の通りです。

再生できるディスク	記録内容	ディスクの大きさ
DVDビデオ	音声＋映像	12センチ
		8センチ
ビデオCD	音声＋映像	12センチ
		8センチ
オーディオCD	音声	12センチ
		8センチ

音楽用のCDフォーマット、MP3フォーマットおよびJPEGフォーマットで記録したCD-RおよびCD-RWディスクも再生できます。ただし、ディスクの特性や記録状態によっては、再生できないこともあります。

再生できないディスク

・DVD-AUDIO　・DVD-ROM　・DVD-RAM　・DVD-RW　・CD-ROM　・SACD　・フォトCD

これらのディスクを再生することはできません。誤って再生すると、ノイズが発生することがあります。また、発生したノイズによってスピーカーを破損することがあります。CDグラフィックス、CDエキストラ、CDテキストの場合、音声のみ再生できます。

お知らせ

- 本機では、CD規格(CD-DA)に準拠しないディスクについては、動作や音質を保証できません。
  CDを再生するときは、「CDロゴマーク」の有無や、パッケージのご注意をお読みになり、CD規格に準拠するディスクであることをお確かめください。

CDロゴマーク

リージョン番号(ローカル番号)について

DVDビデオにはリージョン番号と呼ばれる、再生可能地域番号がついています。この番号がDVDプレーヤーのリージョン番号と合致しないと再生できません。**本機のリージョン番号は「2」ですので、DVDのディスク上に「2」という番号が含まれているディスクに限り再生することができます。**

テレビ方式について

本機は日本やアメリカなどのテレビ方式であるNTSC方式に適合しています。NTSC方式以外のテレビ方式(PALなど)のディスクは、NTSC方式に変換して再生します。

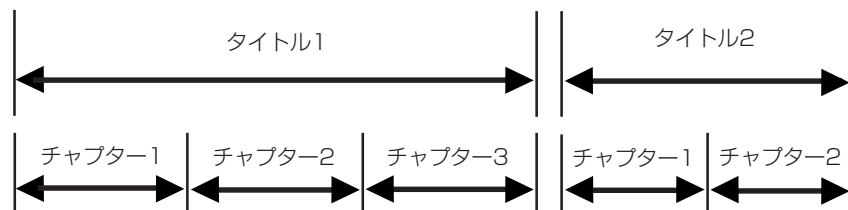
お知らせ

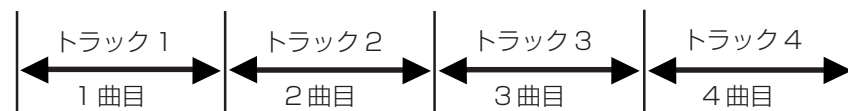
- DVDビデオおよびビデオCDは、ソフト製作者の意図により再生状態が決められていることがあります。
  本機は、ソフト製作者が意図したディスク内容に従って再生をしますので、操作した通りに機能が働かないことがあります。
  このようなときは、テレビ画面に「⊘」が表示されますが、表示されないときもありますのでご注意ください。
- NTSC方式以外のテレビ方式で収録されたディスクを再生するときは、プログレッシブスキャン方式での映像はお楽しみいただけません。

ディスクの予備知識(つづき)

再生できるディスクについて

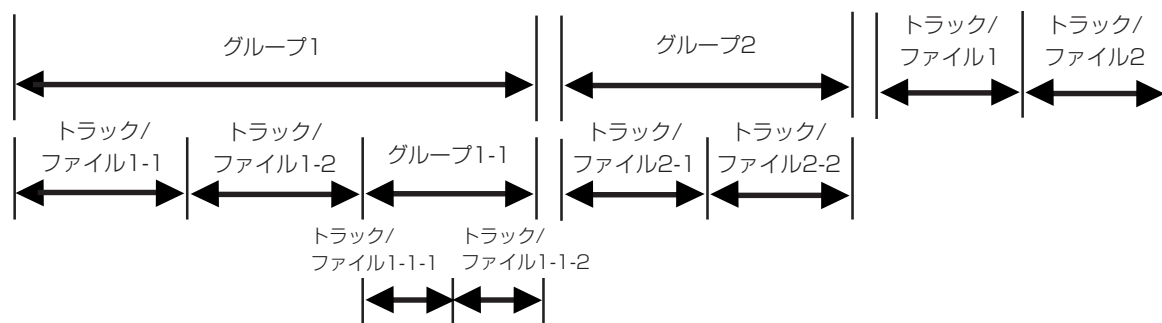
■ DVDビデオ

多くのDVDビデオは、「**タイトル**」と呼ばれるいくつかの大きな項目から構成されています。また、タイトルはさらに「**チャプター**(章)」という小さな項目に分割されています。タイトルとチャプターにはそれぞれ番号(タイトル番号、チャプター番号)が付けられていて、それらを選んで再生を始めることができます。ただし、ディスクによってはタイトルやチャプターに分割されていないものもあります。

■ ビデオCD/オーディオCD

ビデオCDやオーディオCDは、「**トラック**」と呼ばれる項目から構成されていて、それぞれのトラックには番号(トラック番号)が付けられています。たとえば2曲目は、「トラック2」となります。ただし、ディスクによってはトラックに分割されていないものもあります。また、「インデックス」と呼ばれる頭出しマークが記録されているディスクもあります。(本機はインデックス・マークの頭出し機能には対応していません。)

■ MP3(エムピースリー)ディスク/JPEG(ジェイペグ)ディスク

本機はMP3ファイル、JPEGファイルを記録したCD-R(シーディーアール)/CD-RW(アールダブリュー)ディスクを再生することができます。(本取扱説明書ではこれらのディスクを「MP3ディスク」「JPEGディスク」と呼びます。)

- 本機で再生できるMP3ディスク/JPEGディスクは、ISO9660フォーマット(レベル1またはレベル2)で記録されたCD-R/CD-RWディスクです。

MP3ディスク/JPEGディスクには、それぞれの曲または映像が「**トラック/ファイル**」として記録されています。また、複数のトラック/ファイルをジャンル別、アーティスト別などの「**グループ(フォルダ)**」にまとめて分類できます。さらに「グループの中にグループ」を作ることにより、グループ/トラックの階層構造をつくることができます。この階層は、パソコンにおけるフォルダ/ファイルの階層と同じです。

お知らせ

- MP3ディスクの音声信号は、**デジタル出力**端子からは出力されません。
- MP3ディスク/JPEGディスクを再生するときは、本機で使用できる機能に制限があります。プログラム再生やランダム再生はできません。
- ディスクの記録状態や特性により再生できないことがあります。
- 6以上のマルチセッション記録を持つディスクでは、すべてのセッションを再生することはできません。
- パケットライト方式で記録されたディスクは、再生できません。
- 本機はMP3の「ID3タグ」には対応していません。(ID3タグには、演奏者や曲名などの情報が記録されています)
- ファイナライズされていないディスクは、再生できません。

各部の名前 —□内の数字のページに説明があります。—

リモコン（RM-SRXDV3）

電源ボタン
電源の「入」⟷「切」をするとき押します。

- **オーディオ電源** 26 〜 31
  本機の電源を「入」⟷「切」するとき押します。
- **テレビ電源** 29 95 96
  テレビの電源を「入」⟷「切」するとき押します。他メーカーのテレビでは、メーカーコードの設定が必要になります。
- **ビデオ電源** 29 95 96
  ビデオデッキの電源を「入」⟷「切」するとき押します。他メーカーのビデオでは、メーカーコードの設定が必要になります。

ソース機器選択ボタン 26 28 30
ソース（音源）を選ぶとき使います。
テレビダイレクトボタン 35
テレビダイレクトを使うとき押します。

テレビ/ビデオボタン 95 96
テレビ側の入力を切り替えるとき押します。他メーカーのテレビでは、メーカーコードの設定が必要になります。

リピートボタン 60 79 81
ディスクのくり返し再生をするとき押します。

スリープタイマーボタン 35
おやすみタイマーを使うとき押します。

アナログ/デジタル入力ボタン 36 37
アナログ/デジタルの入力切り替えやデジタル入力信号フォーマットを切り替えるとき押します。

DVD操作ボタン
ディスクの操作をするとき使います。
- **音声** 63
- **字幕** 64
- **アングル** 65
- **ズーム** 62
- **ダイジェスト** 61

マルチ操作ボタン
- ⏮、▶、⏭、■、⏸
  内蔵のDVDプレーヤーや他のAV機器を操作するとき使います。
- **チューニング ⊕/⊖** 30 31
  チューナーを操作するとき使います。

サウンドボタン 27 29 31 49 52 53
数字ボタンを音量や音質調節のために使うとき押します。
数字ボタン 29 49 53 57 70 80
トラックや時間などを指定するとき使います。
VFPボタン 66
画質の調節をするとき押します。
プログレッシブボタン 38
スキャン方式を切り替えるとき押します。

ディマーボタン 34
表示窓の明るさを変えるとき押します。
消音ボタン 34
一時的に音を消すとき押します。
テレビ音量+/–ボタン 95 96
テレビの音量を調節するとき使います。他メーカーのテレビでは、メーカーコードの設定が必要になります。
アンプ主音量+/–ボタン 27 29 31
本機の音量を調節するとき使います。

メニュー操作ボタン
メニュー操作をするとき使います。

- **設定** 83
- **画面表示** 67 69 〜 76
- **トップメニュー** 58
- **メニュー** 58
- **カーソル（▲/▼/▶/◀）**
- **決定**
- **リターン** 59

各部の名前(つづき) —□内の数字のページに説明があります。—

本体（RX-DV3）

前　面

ソース機器選択ボタン 26 28 30
DVD、DBS、VTR、TV、MD/CDR、FM/AM
ソース(音源)を選ぶとき使います。

SOURCE NAMEボタン 36
MD/CDRのソース名を変更します。

TV DIRECTボタン 35
テレビダイレクトを使うとき押します。

⏻/I STANDBY/ONボタンとSTANDBYランプ 26〜31 35
電源の「入」⟺「切」をするとき押します。
STANDBYランプは、電源を「切」にすると赤く点灯し、電源を「入」にすると消えます。

DVDプレイヤー操作ボタン
内蔵のDVDプレーヤーを操作するとき使います。
▲(開/閉)、►(再生)ボタンを押すと電源が「入」になります。

MASTER VOLUME 27 29 31
音量を調節します。

ディスクトレイ 26
イルミネーションランプ 26

リモコン受光部

表示窓

ヘッドホン端子 34

INPUT ANALOG/DIGITALボタン 36 37
アナログ/デジタルの入力切り替えやデジタル入力信号フォーマットを切り替えるとき押します。

INPUT ATT.ボタン 38
アナログ入力信号がひずむとき押します。

SURROUNDボタン 27 29 31 52
- **ON/OFFボタン**
  サラウンドの「入」⟺「切」をするとき押します。
- **MODEボタン:**
  サラウンドモードを選ぶとき押します。

REC MODEボタン 39
本機に接続した録画・録音機器を使うとき押します。

SETTINGボタン 40〜46
スピーカーの設定など基本的な設定のとき使います。

ADJUSTボタン 47〜49
音量・音質を調節するとき使います。

MEMORYボタン 32
放送局を記憶させるとき使います。

CONTROL(▲/▼/►/◄)ボタン 40〜49
本機の設定や調節のとき使います。

後　面

表示窓

AUTO SURROUND表示
オートサラウンドが「ON」のとき点灯します。

再生モード表示
内蔵のDVDプレーヤーでの再生モードに対応して点灯します。

INPUT ATT表示
インプットアッテネーターを使っているとき点灯します。

アナログ/デジタル入力信号表示
アナログ/デジタル信号の入力切り替えに対応して点灯します。

サラウンド表示
サラウンドモードに対応して点灯します。

PROGRESSIVE表示
プログレッシブスキャン方式のとき点灯します。

VOLUME表示
現在の音量を表示します。
ラジオ周波数単位表示
FMバンド受信中はMHz表示が、AMバンド受信中はkHz表示が点灯します。

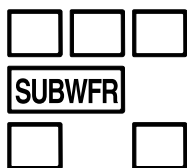
デジタル信号方式表示
デジタル信号（音声）の記録方式を表示します。
スピーカー表示/音声チャンネル
再生中の音声チャンネル信号と対応しているスピーカーの動作状態を表示します。下の説明をご覧ください。

RESUME表示
リジュームが働いているときに点灯します。
SPK.表示
ヘッドホンを使うと消灯します。

文字/時間表示部
本機の動作状態や選んでいるソース、時間情報などを表示します。

ラジオ受信状態表示
TUNED、STEREO、AUTO MUTING
ラジオの受信状態とFM受信モードを表示します。
SLEEP表示
おやすみタイマーを使うとき点灯します。

スピーカー表示/音声チャンネル信号表示

再生しているスピーカーと音声チャンネル信号を表示します。

スピーカー表示

- サブウーハーの設定を「YES」にしているときは（➡ 42 ページ参照）、「SUBWFR」表示が点灯します。
- サブウーハー以外のスピーカーは、選択中のサラウンドに有効なスピーカー表示のみが点灯します。

音声チャンネル信号表示

再生されている音声チャンネル信号は、( )内に表記されたスピーカーから出力されます。

- **L** ：左フロントチャンネル（左フロントスピーカー）
- **R** ：右フロントチャンネル（右フロントスピーカー）
- **C** ：センターチャンネル（センタースピーカー）
- **LS** ：左サラウンドチャンネル（左リアスピーカー）
- **RS** ：右サラウンドチャンネル（右リアスピーカー）
- **S** ：モノラルサラウンドチャンネル（左右リアスピーカー）
- **LFE**：LFEチャンネル（サブウーハー）

接　続 ―接続が終わるまで電源は入れないでください。―

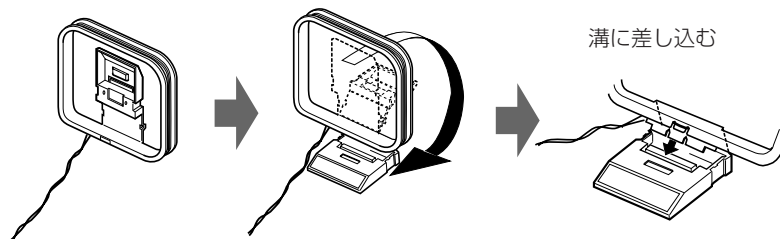
接続上のご注意

- すべての接続が終わってから、電源コードをコンセントに差し込んでください。
- 各コードまたは各プラグは確実に接続してください。不完全な接続は、雑音や音が出ないなどの原因となります。

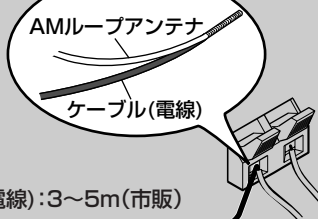
アンテナを接続する

ラジオを聞くためにアンテナを接続します。

AMループアンテナ(付属品)の接続

AMループアンテナ(付属品)を準備する

AMループアンテナ(付属品)を本体からできるだけ離し、左右に回してもっとも良く受信できる所に置きます。
束ねてある線はよく伸ばして使ってください。

■付属のAMループアンテナではうまく受信できないとき

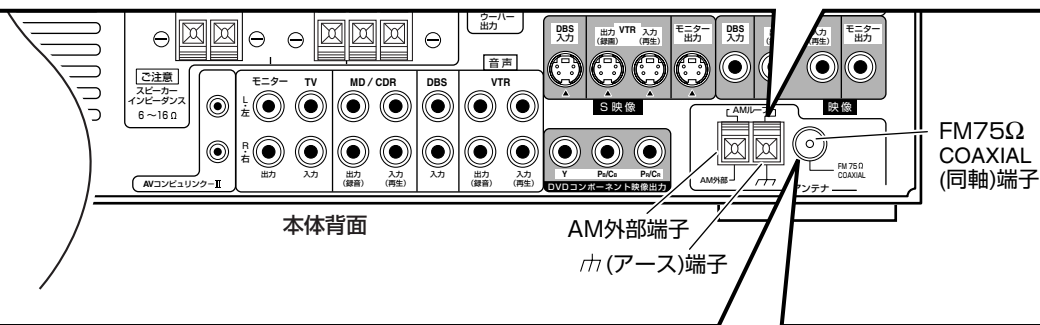
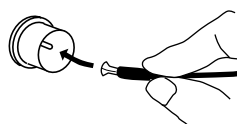
ケーブル(電線)をAM外部端子(左側)に接続します。AMループアンテナも一緒に接続しておいてください。
窓際や屋外になるべく高く水平に張ると効果的です。

AMループアンテナ(付属品)を接続する

1. アンテナ線の先端にビニールがついているときは、ねじりながら抜き取ります。
2. タブを押しながら(①)、アンテナ線を差し込みます(②)。
3.

本体背面

AM外部端子

(アース)端子

FM75Ω COAXIAL (同軸)端子

FM簡易型アンテナ(付属品)の接続

中央のピン部に差し込みます。

FM簡易型アンテナ (付属品)
放送局を受信して最も受信状態の良い位置に「ピーン」と伸ばし、先端をテープなどで固定します。

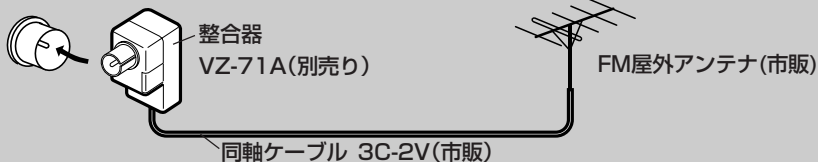
■付属のFM簡易型アンテナではうまく受信できないとき
■マンションなどの壁の共聴アンテナ端子を使うとき

右図のように接続します。

- FM屋外アンテナを接続するときは、市販の同軸ケーブルと整合器を準備してお使いください。

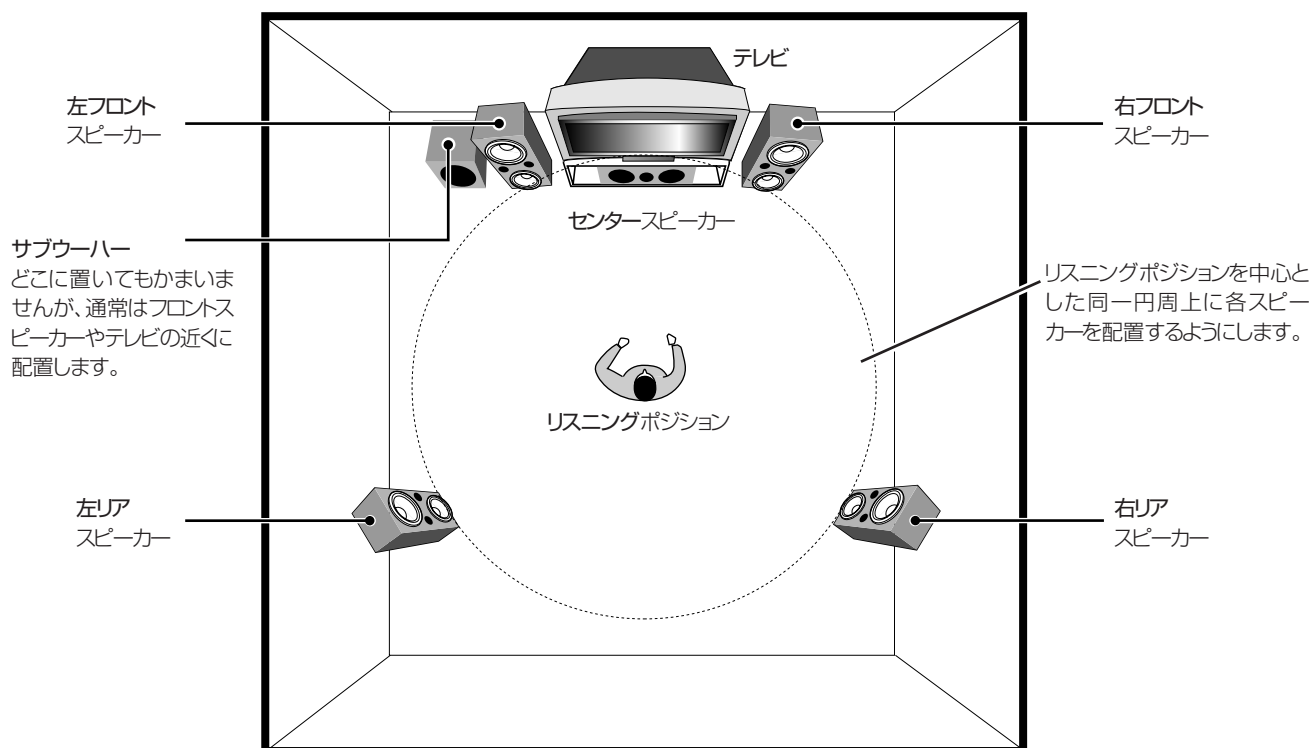
整合器
VZ-71A(別売り)

FM屋外アンテナ(市販)

同軸ケーブル 3C-2V(市販)

スピーカーを接続する

■スピーカーの配置について

本機は、ドルビーデジタル 5.1ch、DTS 5.1ch、MPEG-2 AACサラウンド、ドルビープロロジックIIに対応しています。スピーカーを同時に最大6本使用して、より臨場感のある音場を創ることができます。
スピーカーを配置するには、下の配置例を参考に実際にお聞きになりながら最適なサラウンド効果、残響効果が得られる向きや場所を探して設置してください。
また、部屋の間取りなどで配置がむずかしいときでも、スピーカーの距離を正しく設定することで音場の調節をすることができます。
スピーカーの距離については、「スピーカーの設定をする」(➡ 42 ～ 45ページ参照)をご覧ください。

理想的なスピーカー配置例
(5.1ch配置のとき)

設置のポイント

センタースピーカー　：主に映画のセリフなどを再生するので、テレビ画面の近くに設置します。
フロントスピーカー　：前方左右の音を再生します。
リアスピーカー　：後方左右の音を再生します。耳の位置に対して横から少し後方に設置します。
サブウーハー　：重低音を再生します。

- センタースピーカー、フロントスピーカー、リアスピーカーからの音には指向性*があります。スピーカーを向ける方向によって、サラウンド感が変わります。
- サブウーハーからの音は、他のスピーカーからの音と比べて、指向性は強くありません。お部屋のレイアウトなどに合わせて重低音が効果的に聞こえる場所に設置してください。前方中央付近が理想的です。

* **指向性とは…**
スピーカーは、一般にその正面で最も音がよく聞こえ、正面からずれていくと聞こえにくくなる性質があります。この正面からの移動角度に対する出力音圧の変化を示したものが指向性です。指向性が強いスピーカーほど、効果的に音の聞こえる範囲が狭くなります。

スピーカーを接続する（つづき）

■接続するスピーカーについて

本機に接続できるスピーカーの公称インピーダンスは6Ω〜16Ωです。
DVDソフトでドルビーデジタルやDTSデジタルサラウンドを楽しんだり、ホールやパビリオンなどの残響効果を楽しむにはスピーカーとの相性も重要になります。フロント、センター、リアの各スピーカーは、特性の揃った同一のスピーカーを使うことが理想的です。

ご注意

- **一つのスピーカー端子に複数のスピーカーを接続しないでください。**事故や故障の原因となります。
- テレビの近くに設置するセンタースピーカーやフロントスピーカーなどは、防磁形スピーカーをお使いください。
  万一、テレビの画面に色ムラが生じるときは、スピーカーとテレビを離して設置してください。

■フロントスピーカー、センタースピーカー、リアスピーカーの接続

フロントスピーカー、センタースピーカー、リアスピーカーを本体背面のスピーカー端子に接続します。
スピーカーコードの長さは、左右のスピーカーで同じくらいの長さになるようにします。

スピーカーの左右と極性（⊕と⊖）を間違えないように正しく接続してください。

お知らせ

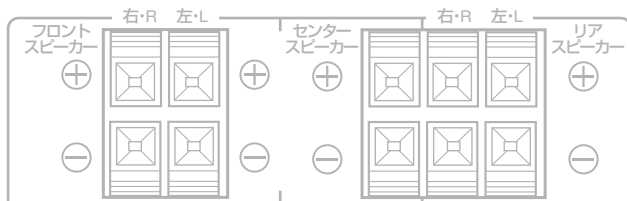
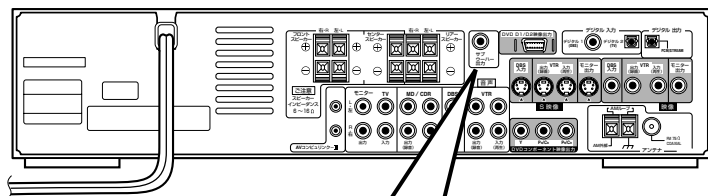
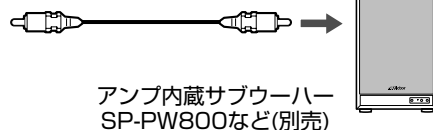
- スピーカーコードの極性（⊕、⊖）を間違えると、ステレオ感や音質がそこなわれますのでご注意ください。
- 接続したあと、コードを軽く引いて正しく接続されているか確認してください。
- 磁気カードなどをスピーカーのすぐそばに置かないでください。データが消えるなどの原因になることがあります。

■サブウーハーの接続

サブウーハーを接続すると、より迫力のある重低音がお楽しみいただけます。

また、ドルビーデジタル5.1ch、DTS5.1ch、MPEG-2 AACサラウンド対応のソフトを再生したとき、LFE（エルエフイー）(Low（ロー） Frequency（フリケンシー） Effect（エフェクト）)信号がサブウーハーで再生され、映画館のような重低音が楽しめます。

サブウーハーを接続するときは、RCAピンプラグコード（市販）でサブウーハー出力端子に接続します。

- 詳しくは、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。

接続コードについて

本機と他の機器を接続するためにお使いになれるコードは、映像入出力のためのもの4種類と、音声入出力のためのもの3種類とがあります。お使いの機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。

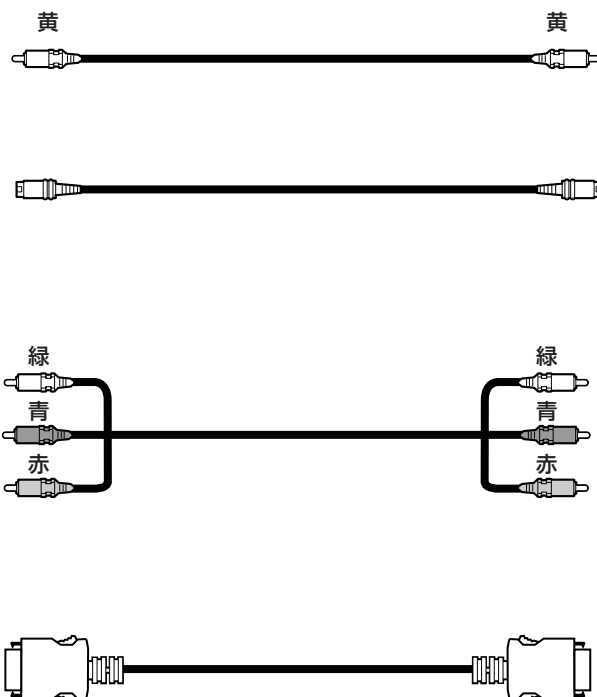
映像入出力のための接続コード

内蔵DVDプレーヤー：本機の内蔵DVDプレーヤーからの映像は、4種類のコードを使ってお手持ちのテレビで見ることができます。
外部接続したAV機器：本機では、お手持ちのテレビと外部AV機器(ビデオデッキやBSチューナーなど)が同じ種類の端子に接続されていないと、外部AV機器の映像をテレビで見ることはできません。また、録画用と再生用の外部AV機器についても同じ種類の端子に接続されていないと、映像を録画することはできません。例えば、再生機器をS映像端子に接続して、録画機器を映像端子に接続しても録画することはできません。

- ビデオコード(付属、1本)
  本機では、映像端子に接続します。

- Sビデオコード：VC-S110E(別売り)など
  本機では、S映像端子に接続します。
  S映像信号は、従来の映像信号を輝度信号(Y)と色信号(C)に分離した信号です。従来の映像信号より鮮明で色のにじみが少ない映像が楽しめます。

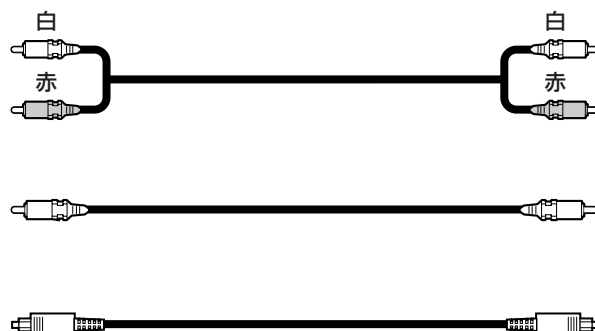
- コンポーネントビデオコード：VX-D115E(別売り)など
  本機では、DVDコンポーネント映像出力端子に接続します。内蔵のDVDプレーヤーの映像出力に使います。
  コンポーネント信号は、色差信号とも呼ばれ、映像を色信号2本(色の三原色の赤･緑･青を青信号成分と赤信号成分に分けたもの)と輝度信号1本に分けたもので、色の発色が良く、高い映像品位が特長です。

- D映像接続コード：VX-DS110(別売り)など
  本機では、DVD D1/D2映像出力端子に接続します。内蔵のDVDプレーヤーの映像出力に使います。
  D映像信号は、コンポーネント映像端子と同じものですが、コード1本で接続でき、送られる映像の信号フォーマットや縦横比(アスペクト比)の検出信号をもっているのが特長です。

音声入出力のための接続コード

デジタル入力端子に機器を接続するときは、接続後に以下の設定が必要です。
接続した機器名とデジタル入力端子に割り当てられているソース名が合うように設定してください。お買い上げ時には、デジタル1端子には「DBS」、デジタル2端子には「TV」がソース名として割り当てられています。詳しくは「デジタル入力端子に接続した機器名を変更する」(➡ 40 ページ参照)をご覧ください。
また、音声入力としてデジタル入力を選択します。詳しくは「アナログ/デジタルの入力信号を切り替える」(➡ 36 ページ参照)をご覧ください。

- アナログ音声コード：CN-510E(別売り)など
  本機では、音声端子に接続します。
  白いプラグの方をL(レフト)･左端子に、赤いプラグの方をR(ライト)･右端子に接続します。

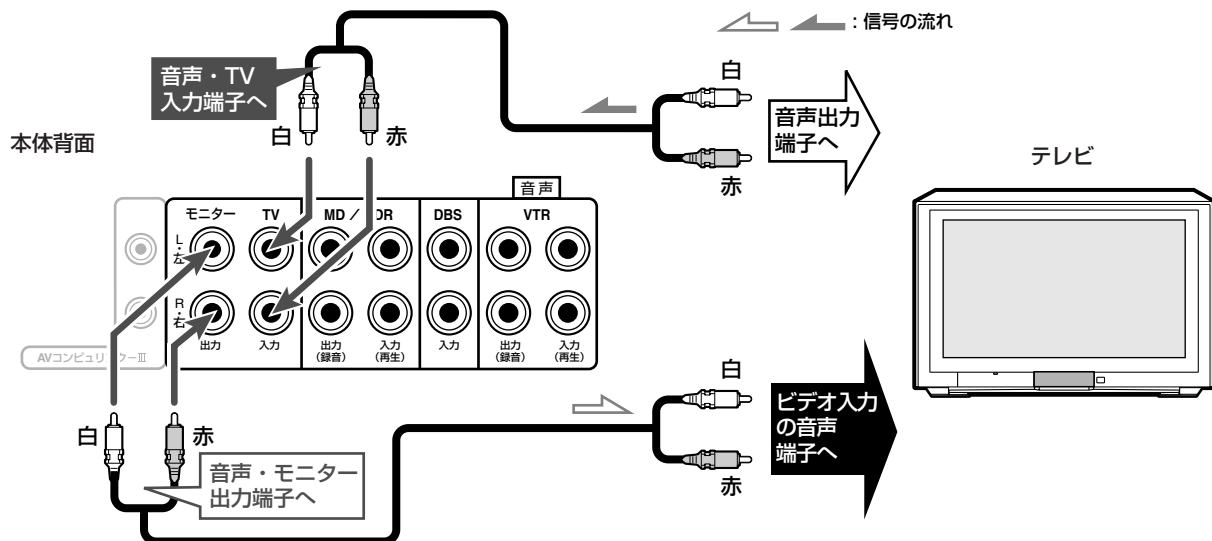
- 同軸デジタルコード：CN-D110E(別売り)など
  本機では、デジタル入力端子のデジタル1(DBS)端子に接続します。

- 光デジタルケーブル：XN-110SA(別売り)など
  本機では、デジタル入力端子のデジタル2(TV)端子と、デジタル出力端子に接続します。

テレビを接続する

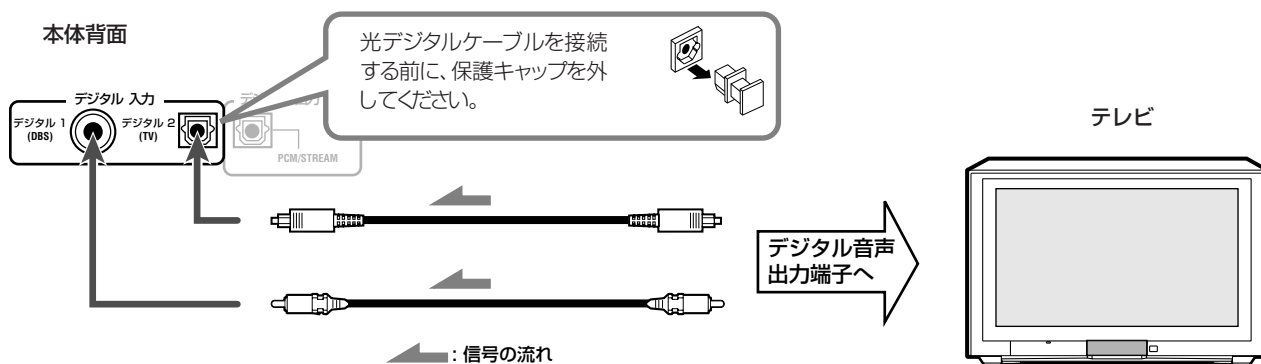
本機とテレビを接続します。テレビの代わりにモニターやプロジェクターを接続することもできます。
テレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。

音声の接続

テレビからの音声を本機に接続したスピーカーで聞くことができます。
また内蔵のDVDプレーヤーや本機に接続したビデオデッキからの音声をテレビで聞くこともできます。

■アナログ接続

お知らせ

- テレビへの音声入力接続と映像入力接続は、同じビデオ入力に接続してください。

■デジタル接続

お使いになる前に
とりあえず簡単操作
その他の基本操作
DVDを使いこなす
いろいろな設定をする
知っておいてほしいこと

テレビを接続する（つづき）

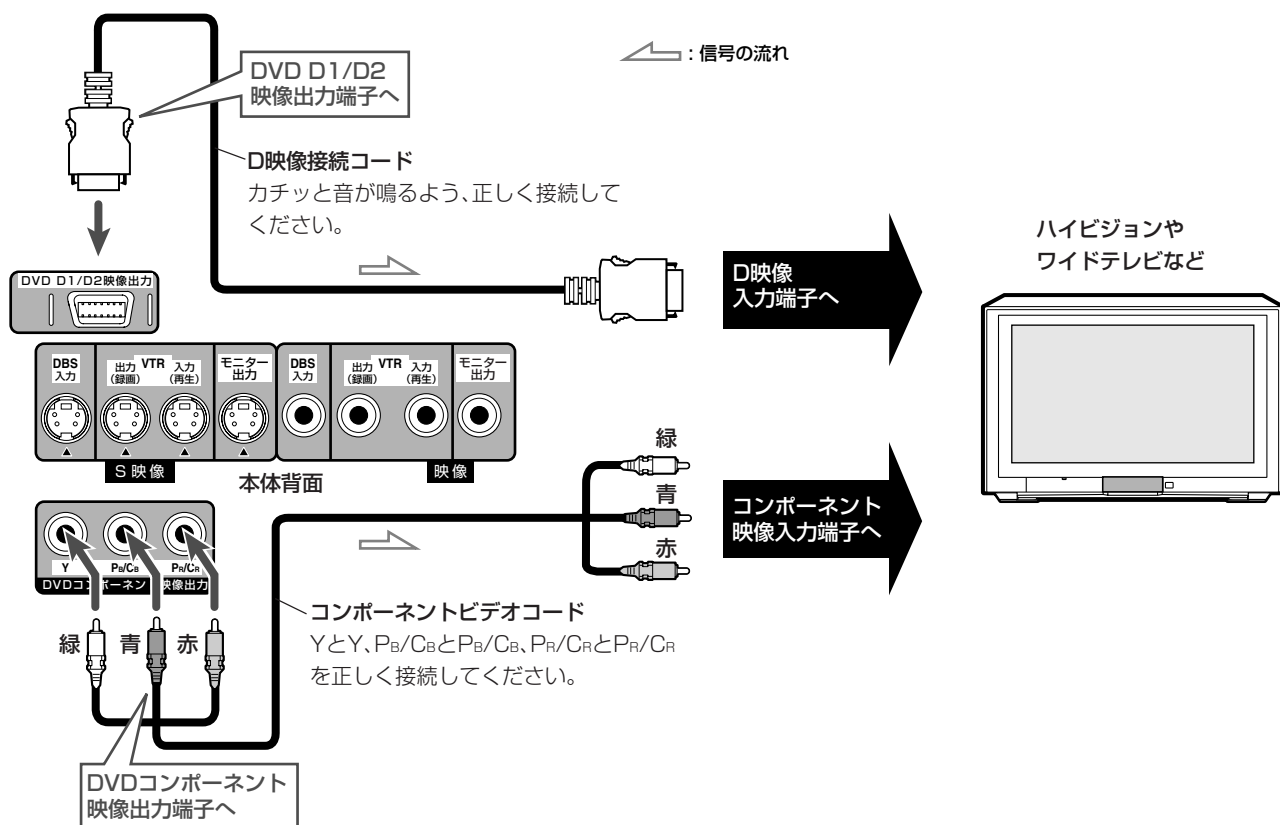
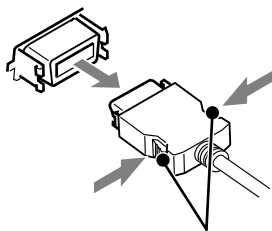
映像の接続

本機からの映像をテレビで見るために接続します。
接続の後で、映像出力の設定をしてください。詳しくは「映像出力を設定する」（➡ 40ページ参照）をご覧ください。

- **本機のモニター出力は、直接テレビ（またはモニター）とつないでください。ビデオデッキを経由してつなぐと、DVDソフトのコピー防止システムの働きにより再生中に画像が乱れることがあります。**

■D映像端子またはコンポーネント入力端子付のテレビとの接続

本機のDVD D1/D2映像出力端子またはDVDコンポーネント映像出力端子を使って、テレビを接続することで、より高画質の映像をお楽しみいただくことができます。
また、内蔵のDVDプレーヤーは、プログレッシブスキャン方式で映像をDVD D1/D2映像出力端子またはDVDコンポーネント映像出力端子から出力することができます。お手持ちのテレビがプログレッシブ方式対応のときは、スキャン方式を切り替えてお楽しみいただけます。詳しくは、「スキャン方式を切り替える」（➡ 38ページ参照）をご覧ください。

- お手持ちのテレビがプログレッシブ方式対応でないときは、本機のスキャン方式をプログレッシブに切り替えないでください。映像が乱れる場合があります。

D映像端子コネクターの外しかた

ここの部分を押しながら、コネクターを引き、はずします。

お知らせ

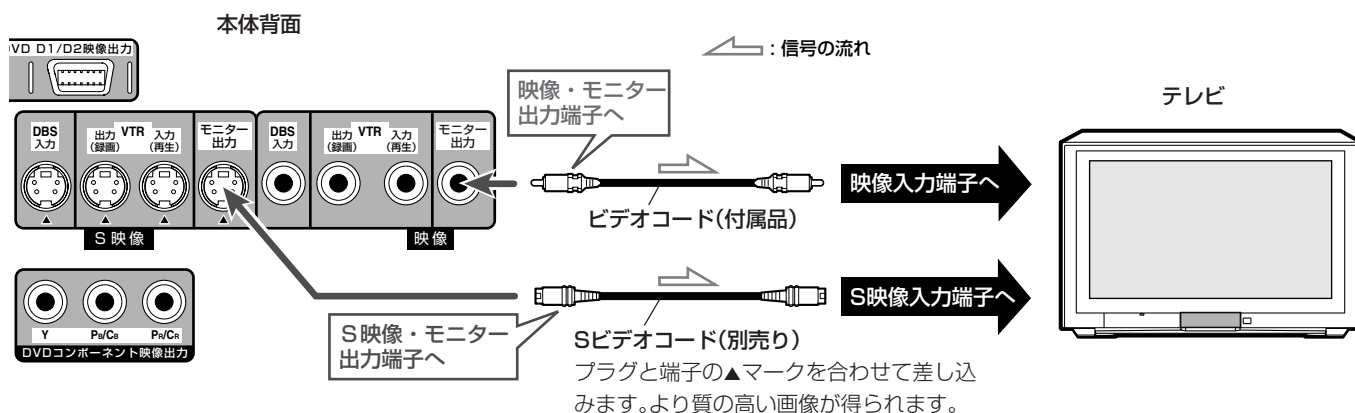
- テレビやモニターの映像端子がBNCタイプのときは、別売りアダプター：VZ-90を使用してください。

D映像端子の種類について

本機のD映像端子はD2信号まで対応します。本機には、D1～D4映像入力を持つテレビを接続できますが、プログレッシブ方式で映像をお楽しみいただくためには、テレビがD2映像入力以上に対応している必要があります。
D映像端子の種類と対応信号の関係は右表のようになっています。

端子の種類	対応する映像信号フォーマット			
	1125i	750p	525p	525i
D4	○	○	○	○
D3	○	―	○	○
D2	―	―	○	○
D1	―	―	―	○

数字の後のアルファベット「p」はプログレッシブ信号を、「i」はインターレース信号を意味します。

■映像入力またはS映像入力端子付のテレビとの接続

S1映像信号について

本機のS映像端子はS1映像信号に対応しています。
S1映像信号は、S映像信号にフルモード(縦長の映像)を自動判別するための識別信号を合わせた信号です。
接続したテレビがこの信号を検知すると、自動的に画面サイズを変更します。

お知らせ

- お手持ちのテレビとの接続が映像端子またはS映像端子のみの場合には、本機のスキャン方式をプログレッシブ方式に切り替えないでください。映像が乱れる場合があります。

他のAV機器を接続する

本機には、次のようなAV機器を接続できます。

• 接続する機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。

オーディオ機器	・MDレコーダー*またはCDレコーダー*	
ビデオ機器	・ビデオデッキ	・BSデジタルチューナー*またはBS/CSチューナー

＊ 音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をおすすめいたします。

アナログ機器との接続

■オーディオ機器の接続

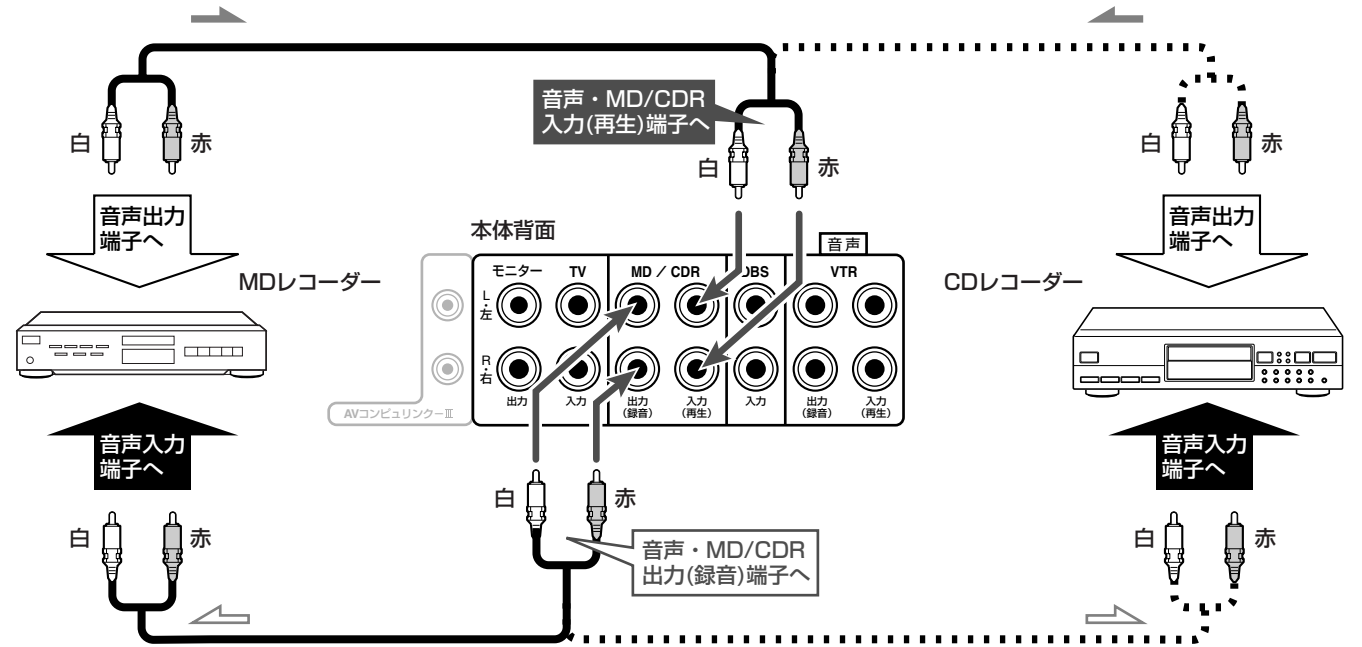
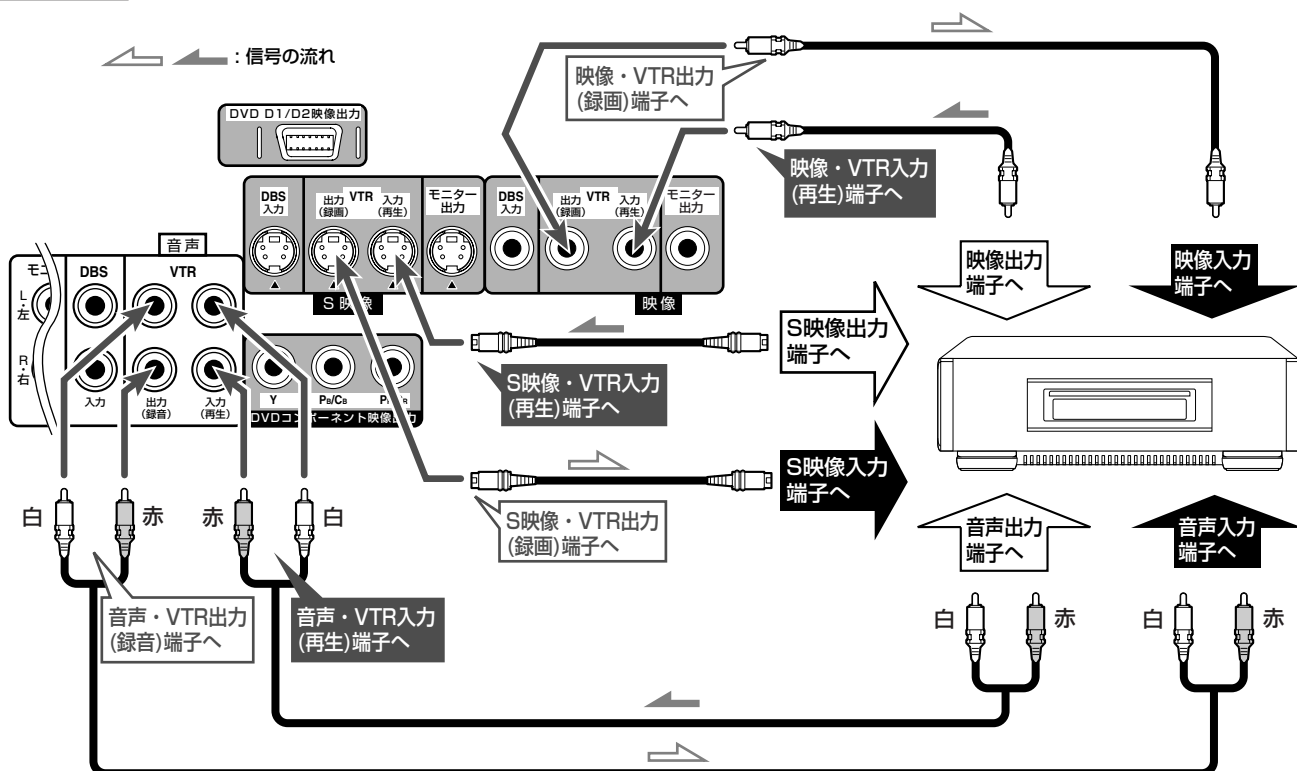
RCAピンプラグ付きコード（別売り）を使って、音声入力端子に接続します。

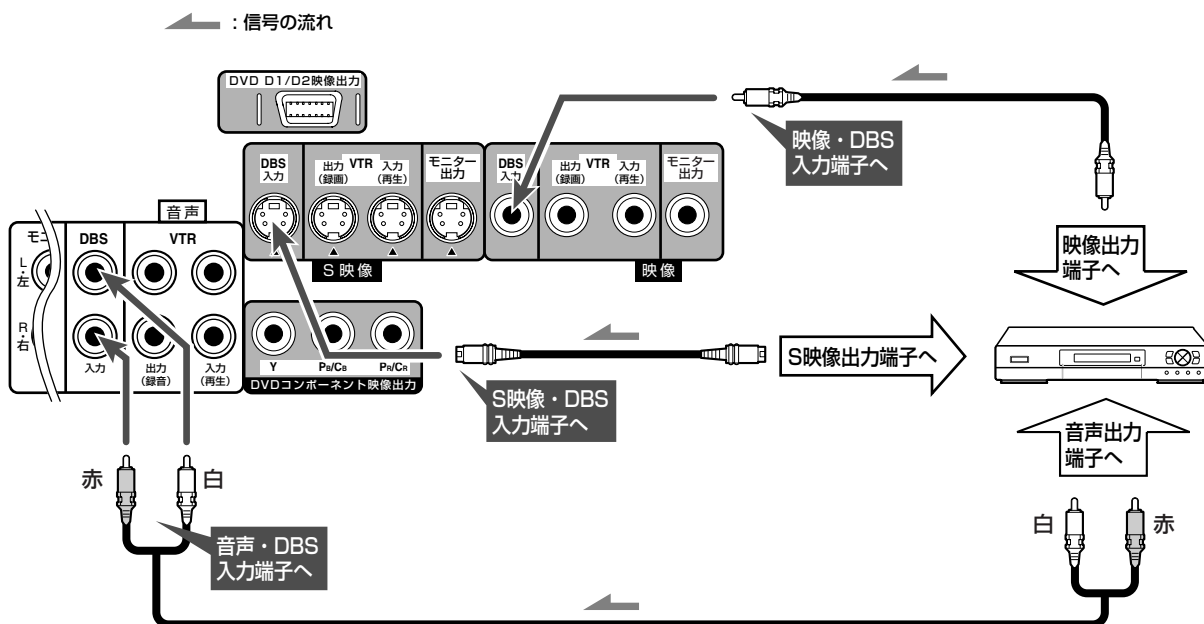
• 赤いプラグの方をR（ライト）・右端子に、白いプラグの方をL（レフト）・左端子に接続します。

MDレコーダーまたはCDレコーダー

MD/CDR端子には、MDレコーダーまたはCDレコーダーを接続することができます。

• 本機では、ソース機器選択ボタンで選んだソース名が表示窓に表示されます。お買い上げ時のソース名は「MD」に設定されています。接続する機器に応じて、ソース名を変更してください。詳しくは「外部入力機器のソース名を変更する」（➡ 36 ページ参照）をご覧ください。

• デジタル接続をするときは、「デジタル機器との接続」（➡ 24 ページ参照）をご覧ください。

ビデオデッキ

BSデジタルチューナーまたはBSチューナー

- デジタル接続をするときは、「デジタル機器との接続」(➡ 24ページ参照)をご覧ください。

お使いになる前に
とりあえず簡単操作
その他の基本操作
DVDを使いこなす
いろいろな設定をする
知っておいてほしいこと

他のAV機器を接続する（つづき）

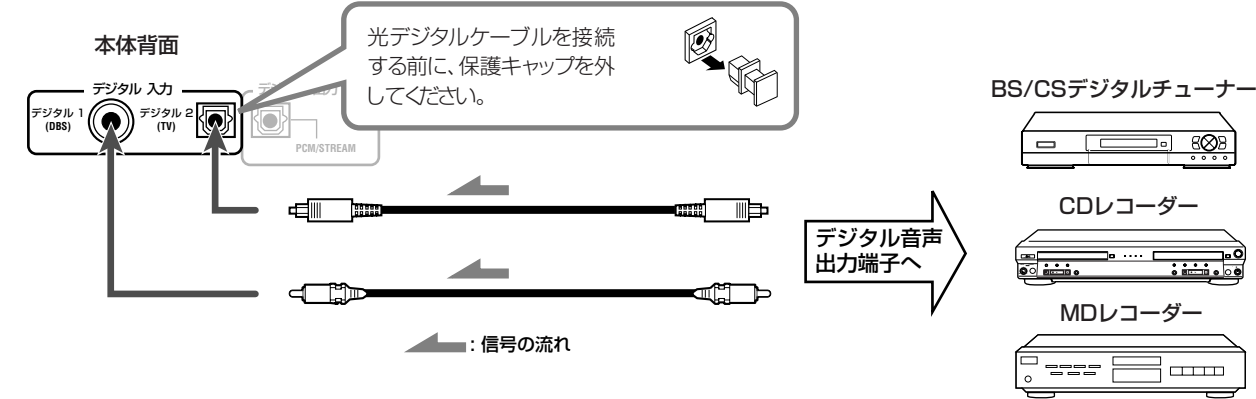
デジタル機器との接続

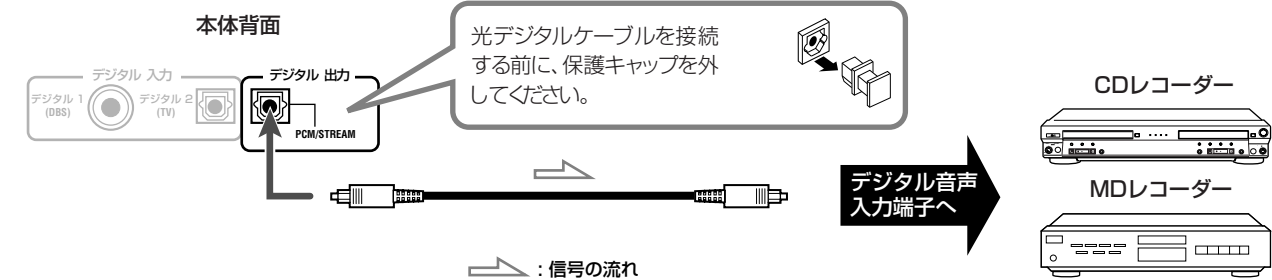
本機には、同軸デジタル入力端子「**デジタル 1(DBS)**」と光デジタル入力端子「**デジタル 2(TV)**」と、光デジタル出力端子「**デジタル出力**」があります。
別売りの同軸デジタルコードまたは光デジタルケーブルを使って、デジタル音声接続をします。

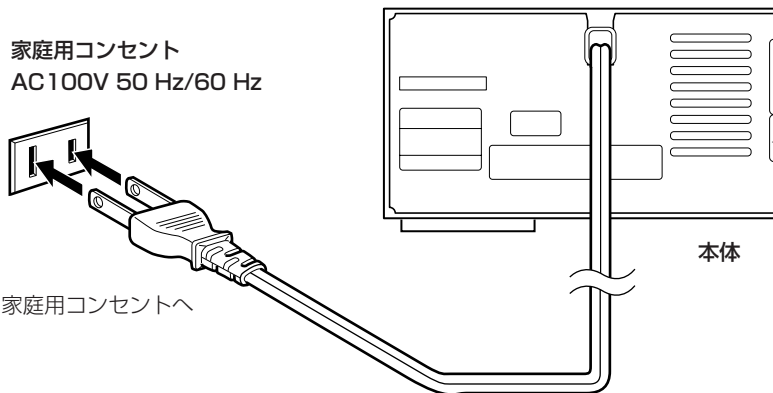
■デジタル入力端子（再生機器）との接続

次のAV機器の音声接続について、デジタル接続をします。

オーディオ機器	・MDレコーダーまたはCDレコーダー	
ビデオ機器	・テレビ	・BS/CSデジタルチューナー

- デジタル入力端子に機器を接続した後に、以下の設定をしてください。
  - 接続した機器名とデジタル入力端子に割り当てられているソース名が合うように設定してください。
    お買い上げ時には、デジタル1端子には「DBS」、デジタル2端子には「TV」がソース名として割り当てられています。
    詳しくは「デジタル入力端子に接続した機器名を変更する」（➡ 40 ページ参照）をご覧ください。
  - 「MD/CDR」に接続したデジタル機器名を正しく設定してください。詳しくは「外部入力機器のソース名を変更する」（➡ 36 ページ参照）をご覧ください。
  - 音声入力としてデジタル入力を選択します。詳しくは「アナログ/デジタルの入力信号を切り替える」（➡ 36 ページ参照）をご覧ください。

■デジタル出力端子（録音機器）との接続

MDレコーダーやCDレコーダーなどを接続してデジタル録音ができます。
また、ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC信号も出力することができますので、外部デコーダーなどを接続することもできます。

電源コードを接続する

接続がすべて終わってから、電源コードを家庭用コンセントに差し込んでください。
電源コードを接続すると、本機のSTANDBY(スタンバイ)ランプが点灯します。

お知らせ

記憶させた放送局や操作の設定、サラウンド効果などの設定は、次のような場合に消去されることがあります。そのようなときは、もう一度設定し直してください。

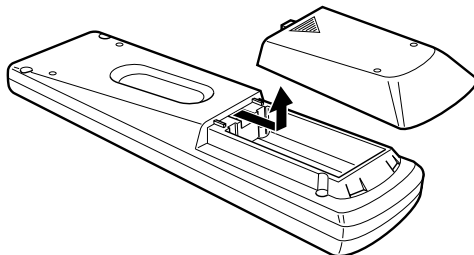
- 電源コードをコンセントから抜いたとき
- 停電が起こったとき

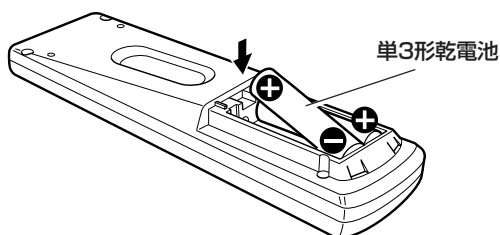
ご注意

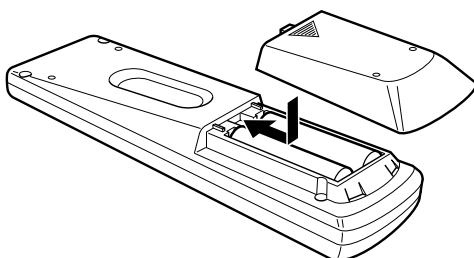
- 電源コードはテレビやビデオデッキ、アンテナ線などから離してください。接近していると雑音が発生したり、映像が乱れたりすることがあります。
- 濡れた手で電源コードを触らないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ずプラグの部分を持って抜いてください。

リモコンを準備する

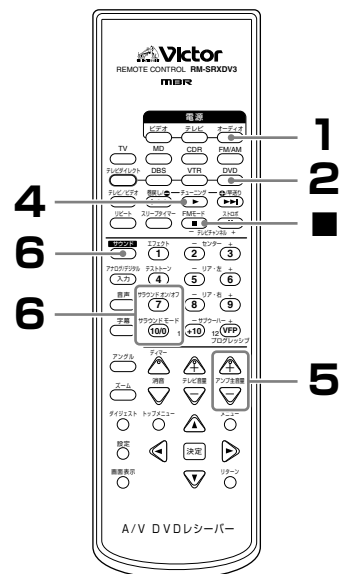
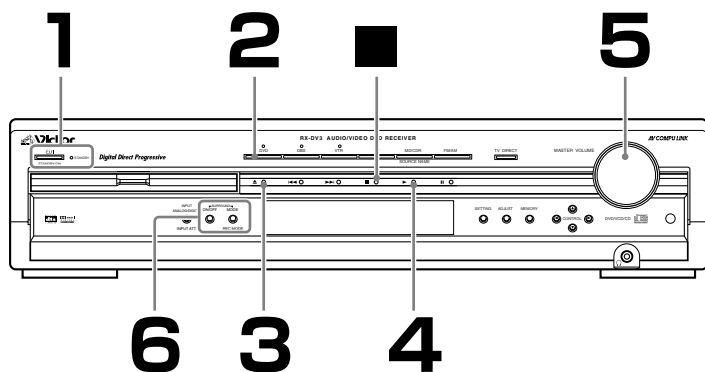
単3形の乾電池を入れます。

1 裏ブタをはずす

2 単3形乾電池を2本入れる

リモコン内部の表示に合わせ、極性（⊕、⊖）を正しく入れます。

3 裏ブタをしめる

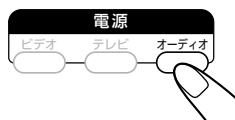
矢印の方向に戻します。

お知らせ

- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて操作します。斜めから使用したり、リモコン受光部との間に障害物等があると、リモコンで操作できないことがあります。
- 操作範囲が狭くなってきたり、本体に近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池が消耗してきています。2本とも同じ種類の新しい単3形乾電池と交換してください。
- 付属の電池は動作確認用です。早目に新しい乾電池と交換してください。
- 充電式電池などは使わないでください。
- 長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。

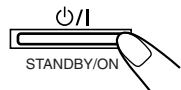
DVDなどのディスクを見る・聞く

ご注意

次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。
- 本機の電源を「入」⟷「切」するとき
- ディスクを再生するとき

1 本機の電源を入れる

リモコン

オーディオ電源ボタンを押します。押すごとに電源が「入」⟷「切」します。

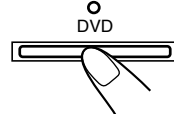
本体

⏻/I STANDBY/ON（スタンバイ/オン）ボタンを押します。押すごとに電源が「入」⟷「切」します。

本体のSTANDBY（スタンバイ）ランプが消灯し、イルミネーションランプが点灯します。
電源を切る前に聞いていたソース（音源）が選ばれ、表示窓に表示されます。

例：最後にDVDを選んでいたとき

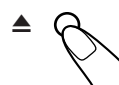
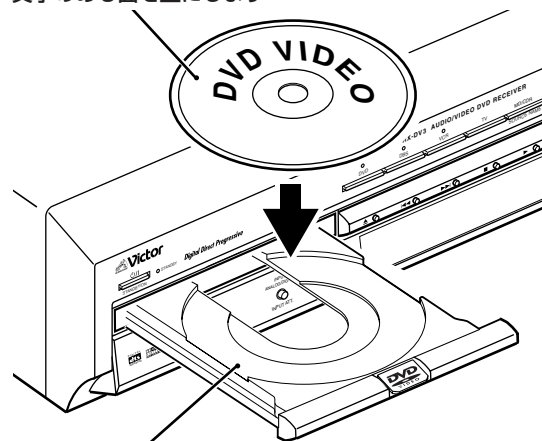
- ►**(再生)**ボタンを押すと、電源が「入」になり、電源を切る前にDVDを選んでいるとソース（音源）がDVDになります。ディスクトレイにディスクが入っているときは、再生が始まります
- ⏏**(開/閉)**ボタンを押すと、電源が「入」になり、ディスクトレイが出てきます。

2 DVDをソース（音源）に選ぶ

DVDボタンを押します。

- DVDやビデオCDの映像ソフトをご覧になるときは、テレビの電源を入れ、テレビ側で正しい映像入力を選んでください。

3 ディスクを入れる

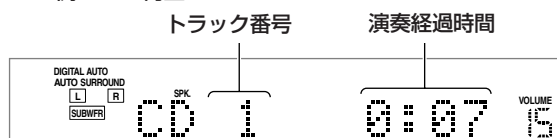
本体のみ

① ⏏**(開/閉)**ボタンを押す。
ディスクトレイが出てきます。

② ディスクを入れる。
- 8センチディスクは、中央の凹部に置きます。

4 ディスクを再生する

►(再生)ボタンを押します。

ディスクトレイが閉まり表示窓に「READING(リーディング)」と表示され、その後再生が始まります。

例:DVD(ドルビーデジタル5.1ch)を再生したとき

例:CDを再生したとき

より詳しいディスク操作については、以下のページをご覧ください。

- DVDビデオ/ビデオCD/オーディオCD
  ➡ 54 〜 77 ページ参照
- MP3/JPEGディスク
  ➡ 78 〜 81 ページ参照

DVDビデオやビデオCDの再生を始めると、テレビ画面にメニューが表示されることがあります。このときは、「メニューから再生する」(➡ 58 59 ページ参照)をご覧ください。

5 音量を調節する

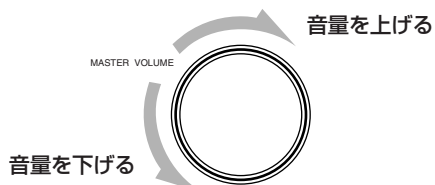
リモコン

アンプ主音量+/ーボタンを押します。

音量を上げる

音量を下げる

本体

MASTER VOLUME(マスター ボリューム)つまみを回します。

音量レベルは、0(消音)〜50までの範囲で調節できます。

6 サラウンドを使う

本機では、最大6つのスピーカーを使用して、本格的なサラウンドをお楽しみいただけます。

オートサラウンドを「ON」に設定しているときは、マルチチャンネル音声信号に対応して自動的にサラウンドが「**入**」になります。

詳しくは「オートサラウンドを設定する」(➡ 41 ページ参照)、「サラウンドを使う」(➡ 50 〜 53 ページ参照)をご覧ください。

- **手動でサラウンドを「入」⟷「切」するには**

  リモコン

  サウンドボタン*を押してから、**サラウンドオン/オフ**ボタンを押します。

  本体

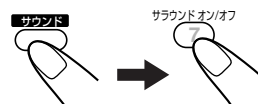
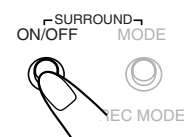
  SURROUND(サラウンド) ON/OFF(オン/オフ)ボタンを押します。

- **別のサラウンドモードを選ぶには**

  サラウンドが「**入**」のときに

  リモコン

  サウンドボタン*を押してから、**サラウンドモード**ボタンを押します。

  本体

  SURROUND(サラウンド) MODE(モード)ボタンを押します。

* **サウンド**ボタンを押すと、数字ボタンが音量や音質調節のために働くようになります。数字ボタンとしてお使いのときは、DVDボタンを押してからお使いください。

再生を止めるには

■**(停止)**ボタンを押します。
本機では、停止位置を記憶させて、そこから再生を続けることができます(リジューム再生)。詳しくは、55 ページをご覧ください。
再生を完全に止めるには、もう一度■**(停止)**ボタンを押します。

ディスクを取り出すには

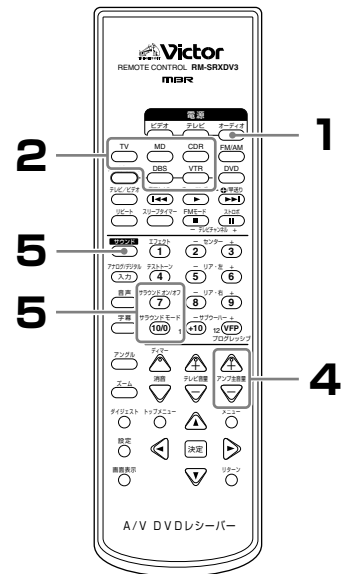
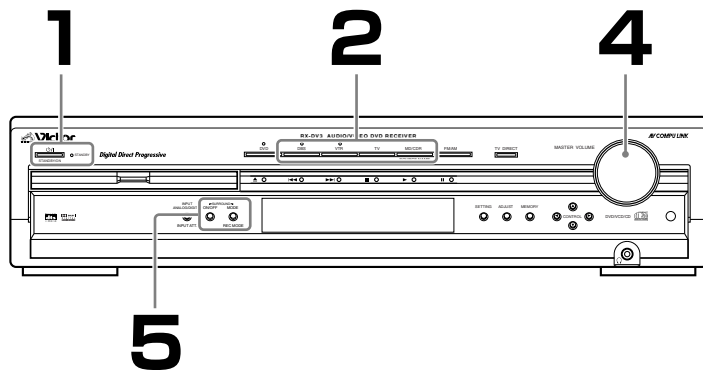
本体の▲**(開/閉)**ボタンを押します。
ディスクトレイが出てきます。
ディスクを取り出したら、もう一度▲**(開/閉)**ボタンを押して、ディスクトレイを閉めます。

電源を切るには

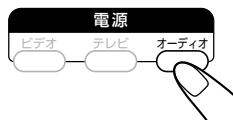
リモコンの**オーディオ電源**ボタンまたは本体の⏻/I STANDBY(スタンバイ)/ON(オン)ボタンを押します。
本体のイルミネーションランプが消灯し、STANDBYランプが点灯します。

- テレビの電源も忘れずに切ってください。

他のAV機器からの音声を聞く

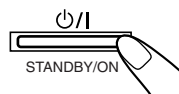
ご注意

次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。

- 本機や接続したAV機器の電源を「**入**」⟷「**切**」するとき
- 再生する機器を選ぶとき

1 本機の電源を入れる

リモコン

オーディオ電源ボタンを押します。押すごとに電源が「**入**」⟷「**切**」します。

本体

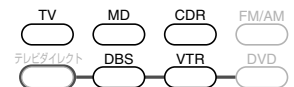
⏻/I STANDBY(スタンバイ)/ON(オン)ボタンを押します。押すごとに電源が「**入**」⟷「**切**」します。

本体のSTANDBY(スタンバイ)ランプが消灯し、イルミネーションランプが点灯します。
電源を切る前に聞いていたソース(音源)が選ばれ、表示窓に表示されます。

例：最後にFM放送を選んでいたとき

ANALOG L R FM 76.00 MHz AUTO MUTING VOLUME 15

2 外部接続したAV機器を選ぶ

リモコン

ソース機器選択ボタンを押します。

本体

ソース機器選択ボタンを押します。

表示窓にソース名が表示されます。特に、デジタル入力が選ばれているソース機器のときには、ソース名の後に「DIGITAL」と表示されます。

- TV　：テレビを選びます。
- MD*　：MDを選びます（本体では、**MD/CDR**）。
- CDR*　：CDRを選びます（本体では、**MD/CDR**）。
- DBS　：BSデジタルチューナーまたはBS/CSチューナーを選びます。
- VTR　：ビデオデッキを選びます。

* ソース名が割り当てられていないときは、リモコンのMDボタンまたはCDRボタンは働きません。詳しくは「外部入力機器のソース名を変更する」（➡ 36 ページ参照）をご覧ください。

- DVDボタンとFM/AMボタンは内蔵のDVDプレーヤーまたはラジオを選ぶときに使います。

ご注意

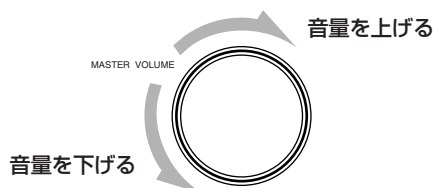
- 本体のデジタル入力端子にデジタル機器を接続しているときは、あらかじめ接続した機器名とデジタル入力端子に割り当てられているソース名が合うように設定してください。詳しくは「デジタル入力端子に接続した機器名を変更する」（➡ 40 ページ参照）をご覧ください。

3 外部接続したAV機器を再生する

外部機器を操作するときは、それぞれの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

4 音量を調節する

リモコン
アンプ主音量＋/－ボタンを押します。

本体
MASTER VOLUME（マスター ボリューム）つまみを回します。

音量レベルは、0（消音）～50までの範囲で調節できます。

5 サラウンドを使う

オートサラウンドを「ON」に設定しているときは、マルチチャンネル音声信号に対応して自動的にサラウンドが「**入**」になります。

詳しくは「オートサラウンドを設定する」（➡ 41 ページ参照）、「サラウンドを使う」（➡ 50～ 53ページ参照）をご覧ください。

● **手動でサラウンドを「入」⟷「切」するには**

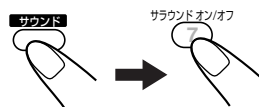
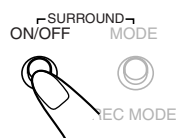
リモコン
サウンドボタン*を押してから、**サラウンドオン/オフ**ボタンを押します。

本体
SURROUND ON/OFF（サラウンド オン/オフ）ボタンを押します。

● **別のサラウンドモードを選ぶには**

サラウンドが「**入**」のときに

リモコン
サウンドボタン*を押してから、**サラウンドモード**ボタンを押します。

本体
SURROUND MODE（サラウンド モード）ボタンを押します。

* **サウンド**ボタンを押すと、数字ボタンが音量や音質調節のために働くようになります。数字ボタンとしてお使いのときは、外部機器のソース選択ボタンを押してからお使いください。

電源を切るには

リモコンの**オーディオ電源**ボタンまたは本体の⏻/I STANDBY/ON（スタンバイ/オン）ボタンを押します。
本体のイルミネーションランプが消灯し、STANDBYランプが点灯します。

- 外部機器の電源も忘れずに切ってください。

本機のリモコンでAV機器を操作する

本機のリモコンを使って、さまざまなAV機器を操作することができます（➡ 94 95ページ参照）。

- 他メーカーのAV機器を操作するには、あらかじめメーカー設定をしておきます。詳しくは、96ページをご覧ください。
- AV機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。
- 操作したい機器のリモコン受光部に向けて、リモコンをお使いください。

● **ビデオデッキを操作するボタン**

ビクター製のビデオデッキには、「A」「B」など複数のリモコンコードを使えるものがあります。本機のリモコンを使うときは、ビデオデッキ側のリモコンコードを「A」に設定してください。

ビデオ電源　：ビデオデッキの電源を「**入**」⟷「**切**」します。

VTRボタンを押した後に、次の操作ができるようになります。

▶（再生）　：再生を始めます。
⏮◀◀ 巻戻し　：テープを巻き戻します。
▶▶⏭ 早送り　：テープを早送りします。
■（停止）　：録画や再生を停止します。
❚❚（一時停止）　：録画や再生を一時停止します。解除するには、**▶（再生）**ボタンを押します。
1～9、0　：ビデオデッキの受信チャンネルを選びます。

● **テレビを操作するボタン**

テレビ電源　：テレビの電源を「**入**」⟷「**切**」します。

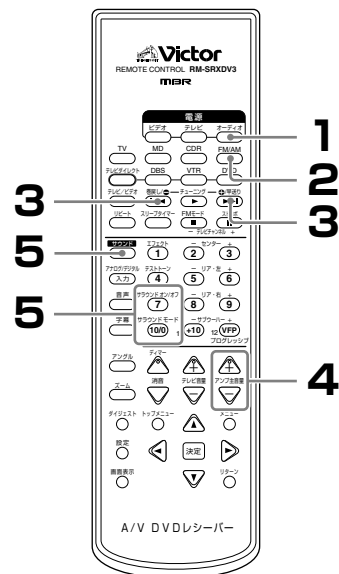
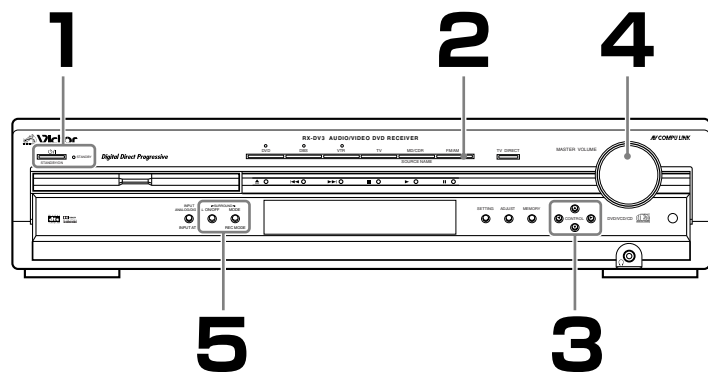
TVボタンを押した後に、次の操作ができるようになります。

テレビ音量＋/－　：テレビの音量を調節します。
テレビ/ビデオ　：テレビの映像入力を切り替えます。
テレビチャンネル＋/－、1～12　：テレビの受信チャンネルを選びます。

● **MDレコーダー/CDレコーダーを操作するボタン**

MDボタンまたは**CDR**ボタンを押した後に、次の操作ができるようになります。

▶（再生）　：演奏を始めます。
⏮◀◀　：前のトラックまたは現在演奏中のトラックの頭出しをします。
▶▶⏭　：次のトラックの頭出しをします。
■（停止）　：録音や演奏を停止します。
❚❚（一時停止）　：録音や演奏を一時停止します。解除するには、**▶（再生）**ボタンを押します。
1～10、+10　：トラックを選択します。

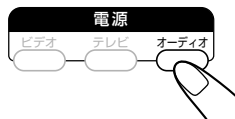
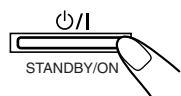
ラジオ(FM放送/AM放送)を聞く

ご注意

次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。
- 本機の電源を「入」⟷「切」するとき
- 放送局を選ぶとき

1 本機の電源を入れる

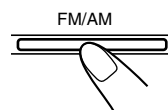
リモコン

オーディオ電源ボタンを押します。押すごとに電源が「入」⟷「切」します。

本体

⏻/I STANDBY/ONボタンを押します。押すごとに電源が「入」⟷「切」します。

本体のSTANDBYランプが消灯し、イルミネーションランプが点灯します。
電源を切る前に聞いていたソース(音源)が選ばれ、表示窓に表示されます。

例:最後にTVを選んでいたとき

2 FM放送またはAM放送を選ぶ

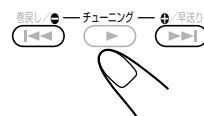
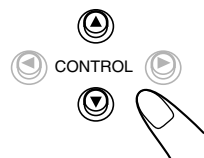
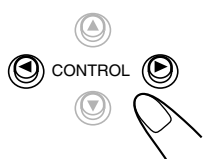
FM/AMボタンを押します。

- 押すごとに、FM放送とAM放送が交互に切り替わります。

例:FM放送を選んだとき

3 聞きたい放送局を選ぶ

リモコン

チューニング⊕ボタンまたは**チューニング⊖**ボタンをくり返し押して、聞きたい放送局を選びます。

本体

① CONTROL▲ボタンまたはCONTROL▼ボタンをくり返し押して、「TUNING」を表示させます。

② CONTROL◄ボタンまたはCONTROL►ボタンをくり返し押して、聞きたい放送局を選びます。

4 音量を調節する

リモコン
アンプ主音量＋/ーボタンを押します。

本体
MASTER VOLUMEつまみを回します。

音量を上げる
MASTER VOLUME
音量を下げる

音量レベルは、0（消音）〜50までの範囲で調節できます。

5 サラウンドを使う

詳しくは「サラウンドを使う」（➡ 50 〜 53 ページ参照）をご覧ください。

● **サラウンドを「入」⟺「切」するには**

リモコン
サウンドボタン*を押してから、**サラウンドオン/オフ**ボタンを押します。

本体
SURROUND ON/OFFボタンを押します。

● **別のサラウンドモードを選ぶには**
サラウンドが「**入**」のときに

リモコン
サウンドボタン*を押してから、**サラウンドモード**ボタンを押します。

本体
SURROUND MODEボタンを押します。

* **サウンド**ボタンを押すと、数字ボタンが音量や音質調節のために働くようになります。数字ボタンとしてお使いのときは、FM/AMボタンを押してからお使いください。

電源を切るには

リモコンの**オーディオ電源**ボタンまたは本体の⏻/I STANDBY/ONボタンを押します。
本体のイルミネーションランプが消灯し、STANDBYランプが点灯します。

受信表示について

放送を受信するとTUNED表示が点灯します。FMステレオ放送を受信するとSTEREO表示も点灯します。

選局について

オート選局
チューニング＋ボタンまたは**チューニング－**ボタン（本体ではCONTROL◀ボタンまたはCONTROL▶ボタン）を押し続け、表示窓の周波数表示が変わりだしたら指を離します。放送局を受信すると自動で周波数が停止します。

マニュアル選局
チューニング＋ボタンまたは**チューニング－**ボタン（本体ではCONTROL◀ボタンまたはCONTROL▶ボタン）を「ポン・ポン」と押します。押すごとにFM放送は0.05MHz（50kHz）ずつ、AM放送は9kHzずつ変わります。

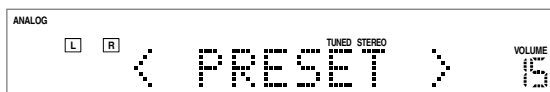
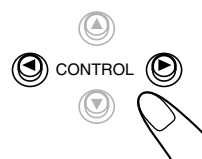
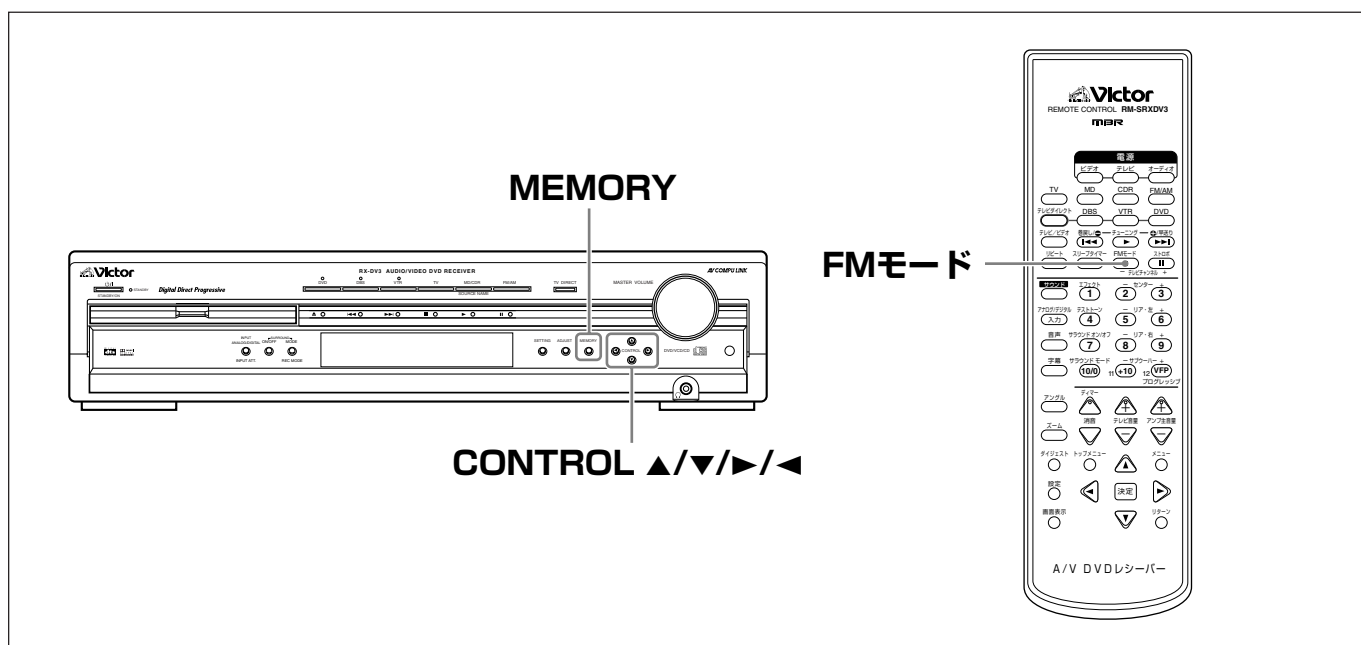
FM放送	0.05MHzずつ	：76.00MHz〜108.00MHz
AM放送	9kHzずつ	：531kHz〜1629kHz

● **放送局を記憶させてあるときは、プリセット番号で放送局を選ぶことができます（プリセット選局）。**

• 放送局の記憶の手順は、「放送局を記憶させる」（➡ 32 ページ参照）をご覧ください。

リモコン
数字ボタンを押してプリセット番号を選びます。
例）プリセット番号「5」を選ぶには：
5 を押します。
プリセット番号「15」を選ぶには：
+10 ➡ 5 と押します。
プリセット番号「20」を選ぶには：
+10 ➡ 10/0 と押します。
プリセット番号「30」を選ぶには：
+10 ➡ +10 ➡ 10/0 と押します。

エフェクト　ー センター ＋
1 2 3
テストトーン　ー リア・左 ＋
4 5 6
サラウンド オン/オフ　ー リア・右 ＋
7 8 9
サラウンド モード　ー サブウーハー ＋
10/0 11 +10 12 VFP
プログレッシブ

本体
① CONTROL▲ボタンまたはCONTROL▼ボタンをくり返し押して「PRESET」を表示させます。

② CONTROL◀ボタンまたはCONTROL▶ボタンをくり返し押して聞きたい放送局のプリセット番号を選びます。

ラジオ(FM放送/AM放送)を聞く(つづき)

放送局を記憶させる(本体のみ)

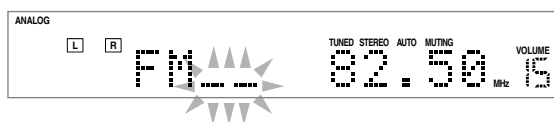
一度放送局を記憶させておくと、次からは簡単に放送局を選ぶことができます。
FM放送を30局、AM放送を15局まで記憶させることができます。

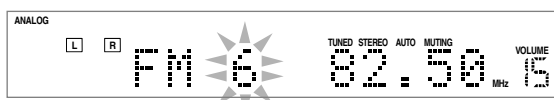
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**2**からやり直してください。

1 記憶させたい放送局を選ぶ (➡ 30 31ページ参照)

FM放送局を記憶させるときには、FM受信モード(➡ 33ページ参照)も同時に記憶させることができます。

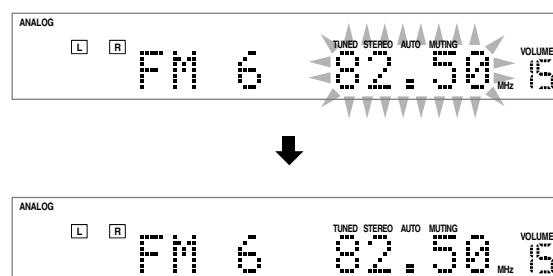
2 MEMORY(メモリー)ボタンを押す

プリセット番号の表示位置「_ _」が約5秒間点滅します。

3 「__ __」が点滅している間に、CONTROL(コントロール) ►(または◄)ボタンをくり返し押してプリセット番号を選ぶ

例:プリセット番号6を選んだとき

プリセット番号を選ぶと、選んだ番号が点滅します。

4 プリセット番号が点滅している間に、もう一度MEMORYボタンを押す

MEMORY

プリセット番号の点滅が止まり、周波数が数回点滅します。周波数の点滅中にCONTROL ►(または ◄)ボタンで選局し、続けて放送局を記憶させることができます。

5 手順1〜4をくり返して他の放送局も記憶させる

- **記憶させた放送局を削除するには**
  同じプリセット番号に新しい放送局を記憶させると、もとの放送局の記憶は消えます。

FM受信モードを設定する(FMモード)

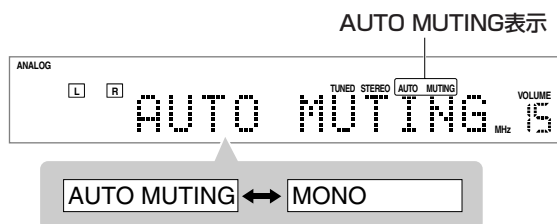
FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときは、FM受信モードを変更してください。
• FM受信モードは放送局ごとに記憶させることができます。

本体

1 **FM放送を受信中に、CONTROL ▲(または ▼)ボタンをくり返し押して「FM MODE」を表示させる**

・途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

2 **CONTROL ►(または ◄)ボタンを押して「MONO」を選ぶ**

押すごとに、FM受信モードが次のように変わります。

AUTO MUTING表示

AUTO MUTING ⟷ MONO

AUTO MUTING	：通常はこれを選びます。ステレオ放送のときはステレオで、モノラル放送のときはモノラルで聞こえます。このモードにすると選局中の「サー」という雑音を消すことができます。AUTO MUTING表示が点灯します。 [お買い上げ時の設定]
MONO	：FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときに選びます。音声がモノラルになります。AUTO MUTING表示が消灯します。

● **ステレオ音声に戻すには**
手順**2**で、「AUTO MUTING」を選びます。

リモコン

1 **FM/AMボタンを押して、FM放送を受信する**

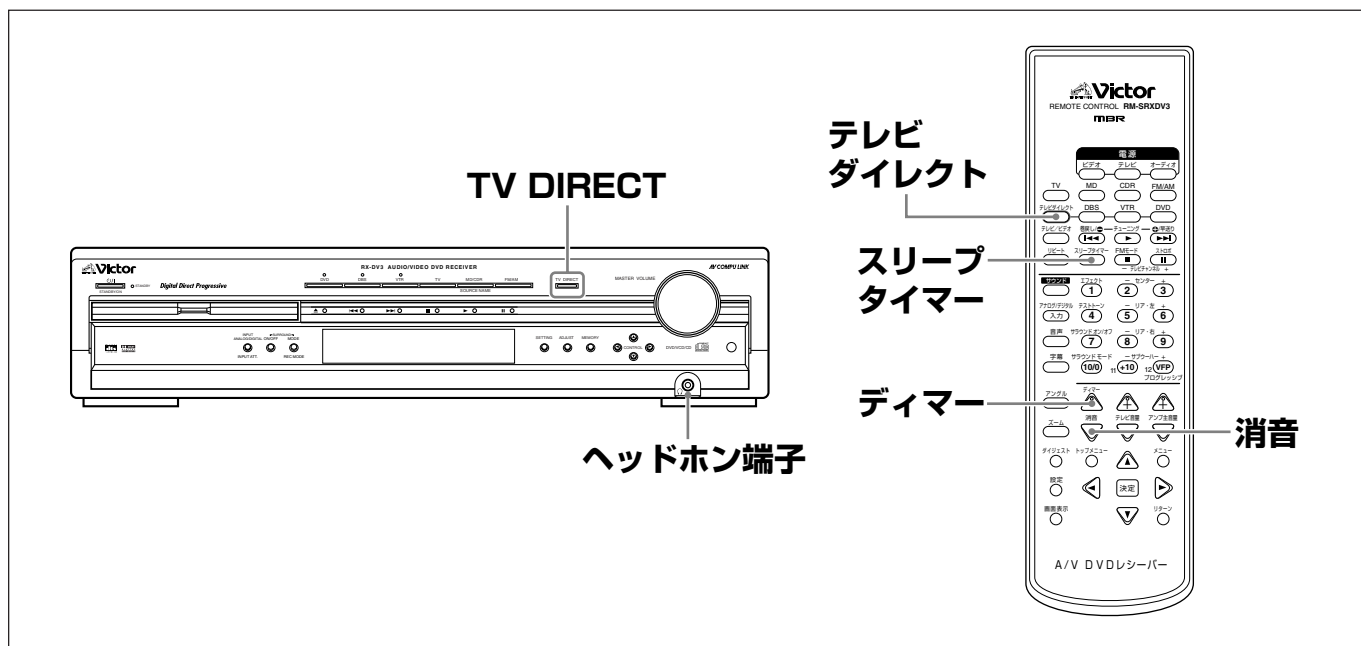
2 **お好みの放送局を選ぶ**

放送局の選び方は、30 31ページをご覧ください。

3 **FMモードボタンを押す**

押すごとに、本体表示窓にFM受信モードが「AUTO MUTING」⟷「MONO」と表示されます。

各モードについての詳細は、左の説明をご覧ください。

便利な機能を使う

ヘッドホンで楽しむ

本体ヘッドホン端子にヘッドホンを差し込むと自動的にヘッドホンモードになり、スピーカーからの音声は出力されなくなります。
表示窓に「HEADPHONE（ヘッドホン）」と表示されます。

- サラウンドをお使いのときは、サラウンドはキャンセルされます。また、マルチチャンネルソースをお楽しみの場合には、フロントスピーカーチャンネル以外の音声信号はアナログ2チャンネル信号へと自動的にダウンミックスされ、左右のヘッドホンに振り分けられて再生されます。

ご注意

- ヘッドホンをつけるときや、ヘッドホンのプラグを抜き差しするときは、必ず音量（ボリューム）を最小にしてから行ってください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となったり、スピーカーを破損することがあります。

一時的に音を消す（消音）

電話がかかってきたときなど、音を一時的に消すときに便利です。

リモコンのみ

消音ボタンを押します。

表示窓のVOLUME表示が消えて「MUTING（ミューティング）」と表示されます。
スピーカーとヘッドホンからの音が聞こえなくなります。

DIGITAL AUTO
L R SPK.
MUTING

- **もとの音量に戻すには**
  消音ボタンを押します。

表示窓の明るさを変える（ディマー）

映画ソフトなどをご覧になるときなど、表示窓の明るさを変えたいときに使います。

リモコンのみ

ディマーボタンを押します。

ボタンを押すごとに、表示窓とイルミネーションランプの明るさが次のように変化します。

ふだんの明るさ ⟷ 暗い

おやすみタイマーを使う（スリープタイマー）

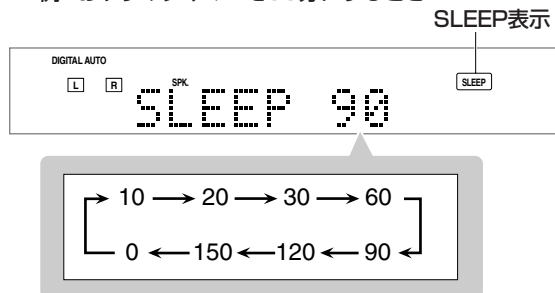
おやすみタイマーを使うと、設定した時間に本機の電源が自動的に「**切**」になります。音楽を聞きながら眠りたい、そんなときにお使いください。

リモコンのみ

スリープタイマーボタンを押して電源が「**切**」になるまでの時間を設定します。
おやすみタイマーの動作中は、SLEEP表示が点灯します。
ボタンを押すごとに、設定時間（分）が次のように切り替わります。

例：おやすみタイマーを90分にするとき

SLEEP表示

SLEEP 90

設定した時間が経過すると、自動的に電源が「**切**」になります。

● **電源が「切」になるまでの時間を確かめたり、設定時間を変えるには**
おやすみタイマーを設定後に**スリープタイマー**ボタンを1回押すと、電源が「**切**」になるまでの残り時間が表示されます。
設定時間を変更するときは、**スリープタイマー**ボタンをくり返し押して希望の時間を選び直します。

● **おやすみタイマーを解除するには**
スリープタイマーボタンをくり返し押して「**0**」を表示させます。おやすみタイマーが解除され、SLEEP表示は消灯します。
• リモコンまたは本体を使って電源を「**切**」にしたときも、おやすみタイマーは解除されます。

お知らせ

• 内蔵DVDプレーヤーをソース（音源）として選んでいるときは、オートスタンバイ機能によって、おやすみタイマーの設定時間より先に電源が「切」になるときがあります。
詳しくは、89ページをご覧ください。

テレビダイレクトを使う（テレビダイレクト）

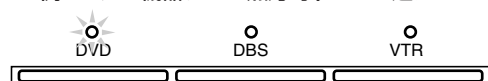
本機の電源を「**入**」にすることなく、本機を単体のDVDプレーヤーやAVセレクターとして使うことができます。
テレビダイレクト時には、内蔵のDVDプレーヤーと、接続したビデオ機器からの音と映像を、本機に接続したテレビでお楽しみいただけます。また、内蔵DVDプレーヤーの操作とビデオ機器（DVD、DBS、VTR）のソース切り替えができます。
• 本機とビデオ機器の接続によっては、テレビから音声が聞こえないことがあります。詳しくは下記の「お知らせ」をご覧ください。
• 本機とビデオ機器はアナログ音声コードで接続してください。

リモコン

テレビダイレクトボタンを押します。

本体

TV DIRECT（テレビダイレクト）ボタンを押します。
前回選択したビデオ機器にソース（音源）が切り替わり、本体のビデオ機器ランプが点灯します。

例：ビデオ機器ランプ点灯時（DVDを選んでいたとき）

内蔵DVDプレーヤーまたは接続したビデオ機器で再生を始め、テレビでお楽しみください。
マルチチャンネルソースをお楽しみの場合には、フロントスピーカーチャンネル以外の音声信号はアナログ2チャンネル信号へと自動的にダウンミックスされます。

● **ソース（音源）がDVDのときには**
内蔵DVDプレーヤーをソース（音源）として選んでいるときには、本体のDVDプレーヤー操作ボタンを使うことができます。リモコンを使えば、DVDメニュー操作などより多くの操作ができます。

テレビダイレクトをやめるには

本機の電源を「**入**」にするには･･･
リモコンの**テレビダイレクト**ボタンまたは本体の**TV DIRECT**ボタンを押します。

本機の電源を「**切**」にするには･･･
リモコンの**オーディオ電源**ボタンまたは本体の⏻/I **STANDBY/ON**（スタンバイ/オン）ボタンを押します。

お知らせ

• すべてのビデオソース（内蔵DVDプレーヤー、ビデオデッキ、BS/CSチューナーなど）をテレビダイレクトでお楽しみいただくためには以下のことを行ってください。内蔵DVDプレーヤーのみをお使いのときは、「テレビを接続する」（➡ 19～21ページ参照）にしたがって接続してください。
– ビデオ機器とテレビを、同じ種類の接続コード（ビデオコードまたはSビデオコード）を使って本機に接続する
– テレビへの音声入力接続と映像入力接続は、同じビデオ入力に接続する
– 映像出力の設定（➡ 40ページ参照）で、お使いの接続コードの種類を設定する
– スキャン方式の設定（➡ 38ページ参照）で、インターレース方式を選ぶ

外部入力機器のソース名を変更する

本体の**MD/CDR**ボタンには、接続した機器と一致するように機器名を割り当てることができます。

MD/CDR端子にMDプレーヤー/レコーダーを接続したときは「MD」を割り当て、CDレコーダーを接続したときは「CDR」を割り当てます。

- お買い上げ時の設定は、「MD」です。

本体のみ

ソース(音源)がMDまたはCDRのときに、**SOURCE NAME**(ソース ネーム)ボタンを押し続けます。

ソース名が「MD」から「CDR」に変更されたときは、本体表示窓に「ASSGN.(アサイン)* CDR」と表示され、「CDR」から「MD」に変更されたときは、「ASSGN.MD」と表示されます。

* ASSGNは「ASSIGNMENT」の略で「割り当て」という意味です。

お知らせ

- ソース名の変更をしなくても接続した機器の再生はできますが、次の点で不便になります。
  - 接続した機器名と異なるソース名が本体表示窓に表示される
  - リモコンのソース機器選択ボタンでソース(音源)の切り替えをするとき、接続した機器名のボタンが働かない
  - デジタル入力端子の機器名を設定するとき(➡ 40 ページ参照)に接続した機器名が表示されない

アナログ/デジタルの入力信号を切り替える(アナログ/デジタル入力)

テレビ、BSデジタルチューナー、MDレコーダーなどデジタル接続が可能な外部機器を使うときは、アナログ入力とデジタル入力のどちらで聞くかを選ぶことができます。

- デジタル入力を選ぶときは「デジタル入力端子に接続した機器名を変更する」(➡ 40 ページ参照)での設定が必要です。
- アナログ入力/デジタル入力設定は、ソース(音源)ごとに記憶されます。
- ソース(音源)がDVDのときにはアナログ/デジタルの入力信号の切り替えはできません。

リモコン

アナログ/デジタル入力ボタンを押します。

本体

INPUT ANALOG/DIGITAL(インプット アナログ/デジタル)ボタンを押します。
ボタンを押すごとに次のように入力が切り替わります。

DGTL(Digital)(デジタル) AUTO(オート)	:デジタル音声を聞くときに選びます。DIGITAL AUTO表示が点灯します。
ANALOG(アナログ)	:アナログ音声を聞くときに選びます。ANALOG表示が点灯します。

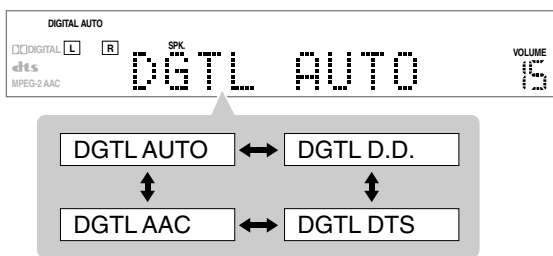
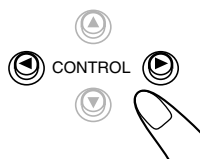
手動でデジタル入力信号フォーマットを切り替える

アナログ/デジタル入力切り替えで「DGTL AUTO」を選んでいるときに、デジタル信号が正しく判別できないことがあります。このようなときに、手動でデジタル入力信号フォーマットを切り替えることができます。

- デジタル信号フォーマットは、電源を切ったり、ソース機器選択ボタンで別の入力機器を選んだときは、「DGTL AUTO」に戻ります。
- ソースがＤＶＤのときには、リモコンでもデジタル信号フォーマットを切り替えることができます。

本体

① INPUT ANALOG/DIGITALボタンを押して、「DGTL AUTO」を選びます。

② CONTROL►(または◄)ボタンをくり返し押してデジタル信号フォーマットを選びます。
ボタンを押すごとに、デジタル信号フォーマットが次のように切り替わります。

DGTL D.D.	：ドルビーデジタル対応信号を聞きたいときに選びます。 DIGITAL表示が点灯します。
DGTL DTS	：DTSデジタルサラウンド対応信号を聞きたいときに選びます。 dts表示が点灯します。
DGTL AAC	：MPEG-2 AAC対応信号を聞きたいときに選びます。 MPEG-2 AAC表示が点灯します。 ソース(音源)がDVDのときは選べません。
DGTL AUTO	：デジタル信号を自動判別するときに選びます。 DIGITAL AUTO表示が点灯します。

リモコン　(ソースがDVDのときのみ)

アナログ/デジタル入力ボタンをくり返し押します。

デジタル信号が正しく判別できないとき

表示窓の「DGTL AUTO」表示や、現在選択中のデジタル信号フォーマットに対応する表示が点滅します。

お知らせ

- BSデジタルチューナーのデジタル音声信号が、リニアPCMからMPEG-2 AACに切り替わったときに、ノイズが発生することがあります。BSデジタルチューナーの設定を切り替えるときは、本機の音量(ボリューム)を最小にしてください。
- BSデジタルチューナーのデジタル音声信号の設定については、BSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

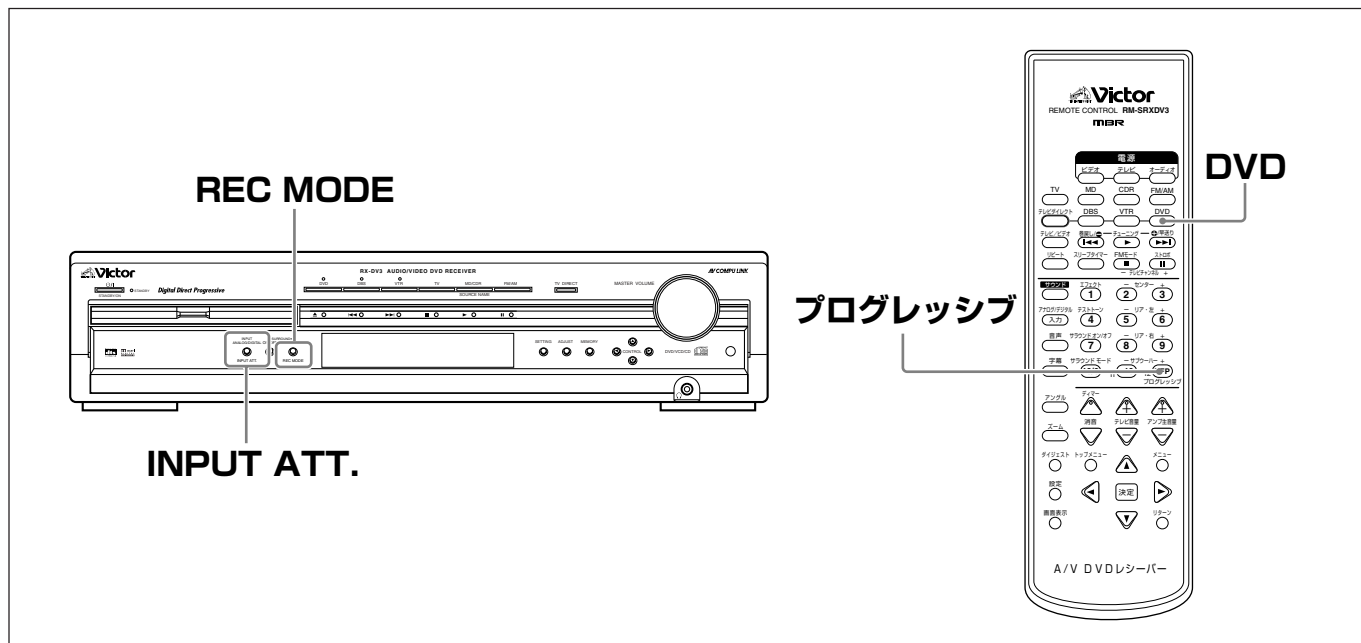
DGTL AUTOについて

入力されたデジタル信号フォーマットを自動判別して、切り替わります。DIGITAL AUTO表示が点灯します。
本機で表示されるデジタル信号フォーマットは次の3つです。

- DIGITAL ： 入力された信号がドルビーデジタル対応信号のとき点灯します。
- dts ： 入力された信号がDTSデジタルサラウンド対応信号のとき点灯します。
- MPEG-2 AAC ： 入力された信号がMPEG-2 AAC対応信号のとき点灯します。

これらが点灯していないときは、CDなどの通常のオーディオ2チャンネル信号(リニアPCM)として判別しています。

お知らせ

- デジタル入力端子に割り当てられているソース名が接続した機器名と合わないときは、デジタル入力に切り替えることはできません。接続した機器名を正しくデジタル入力端子に割り当ててください。詳しくは「デジタル入力端子に接続した機器名を変更する」(➡ 40ページ参照)をご覧ください。

アナログ入力信号を調節する(INPUT ATT.)

アナログ入力時にソースの信号が大きく、音がひずんでしまうときに使います。

本体のみ

INPUT ATT.（インプット アッテネーター）ボタンを2秒間以上押し続けます。
ボタンを長く押すごとに、次のように切り替わります。

ATT NORMAL（ノーマル）	：通常はこちらを選びます。アナログ入力信号は調節されません。[お買い上げ時の設定]
ATT ON	：アナログ音声がひずんでしまうとき、こちらを選びます。入力信号は調節され減衰します。表示窓に「INPUT（インプット） ATT」表示が点灯します。

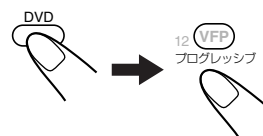
- ATTは「ATTENUATOR」の略で「減衰器」という意味です。

スキャン方式を切り替える(プログレッシブ)

本機の内蔵DVDプレーヤーのスキャン方式を切り替えます。スキャン方式をプログレッシブ方式にすると、内蔵DVDプレーヤーからより高画質の映像を出力することができるようになります。

- プログレッシブ方式の映像はDVD D1/D2映像出力端子またはDVDコンポーネント映像出力端子から出力されます。
- 次のような場合は、スキャン方式をインターレース方式のままにしておいてください。プログレッシブ方式に切り替えると、映像が乱れることがあります。
  - ー 接続したテレビがプログレッシブ方式対応でないとき
  - ー 接続したテレビのD映像端子がD1信号のみ対応のとき
  - ー テレビとの接続が映像端子またはS映像端子のとき

リモコンのみ

DVDボタンを押してから、
プログレッシブボタンを3秒間押します。
ボタンを3秒間押すごとに、次のように切り替わります。

PROGRESSIVE（プログレッシブ）	：プログレッシブスキャン方式で映像を楽しむとき選びます。ソースがDVDのときのみ有効です。表示窓に、PROGRESSIVE表示が点灯します。
INTERLACE（インターレース）	：インターレーススキャン方式で映像を楽しむとき選びます

録音/その他の機能について

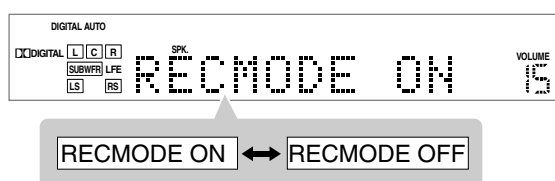
録音モードを使う(REC MODE)

本機にアナログ接続した録画·録音用機器(ビデオデッキ、MDレコーダー、CDレコーダーなど)を使って、マルチチャンネル音声を最適な音質で録音することができます。

- マルチチャンネル音声のうち、フロントスピーカーチャンネル以外の音声信号はフロントスピーカーチャンネル信号にミキシングされて、出力されます。
- デジタル出力には対応しません。

本体のみ

REC MODE(レック モード)ボタンを2秒間押し続けます。ボタンを長く押すごとに、次のように切り替わります。

RECMODE ON ⟷ RECMODE OFF

RECMODE ON(レックモード)	録音モードを使うときに選びます。
RECMODE OFF(レックモード)	通常はこちらを選びます。

ビデオデッキでの録画について

録音モードをお使いのときは、音量表示はテレビ画面に表示されず、録画もされません。

- オンスクリーンガイドをビデオテープに録画したくないときは、オンスクリーンガイド設定を「オフ」にします。(➡ 89 ページ参照)
- 設定メニューやメニューバーは、オンスクリーンガイド設定に関わらず、ビデオテープに録画されてしまいますので、ご注意ください。

ご注意

- スピーカーからの音声は、フロントスピーカーのみとなります。
- フロントスピーカーが小さいとき、音声がひずむことがあります。このときは、ひずまなくなるまで音量を下げてください。

お知らせ

- 本機の電源を「切」にしたり、別のソースを選んだときは、録音モードは「RECMODE OFF(レックモード)」になります。
- 「RECMODE ON(レックモード)」のとき、次のボタンは働かなくなります。
  - — SETTINGボタン
  - — ADJUSTボタン
  - — SURROUND ON/OFFボタンとSURROUND MODEボタン

  また、リモコンのボタンを使って、各スピーカーの音量·音質を調節すること(➡ 49 ページ参照)もできません。

設定を記憶させる

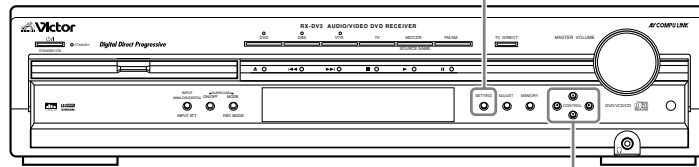
本機は、次のような操作をしたとき、自動的にソース(音源)ごとの設定を記憶します。

- 本機の電源を切ったとき
- 本機のソースを切り替えたとき
- ソース名を変更したとき
- アナログ入力/デジタル入力を切り換えたとき

また、ソースごとの設定は、最後に操作した状態を常に記憶し、再び同じソースを選んだときにその設定が呼び出されます。

ソースごとに次の内容が記憶されます。

- アナログ/デジタル入力の設定
- アナログ入力信号の調節の設定
- 各スピーカーのバランスの設定
- 各スピーカーのレベルの設定
- BASSの設定
- TREBLEの設定
- サラウンドモードの設定

基本の設定・調節をする

デジタル入力端子に接続した機器名を変更する

デジタル入力端子(デジタル1またはデジタル2)に接続した機器名を設定します。
正しく設定しないと、デジタル音声を聞くことができませんのでご注意ください。

- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 SETTINGボタンを押す

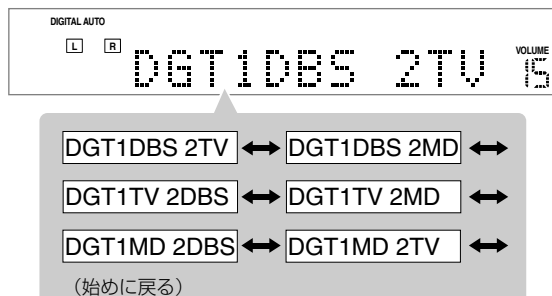
CONTROL▲/▼/►/◄ボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲ (または ▼)ボタンをくり返し押して「DGT」を表示させる

現在の設定

DGT1DBS 2TV

3 CONTROL ► (または ◄)ボタンをくり返し押してデジタル入力端子に接続した機器の組み合わせを選ぶ

押すごとに、次のように切り替わります。

「DGT1DBS 2TV」は、「デジタル1」にDBS、「デジタル2」にTVを割り当てていることを意味します。

* 「DGT1DBS 2TV」はお買い上げ時の設定です。また、ソース機器の名前を変更しているときは、「MD」のかわりに「CDR」と表示されます。

映像出力を設定する

AVコンピュリンク端子付きのビクター製テレビで本機内蔵のDVDプレーヤーからの映像を見るための設定をします。
本機のソース(音源)をDVDにしたとき、この設定にしたがってテレビ側のビデオ入力が自動的に切り替わります。(➡ 93ページ参照)

- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

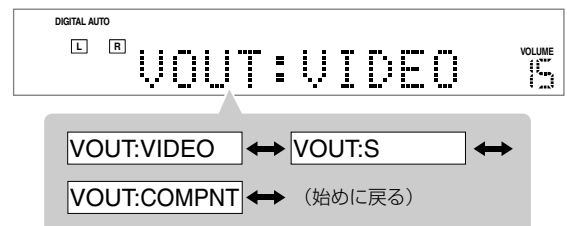
1 SETTINGボタンを押す

CONTROL▲/▼/►/◄ボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲ (または ▼)ボタンをくり返し押して「VOUT」を表示させる

現在の設定

3 CONTROL ► (または ◄)ボタンをくり返し押して映像出力先を選ぶ

押すごとに、次のように切り替わります。

VIDEO	: **映像・モニター出力端子**を使ってテレビに接続するとき選びます。テレビの入力が「ビデオ2」に切り替わります。[お買い上げ時の設定]
S	: **S映像・モニター出力端子**を使ってテレビに接続するとき選びます。テレビの入力が「ビデオ1」に切り替わります。
COMPNT	: **DVDコンポーネント映像出力端子**または**DVD D1/D2映像出力端子**を使ってテレビに接続するとき選びます。テレビの入力が「ビデオ3」に切り替わります。

オートサラウンドを設定する

本機はマルチチャンネルのデジタル音声信号を識別すると、自動的に適切なサラウンドを選びます。
オートサラウンドを「OFF」に設定しているときは、マルチチャンネルのデジタル音声信号が入力したときに、手動でサラウンドを「入」にする必要があります。

次のときは、オートサラウンドは働きません。
– アナログ音声入力が選ばれているとき
– リニアPCMで録音されたソフトを再生中のとき
– 手動でデジタル入力信号フォーマット（ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンド、MPEG-2 AAC）を選んでいるとき（➡ 37 ページ参照）

• 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 SETTING（セッティング）ボタンを押す

CONTROL（コントロール）▲/▼/►/◄ボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲（または ▼）ボタンをくり返し押して「AUTO SR（オートサラウンド）」を表示させる

3 CONTROL ►（または ◄）ボタンを押す

押すごとに、次のように切り替わります。

AUTO SR: ON ⟷ AUTO SR:OFF

ON：オートサラウンドを使うときに選びます。
AUTO SURROUND表示が点灯します。
[お買い上げ時の設定]

OFF：オートサラウンドを使わないときに選びます。

ご注意

• オートサラウンドが「ON」になっているときは、他のサラウンドが選ばれていても、マルチチャンネルのデジタル音声信号を識別すると選択中のサラウンドは解除されます。
• オートサラウンドが「ON」になっているときに、**SURROUND ON/OFF**ボタンや**SURROUND MODE**ボタン（またはリモコンの**サラウンドオン/オフ**ボタンや**サラウンドモード**ボタン）を押すと、一時的にオートサラウンドは解除（「OFF」）されます。
また、次のときは、オートサラウンドは「ON」に戻ります。
－電源を「**入**」⟷「**切**」する
－他のソース（音源）を選ぶ
－オートサラウンドをもう一度「ON」にする

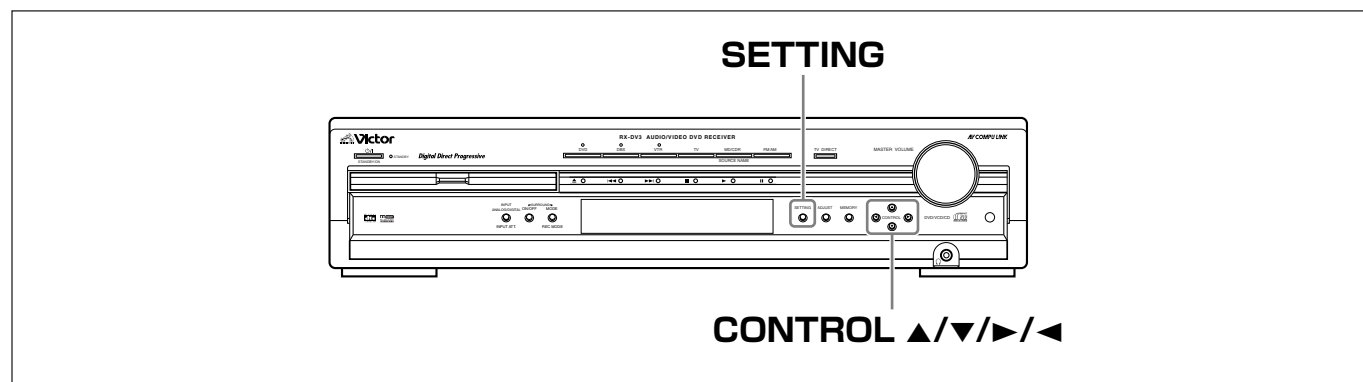
オートサラウンドの詳しい動作について

オートサラウンド機能で、デジタル音声信号と選ばれるサラウンドの関係は次のようになっています。

● **3ch以上の音声信号のとき**
ドルビーデジタル（DD DIGITAL）、DTSデジタルサラウンド（dts）、MPEG-2 AACサラウンドに対応するサラウンドが選ばれます。

● **ドルビーサラウンドのようなマトリクス処理された2chの音声信号(Lt/Rt)のとき**
ドルビーデジタル（DD DIGITAL）、DTSデジタルサラウンド（dts）、MPEG-2 AACサラウンドに関わらず、サラウンドモードの「PL II MOVIE」が選ばれます。

● **ドルビーデジタル（DD DIGITAL）、DTSデジタルサラウンド（dts）、MPEG-2 AACサラウンドの2chの音声信号(Lo/Ro)のとき**
サラウンドオフとなり、「STEREO」になります。

● **上記以外の2ch音声信号のとき**
オートサラウンドは働きません。

スピーカーの設定をする

接続した各スピーカーについて次の設定をします。

- **サブウーハーの設定(「SUBWFR」)**
- **スピーカーサイズの設定(「FRNT SP」「CNTR SP」「REAR SP」)**
- **スピーカーの配置の設定(「FRNT D」「CNTR D」「REAR D」)**

- テレビ画面上のメニュー操作でも設定できます。詳しくは、「テレビ画面で設定を変更する」(➡ 82 〜 89 ページ参照)をご覧ください。

サブウーハーを設定する

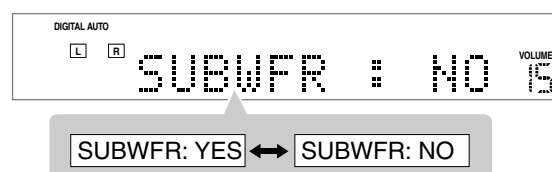
- テレビ画面上のメニュー操作(➡ 82 〜 89 ページ参照)でも設定できます。
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 SETTING(セッティング)ボタンを押す

CONTROL(コントロール)▲/▼/►/◄ボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲(または ▼)ボタンをくり返し押して「SUBWFR(サブウーハー)」を表示させる

3 CONTROL ►(または ◄)ボタンを押して設定を選ぶ

押すごとに、次のように切り替わります。

YES : サブウーハーを使用するときに選びます。
表示窓のSUBWFR表示が点灯します。
サブウーハーの出力レベルを調節できるようになります(➡ 48 ページ参照)。
[お買い上げ時の設定]

NO : サブウーハーをつないでいないとき、またはサブウーハーを使用しないときに選びます。

スピーカーの設定をする(つづき)

スピーカーサイズを設定する

お使いのスピーカーのおおまかなサイズを本機に登録します。スピーカーの接続を終えてから設定します。

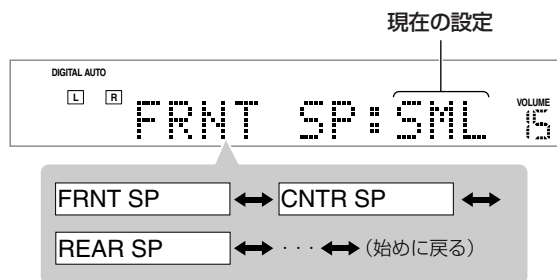
お使いのスピーカーに内蔵されているスピーカーユニットの口径が12cm以上なら「LRG(ラージ)」を選び、12cm以下なら「SML(スモール)」を選びます。

- テレビ画面上のメニュー操作(➡ 82 〜 89 ページ参照)でも設定できます。
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

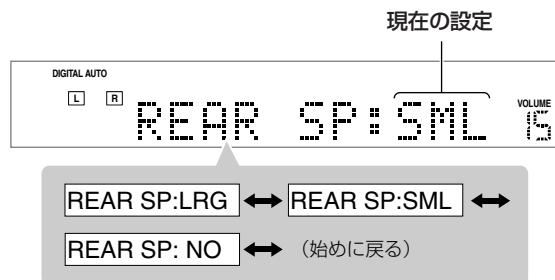
1 SETTING(セッティング)ボタンを押す

CONTROL(コントロール)▲/▼/►/◄ボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲(または ▼)ボタンをくり返し押して設定するスピーカーを表示させる

押すごとに、次のように切り替わります。

FRNT(フロント) SP(スピーカー):	フロントスピーカーのサイズを設定するときに選びます。 [お買い上げ時:SML]
CNTR(センター) SP:	センタースピーカーのサイズを設定するときに選びます。 [お買い上げ時:SML]
REAR(リア) SP:	リアスピーカーのサイズを設定するときに選びます。 [お買い上げ時:SML]

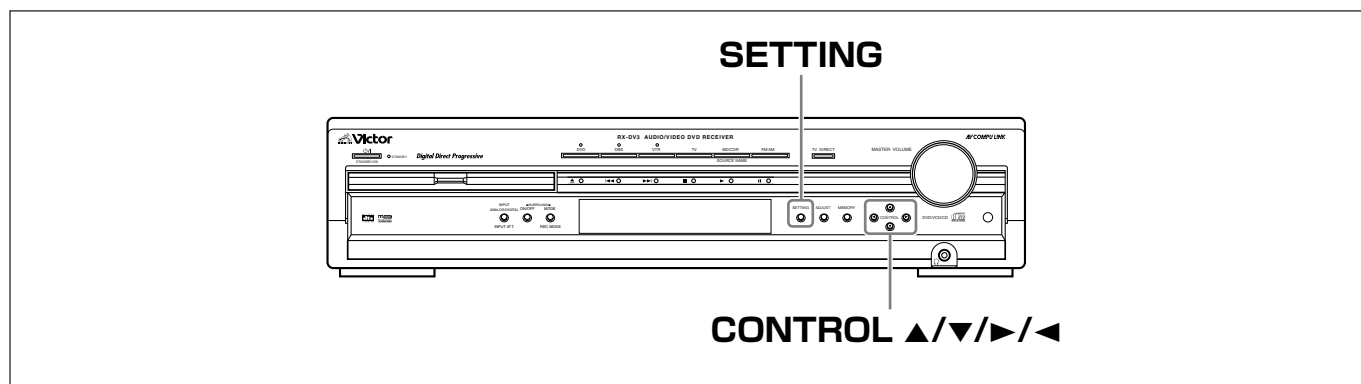
3 CONTROL ►(または ◄)ボタンをくり返し押してサイズを選ぶ

押すごとに、次のように切り替わります。

LRG(ラージ)(大):	大きめのスピーカー(スピーカーユニットの口径が12cm以上)を接続したときに選びます。
SML(スモール)(小):	小さめのスピーカー(スピーカーユニットの口径が12cm未満)を接続したときに選びます。
NO(なし):	スピーカーを接続していないときに選びます(フロントスピーカーでは選べません)。

4 手順2と3をくり返して他のスピーカーのサイズを設定する

ご注意

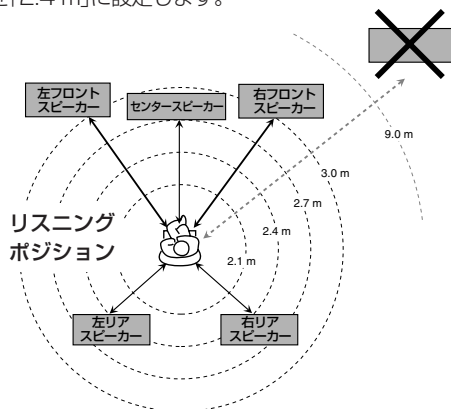
- サブウーハーの設定を「NO」に設定しているときは、フロントスピーカーのサイズは「LRG」しか選べません。
- フロントスピーカーのサイズを「SML」に設定したときは、リアスピーカーやセンタースピーカーを「LRG」に設定することはできません。

基本の設定・調節をする(つづき)

スピーカーの設定をする(つづき)

スピーカーの距離を登録する

ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドや、MPEG-2 AACサラウンドで効果的な音場を構成するには、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離が同じであることが理想的です。本機では、リスニングポジションから各スピーカーまでの実際の距離を登録するだけで、どの距離も同じであるように音場を調節することができます。

- 登録できる距離は、0.3 m(30cm)から9.0 mまでで、単位は0.3 m(30cm)きざみになっています。
- フロントスピーカーとリアスピーカーについて、左右のスピーカー距離を別々に登録することはできません。設置の際には左右のスピーカーの距離を合わせてください。

例) 下図のようにスピーカーを配置したときは、フロントスピーカーを「3.0 m」に、センタースピーカーを「2.7 m」に、リアスピーカーを「2.4 m」に設定します。

9.0 m以上離れたスピーカーを登録することはできません。

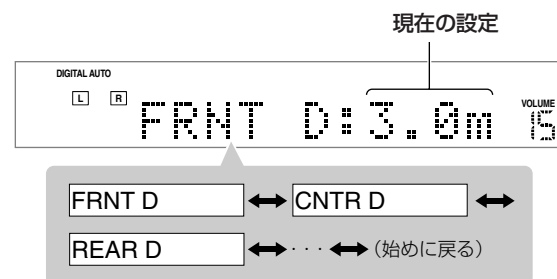
- テレビ画面上のメニュー操作(➡ 82 〜 89 ページ参照)でも設定できます。

- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 SETTING(セッティング)ボタンを押す

CONTROL(コントロール)▲/▼/►/◄ボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲(または ▼)ボタンをくり返し押して設定するスピーカーを表示させる

押すごとに、次のように表示が変わります。

FRNT D(Distance)(フロント ディスタンス):左右のフロントスピーカーの距離を設定するときに選びます。「0.3 m(30cm)」から「9.0 m」の範囲で設定できます。 [お買い上げ時:3.0 m]

CNTR D(センター):センタースピーカーの距離を設定するときに選びます。「0.3 m(30cm)」から「9.0 m」の範囲で設定できます。 [お買い上げ時:3.0 m]

REAR D(リア):左右のリアスピーカーの距離を設定するときに選びます。「0.3 m(30cm)」から「9.0 m」の範囲で設定できます。 [お買い上げ時:3.0 m]

スピーカーの設定をする(つづき)

3 CONTROL ► (または ◄)ボタンをくり返し押して設定する距離を選ぶ

押すごとに、次のように切り替わります。

4 手順**2**と**3**をくり返して、他のスピーカーの距離を設定する

クロスオーバー周波数を設定する

小型スピーカーでは低音を効果的に再生できないことがあります。本機では、フロントスピーカー、センタースピーカー、リアスピーカーのいずれかに小型のスピーカーが使われているとき、その低音要素を他の大型スピーカーへ自動的に振り分けます。この機能を正しく動作させるために、小型スピーカーのサイズに応じて、クロスオーバー周波数を設定します。

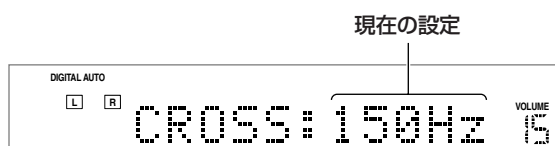
- 「スピーカーサイズを設定する」(➡ 43 ページ参照)ですべてのスピーカーを「LRG」に設定しているときは、この機能は働きません。
- テレビ画面上のメニュー操作(➡ 82 ～ 89 ページ参照)でも設定できます。
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

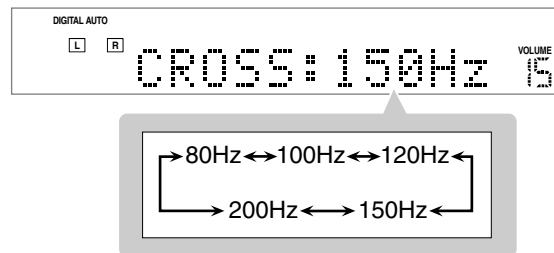
1 SETTING(セッティング)ボタンを押す

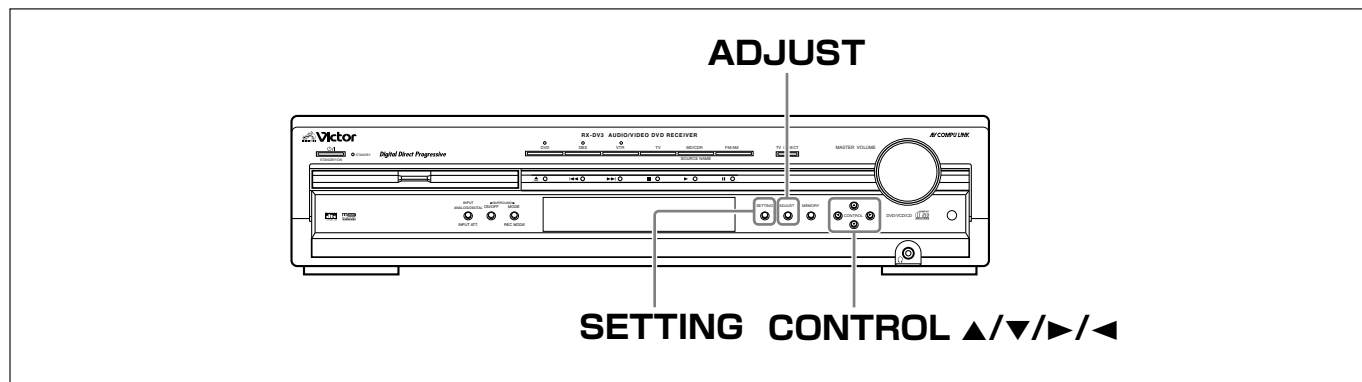
CONTROL(コントロール)▲/▼/►/◄ボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲ (または ▼)ボタンをくり返し押して「CROSS(クロスオーバー)」を表示させる

現在の設定

DIGITAL AUTO L R CROSS:150Hz VOLUME 15

3 CONTROL ► (または ◄)ボタンをくり返し押してクロスオーバー周波数を選ぶ

押すごとに、次のように切り替わります。

クロスオーバー周波数を大きく設定すると、スピーカーの口径が小さい場合でも、低音要素は損なわれにくくなります。下記の表を参考に設定してください。

80Hz	：スピーカーの口径が12cm以上のとき選びます。
100Hz	：スピーカーの口径が10cm程度のとき選びます。
120Hz	：スピーカーの口径が8cm程度のとき選びます。
150Hz	：スピーカーの口径が6cm程度のとき選びます。 [お買い上げ時の設定]
200Hz	：スピーカーの口径が5cm以下のとき選びます。

ダイナミックレンジを設定する

ドルビーデジタルの音声を再生しているときにダイナミックレンジ(最大音声と最小音声の差)を圧縮(コンプレッション)することができます。夜間にサラウンドをお楽しみいただくときに使います。

- 再生するソース(音源)によって、効果の大きさは異なります。
- テレビ画面上のメニュー操作(➡ 82 ～ 89 ページ参照)でも設定できます。
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

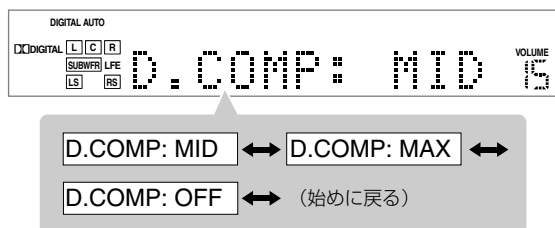
1 SETTINGボタンを押す

CONTROL▲/▼/►/◄ボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲ (または ▼)ボタンをくり返し押して「D. COMP」を表示させる

現在の設定

3 CONTROL ► (または ◄)ボタンをくり返し押して設定を選ぶ

押すごとに、次のように切り替わります。

OFF	ダイナミックレンジはそのままで、サラウンドを楽しみたいときに選びます。
MID	ダイナミックレンジを少し圧縮したいときに選びます。 [お買い上げ時の設定]
MAX	ダイナミックレンジの圧縮を最大にしたいときに選びます(夜間など周囲の方に迷惑をかけたくないときに選びます)。

低音域のレベルを設定する

ドルビーデジタル音声を再生中に、低音がひずむとき設定します。

- この機能は「サブウーハーを設定する」(➡ 42 ページ参照)で「YES」を選んでいて、LFE音声信号(Low Frequency Effect: 低音域信号)が入力されたときに限り働きます。
- テレビ画面上のメニュー操作(➡ 82 ～ 89 ページ参照)でも設定できます。
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

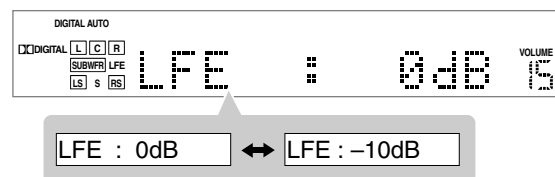
1 SETTINGボタンを押す

CONTROL▲/▼/►/◄ボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲ (または ▼)ボタンをくり返し押して「LFE」を表示させる

現在の設定

3 CONTROL ► (または ◄)ボタンをくり返し押して低音域の設定値を選ぶ

押すごとに、次のように切り替わります。

0dB	通常はこれを選びます。 [お買い上げ時の設定]
–10dB	低音域がひずむときに選びます。

音量・音質を調節する

再生中に、次の音量と音質の調節をすることができます。

- **フロントスピーカーの左右のバランス（「BAL」）**
- **音質（「BASS」「TREBLE」）**
- **センタースピーカー、左右リアスピーカー、サブウーハーの出力レベル（「CENTER」「REAR L」「REAR R」）（「SUBWFR」）**
- **エフェクト（「EFFECT」）**

リモコンまたはテレビ画面上のメニュー操作でも設定できます。

- **リモコンを使って設定　➡ 49ページ参照**
- **メニュー操作で設定　➡ 82～89ページ参照**

これらの設定は、ソースごとに記憶されます。

フロントスピーカーの左右のバランスを調節する

左右のフロントスピーカーがリスニングポイントから同じ距離に置けないときは、左右のフロントスピーカーの音量バランスを調節します。

- 設定はソースごとに記憶されます。
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 ADJUSTボタンを押す

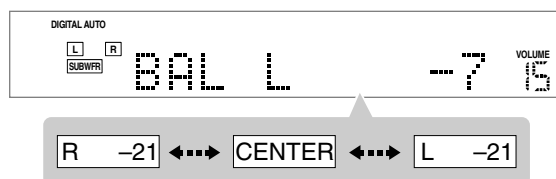
CONTROL▲/▼/►/◄ボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲（または ▼）ボタンをくり返し押して「BAL」を表示させる

現在の設定

DIGITAL AUTO　BAL　CENTER　VOLUME 15

3 CONTROL ►（または ◄）ボタンをくり返し押してバランスを調節する

押すごとに、次のように切り替わります。

- CONTROL ► ボタンを押すとフロントスピーカー出力の左右のバランスが右側に移動します。
  CONTROL ◄ ボタンを押すとフロントスピーカー出力の左右のバランスが左側に移動します。
- バランスを元に戻すには「CENTER」を選びます。

音質を調節する

フロントスピーカーの高音と低音をお好みに合わせて調節します。

- 設定はソースごとに記憶されます。
- 途中で調節操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 ADJUSTボタンを押す

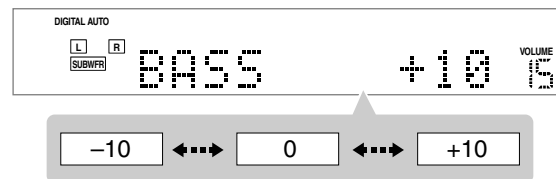
CONTROL▲/▼/►/◄ボタンが働くようになります。

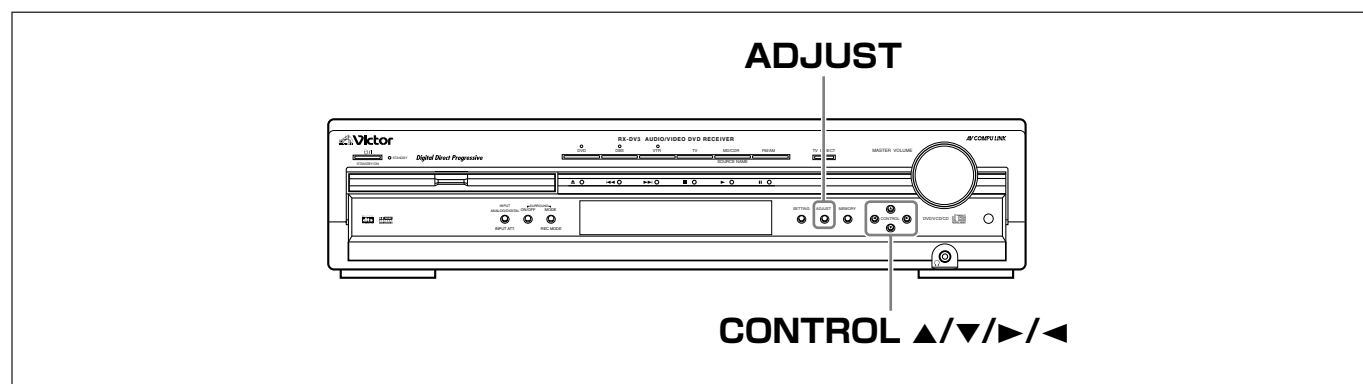
2 CONTROL ▲（または ▼）ボタンをくり返し押して「BASS」または「TREBLE」を表示させる

現在の設定

BASS	：低音を調節するときに選びます。
TREBLE	：高音を調節するときに選びます。

3 CONTROL ►（または ◄）ボタンをくり返し押して音質を調節する

押すごとに、次のように切り替わります。

- CONTROL ► ボタンを押すごとに「2」ずつ低音または高音が上がります。
  CONTROL ◄ ボタンを押すごとに「2」ずつ低音または高音が下がります。
- 「−10」～「＋10」の範囲で調節できます。

4 手順2と3をくり返して他の音質を調節する

音量・音質を調節する(つづき)

スピーカーの出力レベルを調節する

センタースピーカー、左右リアスピーカー、サブウーハーの出力レベルを調節します。

- スピーカーを使わない設定のときやサラウンドモードによっては、調節のできないスピーカーがあります。
  「サブウーハーを設定する」(➡ 42 ページ参照)
  「スピーカーサイズを設定する」(➡ 43 ページ参照)
  「サラウンドを使う」(➡ 50 〜 53 ページ参照)
- 設定はソースごとに記憶されます。
- 途中で調節操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

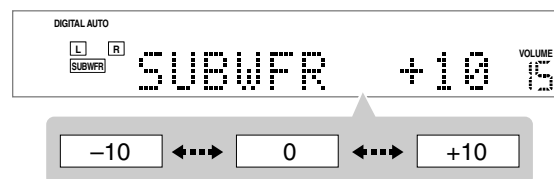
1 ADJUST(アジャスト)ボタンを押す

CONTROL(コントロール)▲/▼/►/◄ボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲(または ▼)ボタンをくり返し押して設定するスピーカーを表示させる

SUBWFR(サブウーハー)	:サブウーハーの出力レベルを設定するときに選びます。[お買い上げ時: 0(dB)]
CENTER(センター)	:センタースピーカーの出力レベルを設定するときに選びます。[お買い上げ時: 0(dB)]
REAR L(リア 左)	:左リアスピーカーの出力レベルを設定するときに選びます。[お買い上げ時: 0(dB)]
REAR R(リア 右)	:右リアスピーカーの出力レベルを設定するときに選びます。[お買い上げ時: 0(dB)]

3 CONTROL ►(または ◄)ボタンをくり返し押して出力レベルを調節する

押すごとに、次のように切り替わります。

- CONTROL ► ボタンを押すごとに出力レベルが上がります。
  CONTROL ◄ ボタンを押すごとに出力レベルが下がります。
- 「−10(dB)」〜「+10(dB)」の範囲で調節できます。

4 手順**2**と**3**をくり返して他のスピーカーの出力レベルを設定する

エフェクトを調節する

DAPモード(LIVE CLUB、DANCE CLUB、HALL、PAVILION)をお楽しみいただいているとき、その効果の度合い(エフェクトレベル)を調節することができます。

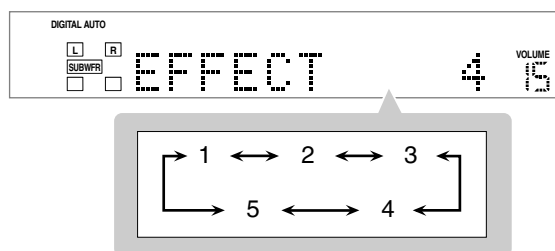
- DAPモードについては、「サラウンドを使う」(➡ 50 ～ 53 ページ参照)をご覧ください。
- 設定はソースごとに記憶されます。
- 途中で調節操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

1 ADJUSTボタンを押す

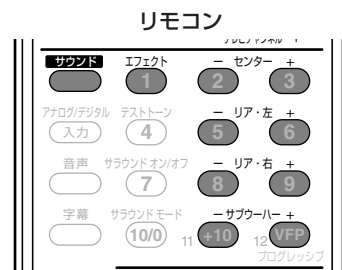
CONTROL▲/▼/►/◄ボタンが働くようになります。

2 CONTROL ▲(または ▼)ボタンをくり返し押して「EFFECT」を表示させる

3 CONTROL ►(または ◄)ボタンをくり返し押してエフェクトレベルを調節する

押すごとに、次のように切り替わります。

- エフェクトレベルが大きいほど、サラウンドの効果が大きくなります。

リモコンを使って音量・音質を調節する

リモコンを使っての調節では、調節したい項目のボタンを押して行います。

リモコン

リモコンで調節できる項目は次の通りです。

調節する項目	使うボタン
センタースピーカーの出力レベル	－ センター ＋ 2 3
左右リアスピーカーの出力レベル	－ リア・左 ＋ 5 6　－ リア・右 ＋ 8 9
サブウーハーの出力レベル	－ サブウーハー ＋ 11 +10 12 VFP プログレッシブ
エフェクトレベル	エフェクト 1

調節は次の手順で行います。

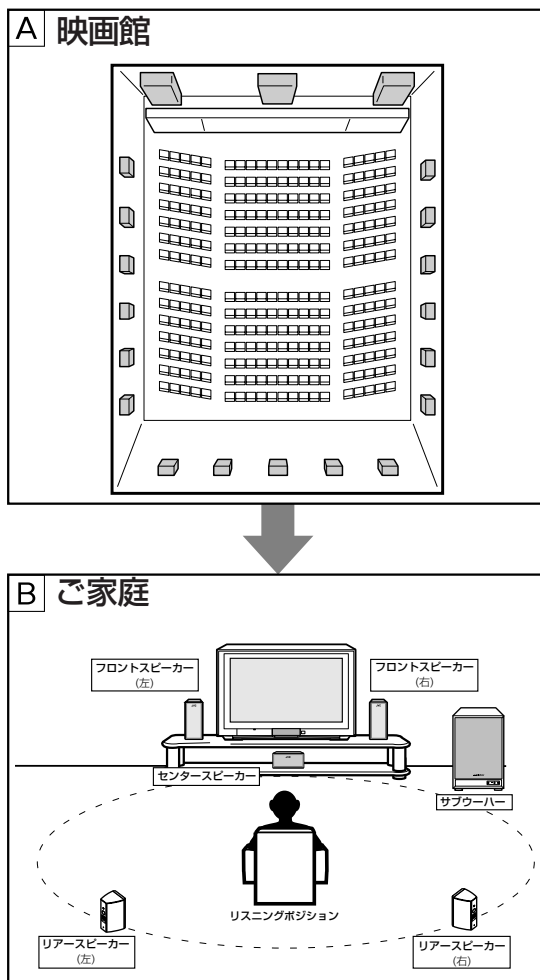
① **サウンド**ボタンを押す
数字ボタンが、スピーカーの音量・音質調節のために働くようになります。
② 調節したい項目のボタンを押す。

調節の後で、数字ボタンとして使うときは、先にソース機器選択ボタンを押してから、お使いください。

サラウンドを使う

サラウンドとは

映画館は、計算された効果音で臨場感を再現するために、壁に多くのスピーカーを配置し、あらゆる方向から音声が聞こえてくるように設計されています。**(図A)**
客席を包みこむように多くのスピーカーを配置することによって、音の定位感と躍動感を飛躍的に高めています。

本機は、5つのスピーカーとサブウーハーを使うことで、映画館そのままの臨場感をご家庭で再現することを可能にしました。**(図B)**

本機搭載のDSP(ディーエスピー)(デジタル・シグナル・プロセッサー)により次のサラウンドをお楽しみいただけます。

- **マルチチャンネルサラウンド (ドルビーデジタル、DTS(ディーティーエス)デジタルサラウンド、MPEG-2(エムペグツー) AAC(エーエーシー)サラウンド)**
- **ドルビープロロジックⅡ (プロロジックⅡムービー、プロロジックⅡミュージック)**
- **DAP(ディーエーピー) (LIVE CLUB(ライブクラブ)、DANCE CLUB(ダンスクラブ)、HALL(ホール)、PAVILION(パビリオン))**
- **オールチャンネルステレオ (ALL CH STEREO)**

音声信号とお使いになれるサラウンドの関係については、「音声信号/サラウンド対応表」(➡ 103ページ参照)も合わせてご覧ください。

● ドルビーデジタル *1

DVDソフトに使われているマルチチャンネル対応の音声圧縮方式のひとつです(このようなソフトには DOLBY DIGITAL マークが記載されます)。
ドルビーデジタル5.1chの場合、フロント左右、センター、リア左右、サブウーハーの5.1ch(サブウーハーは0.1chと数えます)の各チャンネルを完全に独立した音声として再生するので、チャンネル間の干渉も少なく、より優れた音質でより立体的なサラウンドが再現できます。

本機にはドルビーデジタルデコーダーが搭載されていますので、内蔵のDVDプレーヤーでドルビーデジタルの映像ソフトが再生できます。

- 外部接続した機器でドルビーデジタル音声を再生するには、お使いになる機器を本体背面のデジタル入力端子に接続してください。(➡ 24ページ参照)
- ドルビーデジタル信号が検出されると、表示窓のデジタル信号方式表示の**DDIGITAL**表示(➡ 13ページ参照)が点灯します。

● DTS(ディーティーエス)デジタルサラウンド *2

DTSデジタルサラウンドは、CD、LD、DVDなどに使われています(このようなソフトには dts DIGITAL SURROUND マークが記載されています)。
ドルビーデジタル同様5.1chのデジタル音声フォーマットですが、音声圧縮率を低く設定してあるため、厚みのある、より高音質な再生が可能となります。

本機にはDTSサラウンドデコーダーが内蔵されていますので、内蔵のDVDプレーヤーでDTSデジタルサラウンドの映像ソフトが再生できます。

- 外部接続した機器でDTSサラウンド音声を再生するには、お使いになる機器を本体背面のデジタル入力端子に接続してください。(➡ 24ページ参照)
- DTS信号が検出されると、表示窓のデジタル信号方式表示の**dts**表示(➡ 13ページ参照)が点灯します。

● AAC(エーエーシー)(Advanced(アドバンスト) Audio(オーディオ) Coding(コーディング))サラウンド

MPEG-2(エムペグツー)オーディオの標準方式のひとつで、BSデジタル放送で採用されている音声符合化規格です。
低ビットレートで高音質を確保できる点が特長で、番組内容により5.1chのマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

- AACサラウンドの音声を聞くには、お使いになる機器を本体背面のデジタル入力端子に接続してください。(➡ 24ページ参照)
- MPEG-2 AAC信号が検出されると、表示窓のデジタル信号方式表示の**MPEG-2 AAC**表示(➡ 13ページ参照)が点灯します。

米国パテントナンバー

5,848,391;	5,291,557;	5,451,954;
5,400,433;	5,222,189;	5,357,594;
5,752,225;	5,394,473;	5,583,962;
5,274,740;	5,633,981;	5,297,236;
4,914,701;	5,235,671;	07/640,550;
5,579,430;	08/678,666;	98/03037;
97/02875;	97/02874;	98/03036;
5,227,788;	5,285,498;	5,481,614;
5,592,584;	5,781,888;	08/039,478;
08/211,547;	5,703,999;	08/557,046;
08/894,844		

● ドルビープロロジックⅡ *3
本機にはドルビープロロジックⅡデコーダーが内蔵されています。ドルビーサラウンド方式で記録された2ch音声はもちろん、通常の2ch音声も5.1ch音声にまで拡張することができます。また、従来のドルビープロロジック方式でできなかったリアスピーカーの高音域も再生することができます。このため、より奥行きと広がりのあるサラウンドがお楽しみいただけます。

ドルビープロロジックⅡには次の2つのモードがあります。

プロロジックⅡムービー
DOLBY SURROUND マークのついたドルビーサラウンド方式で記録された2ch音声または2ch音声の映像ソフトの再生に向いています。DVDソフトなどのマルチチャンネル5.1ch音声に近い音場での再生をお楽しみいただけます。

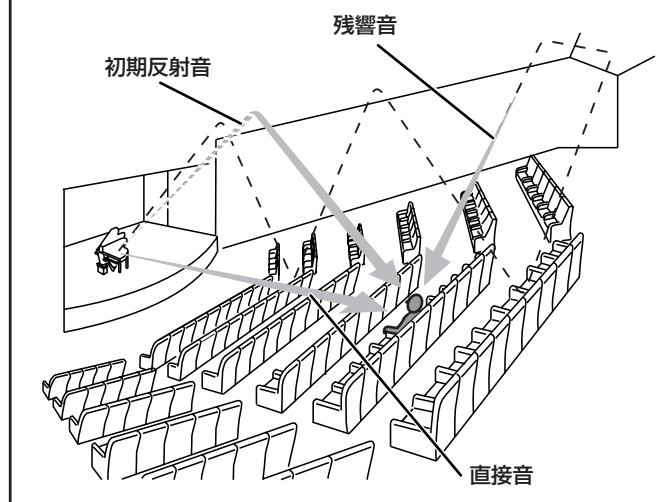
プロロジックⅡミュージック
2ch音声の音楽ソフトの再生に向いています。音楽ソフトの再生に適した広がりと奥行きを持った音場をお楽しみいただけます。

- ドルビープロロジックⅡは、ドルビーサラウンド方式で記録された音声も含めてすべての2ch音声に対して有効です。
- ドルビープロロジックⅡデコーダーが働いていると、表示窓のサラウンド表示の**PRO LOGICⅡ**表示(➡ 13 ページ参照)が点灯します。

● **DAP(ディーエーピー)モード**
コンサートホールやライブハウスなどで聞く音は、音源から直接耳に届く音(**直接音**)と天井や壁などに反射してから耳に届く音(**初期反射音**)、そして、何回も反射を繰り返してから耳に届く音(**残響音**)によって構成されています。これらの反射音/残響音は、リスナーと天井、壁の距離によって様々な遅延時間をもった音となり、コンサートなどでは、直接音とこれらの反射音/残響音によって、音場が作り出されています。

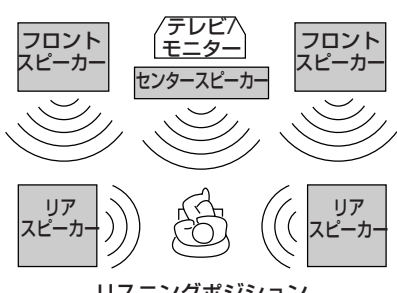
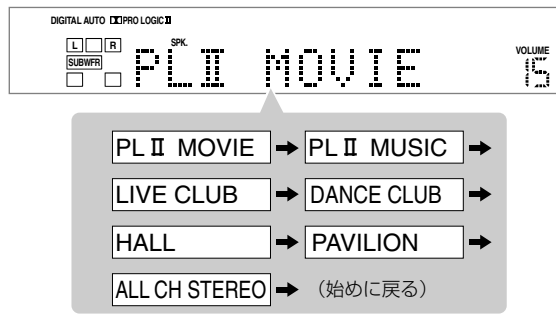
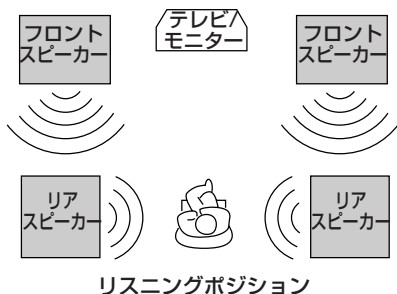
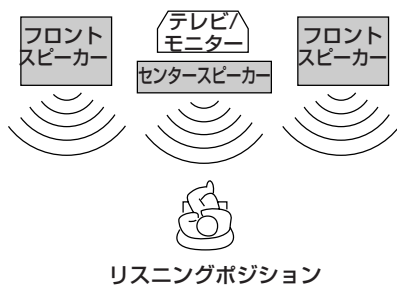
本機に搭載されているDAPモードは、これらの反射音や残響音をデジタル信号処理により創り出しコンサートホールやライブハウスなどの臨場感を再現します。

本機では次のDAPモードをお楽しみいただけます。
- LIVE CLUB(ライブ クラブ) ：天井の低いライブハウスにいるような雰囲気です。
- DANCE CLUB(ダンス クラブ)：激しい低音のビートを刻みます。ディスコにいるような雰囲気です。
- HALL(ホール) ：ボーカルがはっきりします。コンサートホールにいるような雰囲気です。
- PAVILION(パビリオン) ：天井の高い展示会場にいるような雰囲気です。

音場の構成

- DAPモードはアナログ2ch音声やリニアPCMデジタル音声で録音されたソフトを再生するときに使うことができます。
- DAPモードをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にリアスピーカーを接続・設定する必要があります(センタースピーカーを接続・設定していても音声は出ません)。
- DAPモードをお使いのときは、表示窓のサラウンド表示の**DSP**表示(➡ 13 ページ参照)が点灯します。
- DAPモードを選んでいるときは、音響効果の度合い(エフェクトレベル)が調節できます。(➡ 53 ページ参照)

● **オールチャンネルステレオ**
接続・設定されたすべてのスピーカーを使って、より広い範囲でステレオ音声をお楽しみいただけます。センタースピーカーが使えるときは、左右フロントスピーカーの音声をダウンミックスして、モノラル音声にします。
- オールチャンネルステレオはアナログ2ch音声やリニアPCMデジタル音声で録音されたソフトを再生するときに使うことができます。
- オールチャンネルステレオをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にリアスピーカーを接続・設定する必要があります。
- オールチャンネルステレオをお使いのときは、表示窓のサラウンド表示の**DSP**表示(➡ 13 ページ参照)が点灯します。

お知らせ
サラウンドをお使いになるときは、以下の項目をあらかじめ正しく設定しておいてください。
- スピーカーサイズ(➡ 43 ページ)
- スピーカーの距離(➡ 44 ページ)
- フロントスピーカーのバランス(➡ 47 ページ)

*1、*3 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビーPro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
*2 本機はデジタルシアターシステムズ社からの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital Surround、DTSデジタルサラウンドは、デジタルシアターシステムズ社の商標です。著作権1996 年デジタルシアターシステムズ社。不許複製。

サラウンドを使う（つづき）

サラウンドの使いかたとスピーカー配置

お手持ちのスピーカーの数によって、創り出せるサラウンドが異なります。
創り出せる効果とスピーカーの数については下記の表を参考にしてください。

- マルチチャンネルサラウンドについては、スピーカーの配置数に関係なく選ぶことはできますが、すべてのスピーカーを適切に接続・設定しないと、十分なサラウンド効果をお楽しみいただけません。
- フロントスピーカーしかお持ちでないときはプロロジックⅡ、DAPモード、オールチャンネルステレオをお使いになれません。

また、スピーカーの音場の調節については 42 〜 47 ページをご覧ください。

<table>
<tr><th>スピーカーの配置</th><th>お使いになれるサラウンド</th></tr>
<tr><td>5スピーカー
フロントスピーカー　テレビ/モニター　フロントスピーカー
センタースピーカー
リアスピーカー　リアスピーカー
リスニングポジション</td><td rowspan="3">

①**サラウンドオン/オフ**ボタンまたは**SURROUND ON/OFF**ボタンを押します。

マルチチャンネル音声信号のとき：
音声信号に対応したサラウンドが「入」になります。

- 「DOLBY D」（ドルビーデジタル）、「DTS」（DTSデジタルサラウンド）、「MPEG-2 AAC」（AACサラウンド）が表示されたときは、②で他のサラウンドに切り替えることはできません。
- 「PLⅡ MOVIE」が表示されたときは、②で「PLⅡ MOVIE」⬌「PLⅡ MUSIC」と切り替えることができます。
- オートサラウンドを「ON」に設定しているとき（➡ 41 ページ参照）は、自動的にサラウンドが「入」になります。

マルチチャンネル音声信号でないとき：
サラウンドが「入」になり、前回選ばれたサラウンドモードが表示されます。②でサラウンドモードを選ぶことができます。

- オートサラウンド（➡ 41 ページ参照）は、働きません。

②**サラウンドモード**ボタンまたは**SURROUND MODE**ボタンをくり返し押してお好みのサラウンドモードを選びます。

押すごとに次のように切り替わります。

<スピーカー設置数が5または4のとき>
すべてのサラウンドモードから選ぶことができます。

<スピーカー設置数が3のとき>
「PLⅡ MOVIE」または「PLⅡ MUSIC」から選ぶことができます。

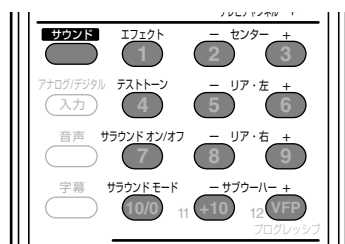
</td></tr>
<tr><td>4スピーカー
フロントスピーカー　テレビ/モニター　フロントスピーカー
リアスピーカー　リアスピーカー
リスニングポジション</td></tr>
<tr><td>3スピーカー
フロントスピーカー　テレビ/モニター　フロントスピーカー
センタースピーカー
リスニングポジション</td></tr>
</table>

サラウンドを調節する

サラウンドをより効果的にお楽しみいただくために、各スピーカーの音量·音質を調節します。
本体のボタンまたはテレビ画面上のメニュー操作でも設定することもできます。

- **本体のボタンで設定　➡ 48 49ページ参照**
- **メニュー操作で設定　➡ 82～89ページ参照**

- 設定はソースごとに記憶されます。

リモコンのみ

1 お好みのソフトを再生して、サラウンドを使う（➡ 52ページ参照）

2 サウンドボタンを押す

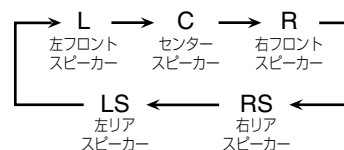
数字ボタンが、音量や音質調節のために働くようになります。

3 音量·音質の調節をする

数字ボタンを使います。

調節する項目	使うボタン
テストトーン	テストトーン 4
センタースピーカーの出力レベル	－ センター ＋ 2 3
左右リアスピーカーの出力レベル	－ リア·左 ＋ 5 6　－ リア·右 ＋ 8 9
サブウーハーの出力レベル	－サブウーハー＋ 11 +10 12 VFP プログレッシブ
エフェクトレベル*	エフェクト 1

＊ DAPモードを選んだときは、エフェクトレベルの調節ができます。

● **テストトーンを使うときは**
テストトーンボタンを押します。
再生中の音声は聞こえなくなります。
テストトーンは次の順番で、2秒ごとにスピーカーを切り替えて出力されます。

テストトーンはおよそ１分間続きます。

テストトーンをやめるときは
もう一度**テストトーン**ボタンを押します。

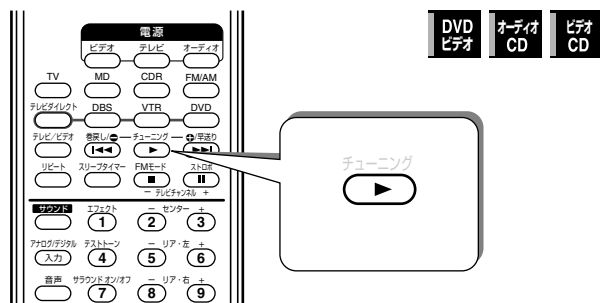
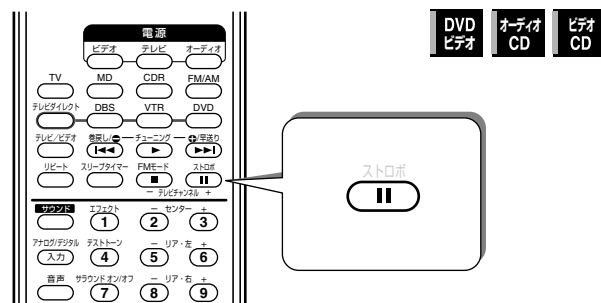
- テストトーン出力中に、サブウーハーまたはエフェクトの調節をすると、テストトーンは止まります。

調節の後で、数字ボタンとして使うときは、先にソース機器選択ボタンを押してから、お使いください。

DVDプレーヤーの基本操作

ここでは、主にリモコンのボタンを使っての操作説明をします。本体に同じマークのボタンがある場合には、本体のボタンもお使いいただけます。
- リモコンのボタンを使ってDVDプレーヤーの操作をするときは、ソース機器選択ボタンのDVDボタンを押してからお使いください。

また、ディスクの種類によって、使えない機能もあります。ここでは、機能ごとに次のマークを示し、どの種類のディスクで操作ができるのかをお知らせしています。

例：オーディオCDでは使えない機能のとき

再生する

►(再生)ボタンを押す

ディスクの最初から再生が始まります。
DVDによっては、ディスクトレイを閉じると自動的に再生が始まるものがあります。

- 電源「**切**」のときは電源が「**入**」になります。また、本体の⏏(**開/閉**)ボタンを押したときも電源が「**入**」になり、ディスクトレイが出てきます。

例：DVDビデオを再生したとき

例：CDを再生したとき

トラック番号　演奏経過時間

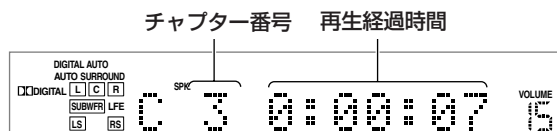
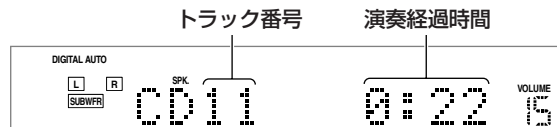
ディスクを入れて、すぐにメニューが表示されたとき

ディスクによっては、再生開始後にメニュー画面が表示されることがあります。このようなときは、次のリモコンのボタンを使って、希望の項目を選んで再生を始めます。

● **項目をカーソルで選ぶ場合**
カーソル(▲/▼/►/◄)ボタンを使って項目を選び、**決定**ボタンを押します。

● **項目を数字ボタンで選ぶ場合**
数字ボタンで項目を選び、**決定**ボタンを押します。

ディスクによっては、ここでの説明と異なる操作方法のものもあります。ディスクに付属の取扱説明書も合わせてお読みください。

再生を一時停止する

≪再生中に≫

II(一時停止)ボタンを押す

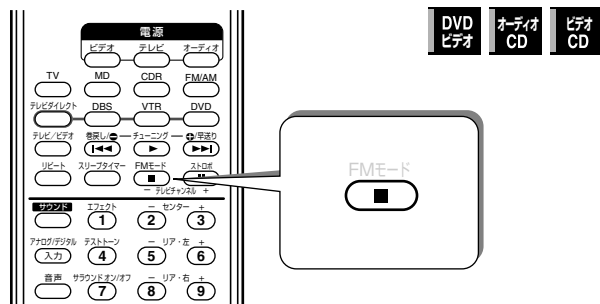
再生が一時停止になります。
再生を再開するときは、►(**再生**)ボタンを押します。

スクリーンセーバーについて

長い時間、テレビ画面に静止画を映していると、テレビ画面が焼き付きを起こし静止画の残像が残ってしまうことがあります。これを防止するのがスクリーンセーバー機能です。

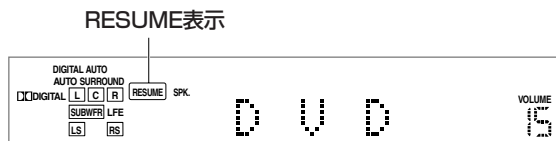
メニュー画面表示中、停止中、メニュー再生中など静止画が表示されてから5分以上何も操作しないと、画面が暗くなります。いずれかの操作ボタンを押すと解除され、前の画面に戻ります。

スクリーンセーバー機能は「映像メニュー」(➡ 86 ページ参照)で設定します。

再生を停止する

≪再生中に≫

■(停止)ボタンを押す

再生が停止します。
リジューム設定(➡ 89 ページ参照)が「オン」のとき、RESUME表示が点灯し、ディスク上の停止した位置が記憶されます。

RESUME表示

►**(再生)**ボタンを押すと、記憶された位置から続きが再生されます(**リジューム再生**)。
位置の記憶は、別のソースを選んだり、電源を「**切**」にしても消えません。このときも、►**(再生)**ボタンを押すと、記憶された位置から続きが再生されます。
• オーディオCDでは、リジューム再生は働きません。

位置の記憶を取り消すには

次の操作をすると、位置の記憶は取り消されます。

- ディスクトレイを開ける
- 停止中に■**(停止)**ボタンを押す
- 電源「**切**」のとき、リモコンの**オーディオ電源**ボタンまたは本体の ⏻/I STANDBY/ON(スタンバイ/オン)ボタンを押して電源「**入**」にする
- リモコンの**トップメニュー**ボタンを押す
- プログラム再生、ランダム再生(ビデオCDのとき)を始める

お知らせ

- 位置の記憶をしないように設定することができます。詳しくは 89 ページをご覧ください。

ご注意

- プログラム再生またはランダム再生のときは、リジューム再生は働きません。
- PBC対応のビデオCDでは、記憶されている位置よりも手前または後から再生される場合があります。

再生中に表示されるマークについて

ディスクを再生していると、次のようなマークがテレビ画面に一時的に表示されることがあります。

⃠ 本機やディスクで禁止、または対応していない操作を行ったときに表示されます。このマークが表示されなくても、状況によっては操作ができないことがあります。

以下のマークはオンスクリーンガイドといいます。

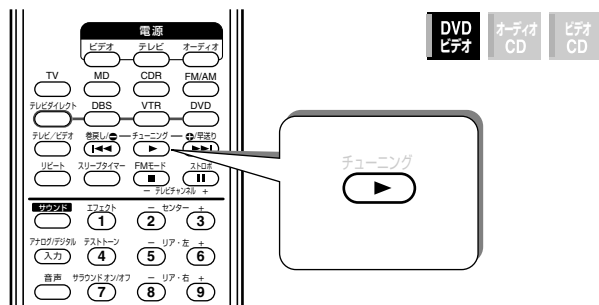
- ▶ 再生を開始すると表示されます。
- ■ 停止すると表示されます。
- ❚❚ 一時停止すると表示されます。
- ◀◀ ▶▶ 早送り/早戻し再生をすると表示されます。
- ◀❚ ❚▶ スローモーション再生をすると表示されます(➡ 56 ページ参照)。
- 複数の音声言語が収録されている場面で表示されます(➡ 63 ページ参照)。
- 複数の字幕言語が収録されている場面で表示されます(➡ 64 ページ参照)。
- 複数のアングルが収録されている場面で表示されます(➡ 65 ページ参照)。

• オンスクリーンガイドは表示しないようにすることもできます(➡ 89 ページ参照)。

DVDプレーヤーの基本操作(つづき)

今見たシーンをもう一度見る

<ちょっと見バック>

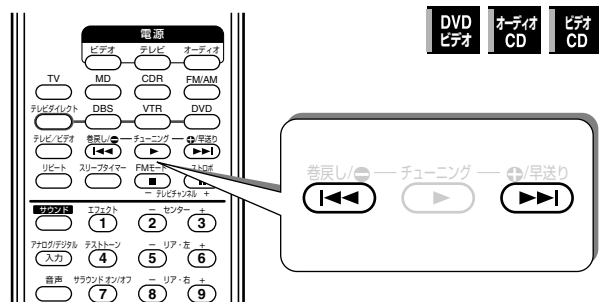
今見たシーンをワンタッチで巻き戻して、もう一度見ることができます。

≪再生中に≫

►(再生)ボタンを押す

およそ10秒前から再生が始まります。

早送り/早戻し再生をする

≪再生中に≫

►►Iまたは I◄◄ボタンを押し続ける

►►Iボタンを押し続けている間、5倍速の早送り再生になります。さらにおよそ8秒間押し続けると20倍の早送り再生になります。
I◄◄ボタンを押し続けている間、5倍速の早戻し再生になります。さらにおよそ8秒間押し続けると20倍の早戻し再生になります。

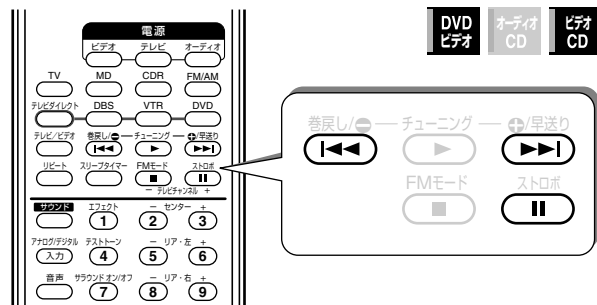
ボタンから手を離すと通常の再生に戻ります。

お知らせ

- オンスクリーンガイドを「オン」に設定しているときは、早送り/早戻し再生のスピードが次のように表示されます。

►► x20　例:順方向20倍のとき

◄◄ x5　例:逆方向5倍のとき

画像を1コマずつ送る/スローモーション再生する<スロー>

≪再生中に≫

II(一時停止)ボタンを押す

再生は一時停止します。
表示窓の時間表示の「:」が点滅します。

一時停止中には、次のことができます。

- **画像を1コマずつ送る**
  II(一時停止)ボタンを押すごとに静止画像が次のフレームに進みます。
- **スローモーション再生する**
  ►►Iボタンを1秒以上押すと順方向のスローモーション再生になります。一度手を離して、►►Iボタンを1秒以上押すごとに、再生スピードが次のように変化します。

  (順方向) $\frac{1}{32} \rightarrow \frac{1}{16} \rightarrow \frac{1}{8} \rightarrow \frac{1}{4} \rightarrow \frac{1}{2}$

  I◄◄ボタンを1秒以上押すと逆方向のスローモーション再生(DVDビデオのみ)になります。一度手を離して、I◄◄ボタンを1秒以上押すごとに、再生スピードが次のように変化します。

  (逆方向) $\frac{1}{32} \rightarrow \frac{1}{16} \rightarrow \frac{1}{8} \rightarrow \frac{1}{4} \rightarrow \frac{1}{2}$

►(再生)ボタンを押すと通常の再生に戻ります。

お知らせ

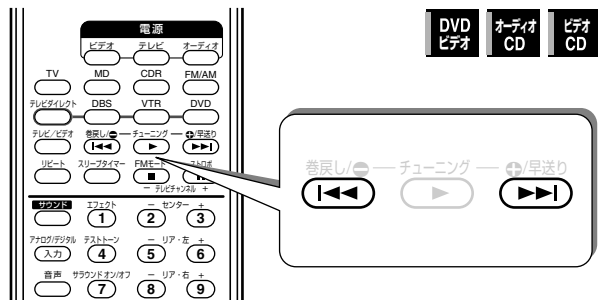
- スローモーション再生中、音声は再生されません。
- オンスクリーンガイドを「オン」に設定しているときは、スローモーション再生のスピードが次のように表示されます。

I► 1/2　例:順方向1/2のとき

◄I 1/32　例:逆方向1/32のとき

見たい場面や聞きたい曲を素早く選ぶ

▶▶|または|◀◀ボタンを使って頭出しをする

前後のチャプター(DVDビデオ)やトラック(オーディオCD/ビデオCD)の頭にスキップすることができます。

≪DVD　:再生中に≫
≪CD　:いつでも≫
≪ビデオCD　:停止中またはPBCオフで再生中に≫

▶▶|または|◀◀ボタンを押す

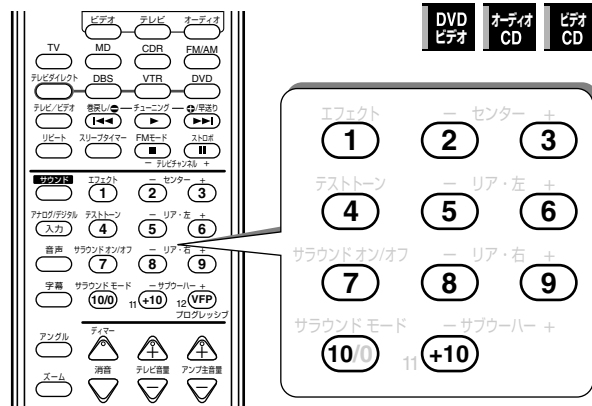
選んだチャプター/トラックが本体表示窓に表示され、再生が始まります。

- 先のチャプター/トラックに進むには、▶▶|ボタンをくり返し押します。
- 手前のチャプター/トラックに戻すには、|◀◀ボタンをくり返し押します。
- 現在再生しているチャプター/トラックの頭に戻すには、1回だけ|◀◀ボタンを押します。

ご注意

- DVDビデオやPBC機能(➡ 59 ページ参照)対応ビデオCDによっては、この機能を使えないものもあります。

数字ボタンを使って頭出しする

DVDビデオのタイトルやチャプター、オーディオCD/ビデオCDのトラックを数字ボタンで指定し、そこから再生を始めることができます。

≪DVD　:再生中に≫
≪CD　:いつでも≫
≪ビデオCD　:停止中またはPBCオフで再生中に≫

数字ボタンを使って番号を指定する

指定した番号が表示窓に表示され、再生が始まります(ダイレクト再生)。

- DVDビデオのときは、チャプターが指定されます。ただし、**複数のタイトルを持つDVDビデオが停止中のときは**、タイトルが指定されることがあります。
- CD/ビデオCDのときは、トラックが指定されます。

数字ボタンの使いかた

- **1 ～ 10 を選ぶには**
  その番号の数字ボタンを押す。
- **11 以上を選ぶには**
  +10ボタンを先に押してから1～10のボタンを押す。
  例) 番号「5」を選ぶには　:(5)を押します。
  番号「15」を選ぶには:(+10)➡(5)と押します。
  番号「20」を選ぶには:(+10)➡(10/0)と押します。
  番号「30」を選ぶには:(+10)➡(+10)➡(10/0)と押します。

ご注意

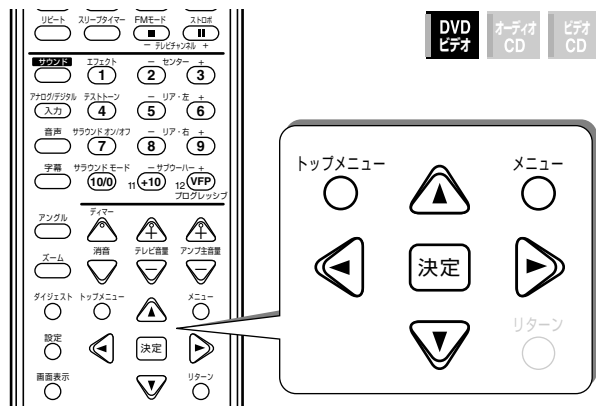
- DVDビデオやPBC機能(➡ 59 ページ参照)対応ビデオCDによっては、この機能を使えないものもあります。
- ⃠ が表示されたときは...
  押した番号のタイトルあるいはトラックが収録されていません。

DVDプレーヤーの基本操作(つづき)

メニューから再生する

DVDビデオのメニューや、ビデオCDのPBC(プレイバックコントロール)を使って、タイトル、チャプターまたはトラックを指定し、再生することができます。

DVDビデオのメニューから選ぶ

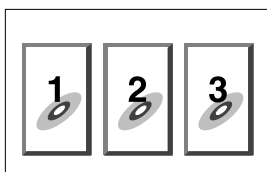
DVDビデオには、一般にメニュー画面が収録されています。メニュー画面の内容はさまざまで、映画のタイトルや曲目、あるいはアーティスト情報が表示されたりします。このメニュー画面から見たいところを選ぶことができます。

≪DVDが入っているとき≫

1 メニューボタンまたはトップメニューボタンを押す

メニュー画面が表示されます。

2 カーソル(▲/▼/►/◄)ボタンを使って見たい映像や項目選び、決定ボタンを押す

選択したところから再生されます。

例:

メニューボタンとトップメニューボタンについて

- 複数のタイトルが収録されているディスクでは、**トップメニュー**ボタンを押して、タイトル名のリストなどが表示されているメニュー画面を表示させます。

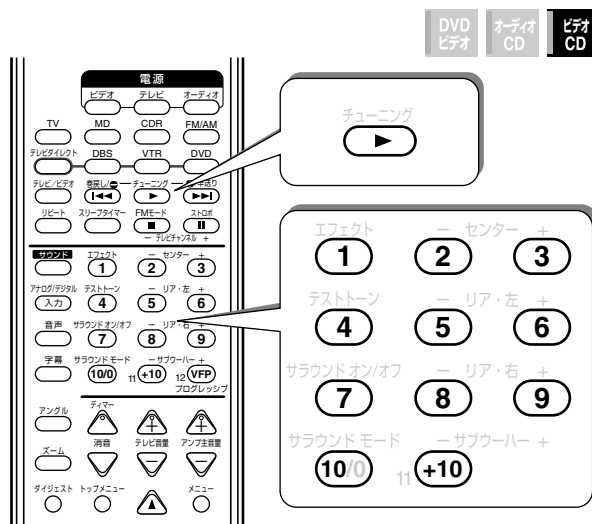
  また、タイトルが1つだけのディスクでも、メニュー画面が収録されているときは、**メニュー**ボタンを押して、メニュー画面を表示させることができます。

  各ディスクのメニュー構成についてはディスクの説明書をご覧ください。
- メニュー画面によっては**数字**ボタンを押すだけで見たい映像や項目を選ぶことができます。

ご注意

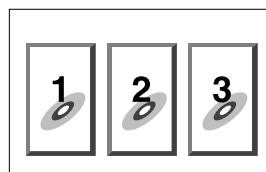
- **トップメニュー**ボタンを押したとき ⃠ が表示されたときは･･･
  そのディスクにタイトルやグループ一覧のリストを表示するようなメニュー画面が収録されておりません。
- **メニュー**ボタンを押して ⃠ が表示されたときは･･･
  そのディスクにメニュー画面自体が収録されておりません。
- 停止中は、**メニュー**ボタンは働きません。

ビデオCDのメニューから選ぶ

PBC(➡ 59 ページ参照)が記録されたビデオCDを再生すると、収録された内容の一覧がメニューとしてテレビ画面に表示されます。このメニュー画面から、見たいところを選ぶことができます。

≪PBC対応のビデオCDが停止中に≫

1 ►(再生)ボタンを押す

PBCのメニュー画面が表示されます。

例:

59 ページへ続く

2 数字ボタンを使って見たいところの番号を選ぶ

選んだ番号のところが再生されます。

数字ボタンの使いかた

- 1 ～ 10 を選ぶには
  その番号の数字ボタンを押す。
- 11 以上を選ぶには
  +10ボタンを先に押してから1～10のボタンを押す。
  例）番号「5」を選ぶには　：(5) を押します。
  　番号「15」を選ぶには：(+10)➡(5) と押します。
  　番号「20」を選ぶには：(+10)➡(10/0) と押します。
  　番号「30」を選ぶには：(+10)➡(+10)➡(10/0) と押します。

メニュー画面に戻したいときには

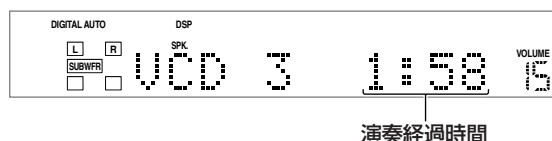
リターンボタンを押します。

ディスプレイに[次]または[前]が表示されたときは

- ►►ıボタンを押して、メニューの次のページへ進みます。
- ı◄◄ボタンを押して、メニューの前のページへ戻ります。

※ **操作方法はディスクにより異なります。**

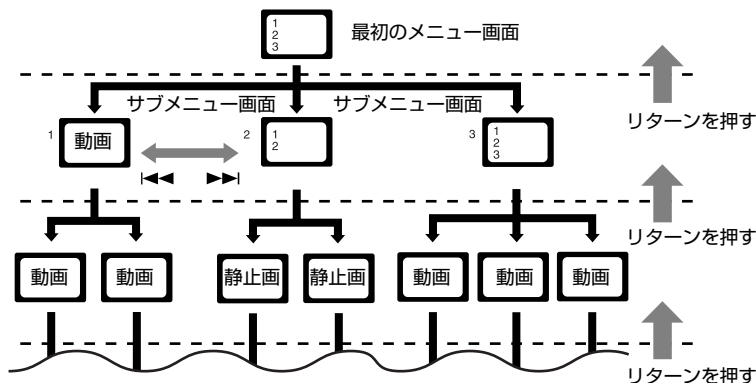
PBCをオン/オフするには

PBCオフで再生するには、停止中に、見たいトラック番号を**数字**ボタンを使って指定します。選んだトラックから通常の再生が始まります。
表示窓に演奏経過時間が表示されます。

PBCをふたたびオンにするには、再生中に、■**(停止)**ボタンを1回(リジューム機能が「オン」のときは2回)押してから、►**(再生)**ボタンを押します。
表示窓に「PBC」と表示されます。

プレイバックコントロール(PBC)について

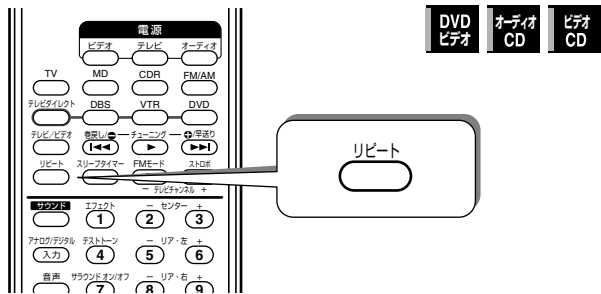
ビデオCDのプレイバックコントロール(PBC)では、いくつかの階層に分けられて収録されたディスクの内容を、画面の指示にしたがって、再生することができます。
PBC対応ディスクを再生すると、通常は最初のメニュー画面が表示されます。そこで画面に表示された項目や番号を選んで、見たいところを再生したり、次の画面に進んだりすることができます。
本機では、PBC対応のディスクでも、PBCを使わずに収録されたトラックを連続して再生することができます。

また、PBC対応ディスクは、動画の4倍以上の解像度を持つ高精細な静止画を収録することもできます。

PBCのメニュー再生の基本的な流れ

DVDプレーヤーの便利な機能

くり返し再生する（リピート）

再生中のチャプターやタイトル(DVDビデオのとき)、再生中のトラックや全トラック（DVDビデオ以外のとき）をくり返して再生することができます。

• メニューバーを使ってリピート再生をすることもできます。メニューバーを使うときは、指定した範囲をくり返し再生をすることもできます（➡ 74 75 ページ参照）。

≪DVD　　　：再生中に≫
≪CD　　　：停止中または再生中に≫
≪ビデオCD　：停止中またはPBCオフで再生中に≫

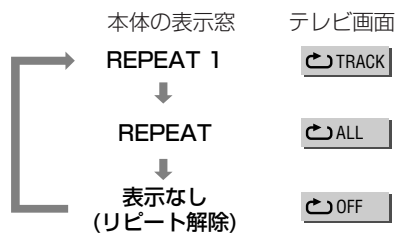
リピートボタンをくり返し押してお好みのリピート再生を選ぶ

押すごとに、テレビ画面と本体の表示窓のリピート(REPEAT)表示が次のように切り替わります。

REPEAT表示

• **DVDビデオのとき**

REPEAT 1/CHAP ：チャプターのリピート再生
REPEAT/TITLE ：タイトルのリピート再生

• **オーディオCDまたはビデオCDのとき**

REPEAT 1/TRACK ：トラックのリピート再生
REPEAT/ALL ：全トラックのリピート再生

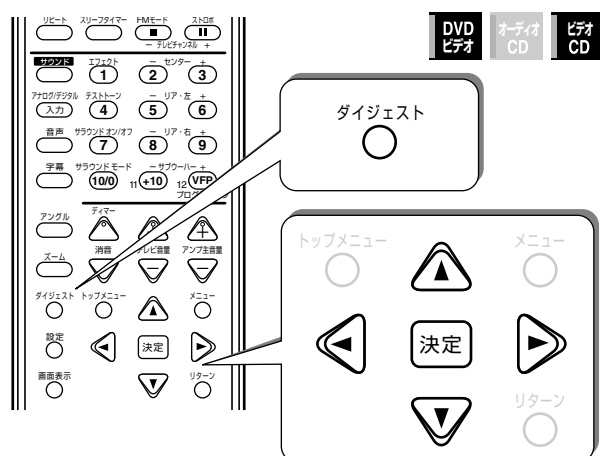
リピート再生をやめるには

■(停止)ボタンを押します。
DVDビデオのときは、再生を停止すると同時にリピート再生も解除されます。DVDビデオ以外のときは、再生を停止しますがリピート再生は解除されません。

リピート再生を解除するには

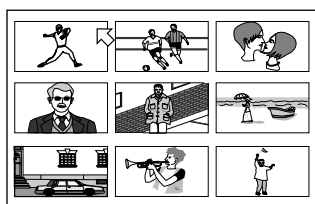
リピートボタンをくり返し押してテレビ画面のリピート表示を「OFF」にします。または、本体の表示窓のREPEAT表示を消灯させます。

ダイジェスト画面から選ぶ(ダイジェスト)

DVDビデオの各タイトル/チャプター、あるいはビデオCDの各トラックの最初の場面を一覧表示して、その中から、見たいところを選ぶことができます。

≪DVD　:停止中または再生中に≫
≪ビデオCD　:停止中またはPBCオフで再生中に≫

1 ダイジェストボタンを押す

ダイジェスト画面が現れます。
ディスクの種類や再生の状態によって、次のような違いがあります。

- **DVDビデオの停止中**
  各タイトルの最初の場面が最大9つまで一覧表示されます。
- **DVDビデオの再生中**
  現在のタイトル内の各チャプターの最初の場面が最大9つまで一覧表示されます。
- **ビデオCD**
  各トラックの最初の場面が最大9つまで一覧表示されます。

例:ダイジェスト画面

2 カーソル(▲/▼/►/◄)ボタンを使って ☐ を見たい場面を合わせる

選んでいる場面

- 収録されているタイトル、チャプター、あるいはトラックが9つより多くある場合はダイジェスト画面が2ページ以上になります。
  この場合、►►Iボタンを押すと次ページが表示されます。
  前のページに戻りたいときはI◄◄ボタンを押します。

3 決定ボタンを押す

通常の画面に戻り、選んだ場面から再生が始まります。

お知らせ

- ダイジェスト画面右下に表示された場面を選んでいるとき、カーソル(►)ボタンを押すと次のページが表示されます。
- ダイジェスト画面左上に表示された場面を選んでいるとき、カーソル(◄)ボタンを押すと前のページが表示されます。

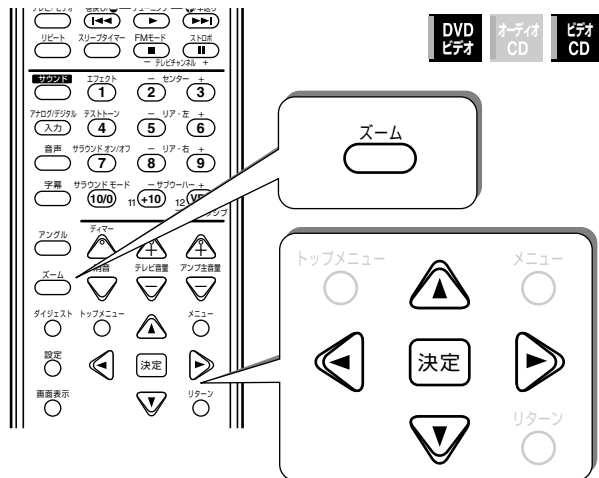
ご注意

- ディスクによっては、ダイジェスト画面が表示されるまでに時間がかかる場合があります。

DVDプレーヤーの便利な機能（つづき）

画面を拡大する（ズーム）

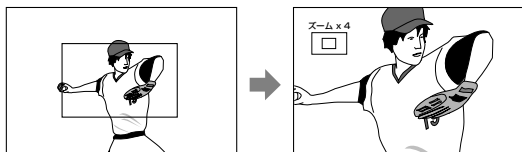
画面上のお好みの場所を拡大して見ることができます。

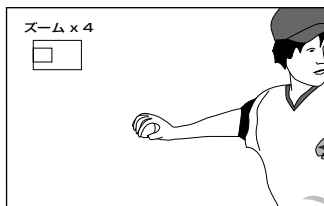
DVDビデオ　オーディオCD　ビデオCD

《再生中または一時停止中に》

1 ズームボタンを押す

画面が拡大されます。

- ボタンを押すごとに、倍率が次のように変化します。

2倍 → 4倍 → 8倍 → 16倍 → 32倍 → 64倍 → 128倍 → 256倍 → 512倍 → 1024倍

画面の左上部に現在の倍率と拡大位置表示が表示されます。拡大したい場所を選ぶには次の手順で行います。

2 カーソル（▲/▼/◄/►）ボタンを押して、拡大したい部分を選ぶ

通常の画面に戻すには

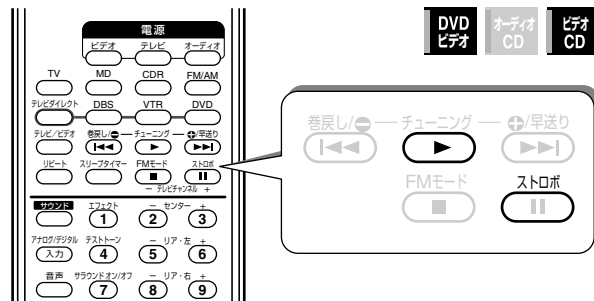
決定ボタンを押します。

ご注意

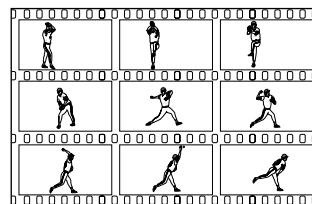
- 拡大すると、画質が悪化したり、画像がブレることがあります。

連続写真のように表示する（ストロボ）

画面を9分割して、連続写真のように表示することができます。

DVDビデオ　オーディオCD　ビデオCD

《一時停止中または再生中に》

ストロボボタンを1秒以上押し続ける

画面が9分割（ストロボ画面）されて表示されます。

- **一時停止中には**
  静止画が表示されます。
  ストロボボタンをくり返し押すと、ストロボ画面の左上から右下に向かって、1コマずつ送られていきます。
  また、►**(再生)**ボタンを押すと、少しずつ時間のずれた動画が、ストロボ画面のまま表示されます。
- **再生中には**
  少しずつ時間のずれた動画が、ストロボ画面のまま表示されます。
  ストロボボタンを押すと、ストロボ画面の中の動画がすべて静止します。

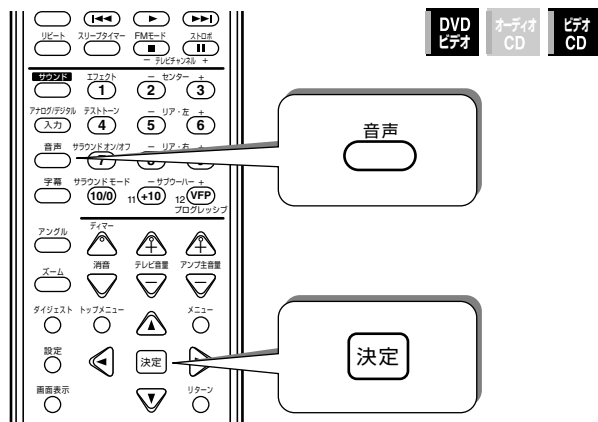
ストロボ機能を解除するには

ストロボボタンを1秒間以上押し続けます。

音声言語/音声を選ぶ(音声)

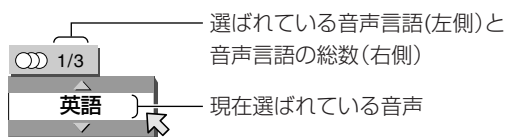
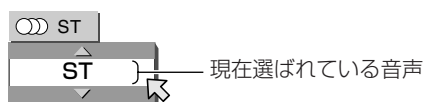
DVDビデオやビデオCDの中には複数の音声言語/音声が収録されているものがあります。
それらの中から希望する音声言語/音声を選ぶことができます。
ビデオCDの場合、音声を切り替えることによって、カラオケの歌あり/なしを選ぶことができます。

複数の音声が収録されているDVDビデオでは、再生の冒頭で画面に◯))が表示されます。

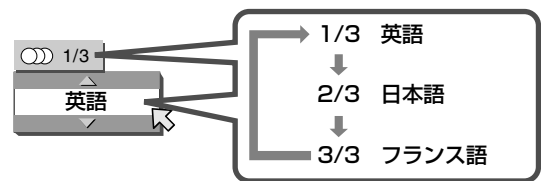
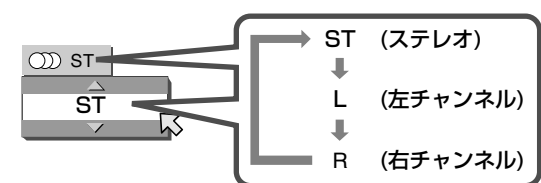
- オンスクリーンガイドが「オフ」のときは(➡ 89 ページ参照)◯))は表示されません。
- メニューバーを使って、音声を選ぶこともできます。(➡ 76 77 ページ参照)

《再生中に》

1 音声ボタンを押す

テレビ画面に音声選択ウィンドウが表示されます。

例:DVDビデオのとき

例:ビデオCDのとき

2 音声ボタンをくり返し押して、音声言語/音声を選ぶ

ボタンを押すごとに、音声言語/音声が切り替わります。

例:DVDビデオのとき

例:ビデオCDのとき

音声選択ウィンドウを消すには

決定ボタンを押します。
何も操作しないと、ウィンドウは数秒間で消えます。

音声言語の表記について

DVDビデオの再生中、音声選択ウィンドウに表示される音声言語のうち、英語、スペイン語、フランス語、中国語、ドイツ語、イタリア語、日本語以外は言語コード(➡ 84 ページ参照)で表示されます。

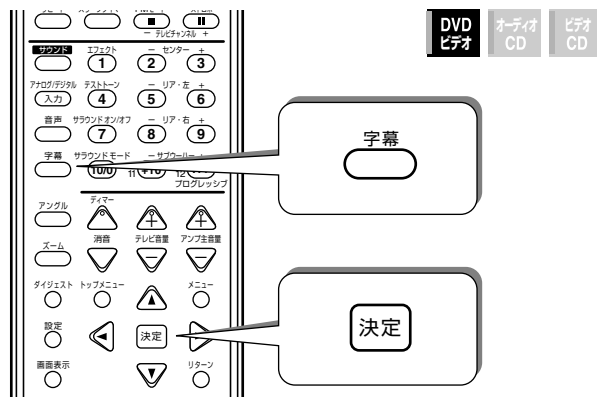
ご注意

- ⃠ が表示されたときは･･･
  ディスクに複数の音声が収録されていないか、その操作が禁止されています。
- 音声の切り替えは、ディスクに収録されていない音声言語/音声については、ご使用になれません。

DVDプレーヤーの便利な機能(つづき)

字幕を切り替える(字幕)

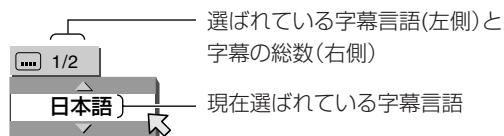
DVDビデオの中には、複数の字幕言語が収録されているものがあります。それらの中から希望する言語を選びます。
複数の字幕が収録されているソフトでは、再生の冒頭で[....]が画面に表示されます。

- オンスクリーンガイドが「オフ」のときは(➡ 89 ページ参照)[....]は表示されません。
- メニューバーを使って、字幕を選ぶこともできます。(➡ 76 77 ページ参照)

《再生中に》

1 字幕ボタンを押す

テレビ画面に字幕選択ウィンドウが表示されます。

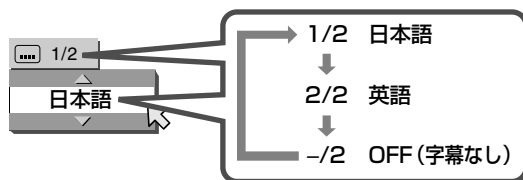
2 字幕ボタンをくり返し押して、字幕言語を選ぶ

ボタンを押すごとに、字幕言語が切り替わります。
例:

字幕選択ウィンドウを消すには

決定ボタンを押します。
何も操作しないと、ウィンドウは自動的に消えます。

字幕言語の表記について

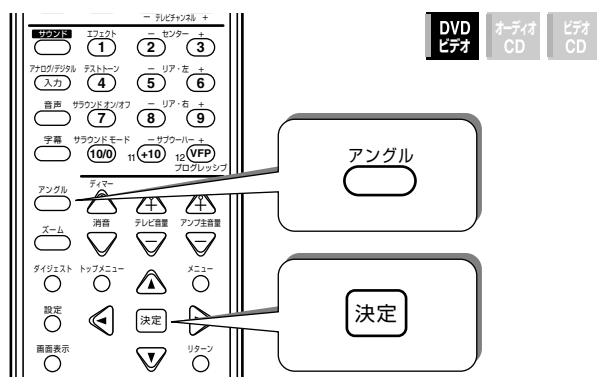
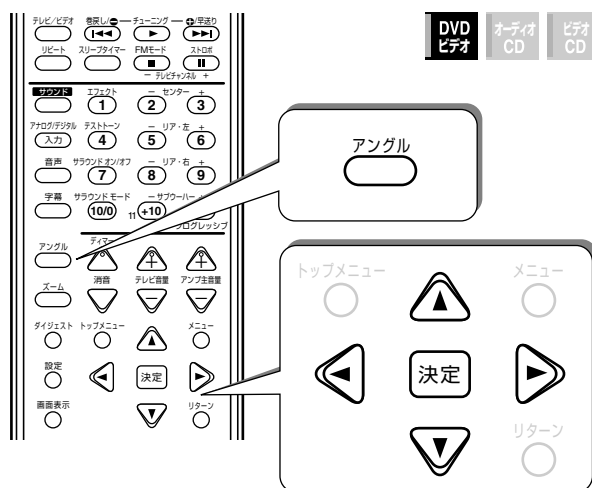
DVD再生中、字幕選択ウィンドウに表示される字幕言語のうち、英語、スペイン語、フランス語、中国語、ドイツ語、イタリア語、日本語以外は言語コード(➡ 84 ページ参照)で表示されます。

ご注意

- ⃠ が表示されたときは･･･
  ディスクに字幕が収録されていないか、その操作が禁止されています。
- 字幕の切り替えは、ディスクに収録されていない言語については、ご使用になれません。

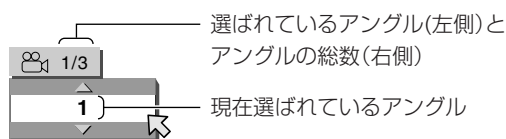
アングルを切り替える(アングル)

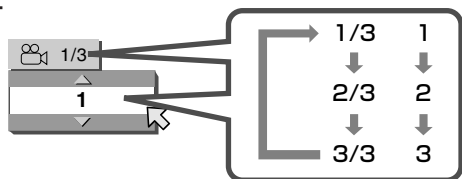
DVDビデオの中には、複数のカメラを使って異なる角度から撮影した映像(マルチアングル)が収録されたものがあります。
このようなディスクを再生するときに、どの角度からの映像を見るか選択することができます。
マルチアングルが収録されたDVDビデオでは、再生の冒頭で画面にが表示されます。

- アングル選択ウィンドウとアングルリストから選ぶことができます。
- オンスクリーンガイドが「オフ」のときは(➡ 89 ページ参照)は表示されません。
- メニューバーを使って、アングルを選ぶこともできます。(➡ 76 77 ページ参照)

■アングル選択ウィンドウから選ぶ

《再生中に》

1 アングルボタンを押す

テレビ画面にアングル選択ウィンドウが表示されます。

2 アングルボタンをくり返し押して、アングルを選ぶ

ボタンを押すごとに、アングルが切り替わります。
例:

アングル選択ウィンドウを消すには

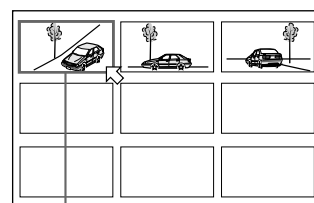
決定ボタンを押します。
何も操作しないと、ウィンドウは自動的に消えます。

■アングルリストから選ぶ

《再生中に》

1 アングルボタンを1秒間以上押し続ける

画面上にアングルリスト(最大9アングル)が表示されます。

2 カーソル(▲/▼/◀/▶)ボタンを押して を見たいアングルに合わせる

選んでいるアングル

3 決定ボタンを押す

通常の画面に戻り、選んだアングルで再生されます。

- ▶**(再生)**ボタンを押してアングルを決定することもできます。

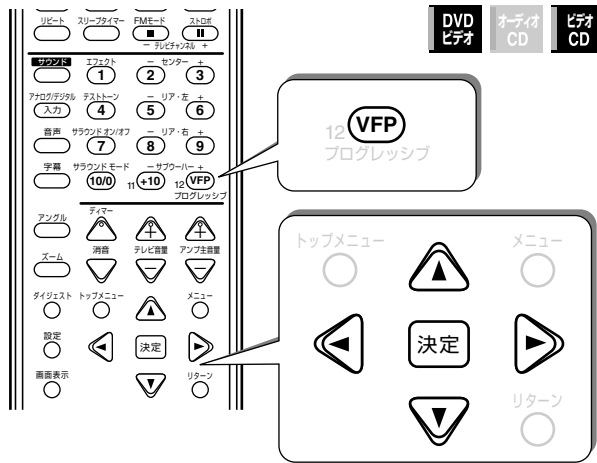
ご注意

- が表示されたときは･･･
  ディスクにマルチアングルが収録されていないか、その操作が禁止されています。
- アングルリスト表示中は、音声は消えますが、再生は続いています。

DVDプレーヤーの便利な機能(つづき)

画質を調節する(VFP)

VFP(Video Fine Processor)機能を使うことにより、映像を観賞する部屋の照明やお好みに合わせて画質を調節することができます。

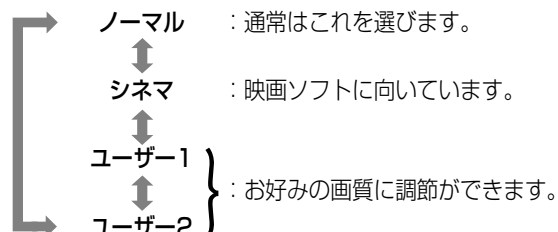
- **操作の前に、リモコンのDVDボタンを押してリモコンの操作モードをDVDにしてください。**

《再生中に》

1 VFPボタンを押す

テレビ画面にVFP設定ウィンドウが表示されます。

現在選択されている VFP モード

2 カーソル(►/◄)ボタンを使ってVFPモードを選ぶ

カーソル(►/◄)ボタンを押すごとに、次のようにVFPモードが切り替わります。

ユーザー1、2を選んだときは

続く手順**3**〜**6**で設定項目の調節をすることができます。
設定項目の調節内容は記憶されます。

3 カーソル(▲/▼)ボタンを押して設定項目を選ぶ

設定項目

ガンマ	：	画面の暗い部分と明るい部分の明るさを変えずに、中間の明るさを調節します。
明るさ	：	画面の明るさを調節します。
コントラスト	：	画面のコントラストを調節します。
色のこさ	：	画面の色のこさを調節します。
色合い	：	画面の色合いを調節します。
シャープネス	：	画面のシャープさを調節します。
Yディレイ	：	画面の色ズレを調節します。

4 決定ボタンを押す

VFP設定ウィンドウが消えて、項目ごとの調節ウィンドウが表示されます。

例：「ガンマ」を選んだとき

5 カーソル(▲/▼)ボタンを押して設定項目の調節をする

カーソル(▲)ボタンを押すと数値が大きくなります。
カーソル(▼)ボタンを押すと数値が小さくなります。

- 数値の調節範囲は、設定項目によって異なります。

6 決定ボタンを押す

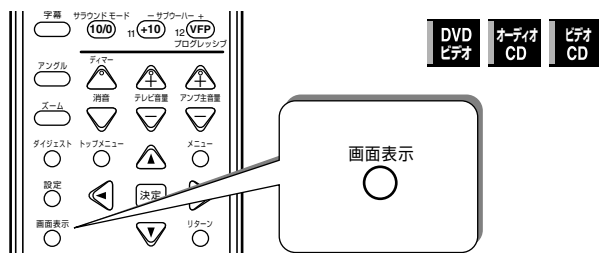
再び、VFP設定ウィンドウが表示されます。
他の項目の調節をするときは、手順**3**〜**6**をくり返します。

VFP設定表示を消すには

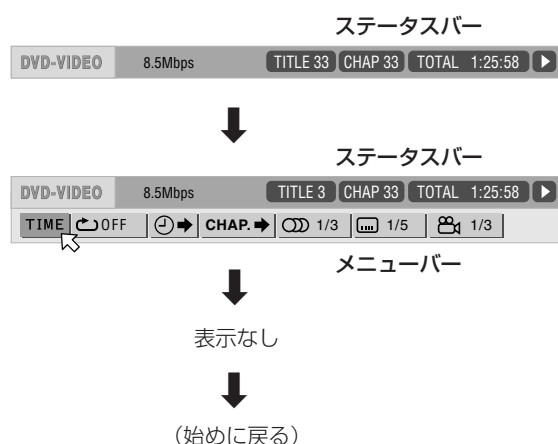
VFPボタンを押します。
数秒間何も操作しないと、VFP設定ウインドウは自動的に消えます。

ステータスバーとメニューバー

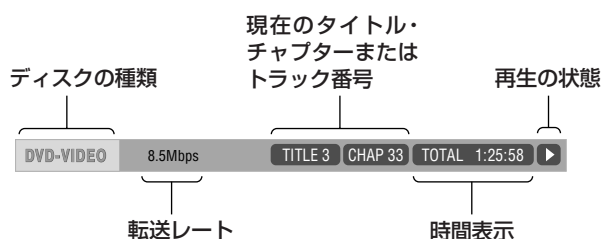
本機では、テレビ画面上に、**ステータスバー**と**メニューバー**を表示させることができます。これらの表示を使って、再生中のディスクの情報を確認したり（ステータスバー）、さまざまな機能を呼び出して使う（メニューバー）ことができます。
- MP3ディスク/JPEGディスクの再生中には、ステータスバー/メニューバーは使えません。

ステータスバーとメニューバーを表示させる（画面表示）

《再生中または停止中に》

画面表示ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように表示が切り替わります。
例：DVDビデオのとき

ご注意
- DVDメニューやビデオCDのメニュー画面が表示されているとき、メニューバーを表示すると、DVDメニューやビデオCDのメニュー画面での操作がうまくいかないときがあります。このようなときは、メニューバー表示を消してください。

ステータスバーについて

ステータスバーには次の情報が表示されます。

- **ディスクの種類**

  DVDビデオのとき：DVD-VIDEO

  オーディオCDのとき：CD

  ビデオCDのとき：VCD

- **転送レート（DVDビデオのみ）**

  映像の単位時間当たりの平均情報量を示しています。

- **現在のタイトル・チャプターまたはトラック番号**

  DVDビデオのとき：TITLE 33 CHAP 33

  現在のタイトル番号とチャプター番号が表示されます。

  オーディオCD・ビデオCDのとき：TRACK 33

  現在のトラック番号が表示されます。

- **時間表示**

  次の4つの時間表示ができます。
  - 現在再生中のチャプターまたはトラックの経過時間
  - 現在再生中のチャプターまたはトラックの残り時間
  - ディスクの最初からの経過時間
  - ディスクの残り時間

  詳しくは、「ディスクの時間情報を見る」（➡ 69 ページ参照）をご覧ください。

- **再生の状態**

  DVDプレーヤーの再生の状態を表示します。

  再生中：▶　停止中：■

  一時停止中：❚❚　早送り/早戻し中：◀◀ ▶▶

  スロー再生中：◀❚ ❚▶

ステータスバーとメニューバーを表示させる(画面表示)（つづき）

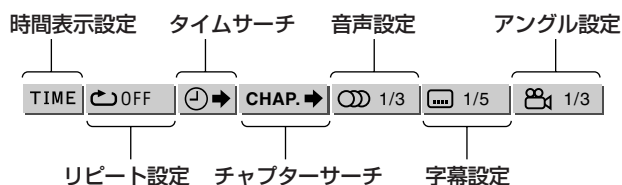
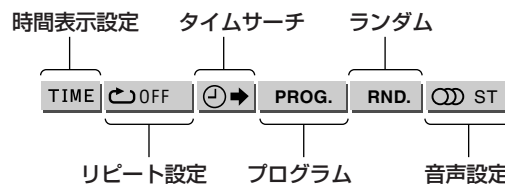
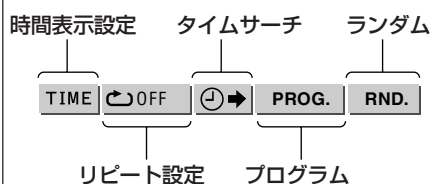
メニューバーについて

メニューバーからは次の操作をすることができます。メニューバーの項目はディスクの種類によって異なります。
詳しい使い方は、各項目の説明をご覧ください。

DVDビデオのときのメニューバーの項目

時間表示設定　タイムサーチ　音声設定　アングル設定

TIME | OFF | CHAP. | 1/3 | 1/5 | 1/3

リピート設定　チャプターサーチ　字幕設定

ビデオCDのときのメニューバーの項目

オーディオCDのときのメニューバーの項目

● TIME **時間表示設定**　DVDビデオ　オーディオCD　ビデオCD
ステータスバーの時間表示を切り替えるとき選びます。詳しくは、「ディスクの時間情報を見る」(➡ 69 ページ参照)をご覧ください。

● OFF **リピート設定**　DVDビデオ　オーディオCD　ビデオCD
いろいろなくり返し再生するとき選びます。詳しくは、「くり返し再生する」(➡ 74 75 ページ参照)をご覧ください。

● **タイムサーチ**　DVDビデオ　オーディオCD　ビデオCD
時間で、再生したい場所を指定するとき選びます。詳しくは、「指定した時間から再生する」(➡ 70 ページ参照)をご覧ください。

● CHAP. **チャプターサーチ**　DVDビデオ
DVDで再生したいチャプターを指定するとき選びます。詳しくは、「指定したチャプターから再生する」(➡ 71 ページ参照)をご覧ください。

● 1/3 **音声設定**　DVDビデオ　ビデオCD
複数の音声を楽しめるディスクの再生中、異なる音声に切り替えるとき選びます。詳しくは、「音声言語/音声/字幕/アングルを切り替える」(➡ 76 77 ページ参照)をご覧ください。

● 1/2 **字幕設定**　DVDビデオ
字幕機能を持つディスクの再生中、字幕をなしにしたり、他の字幕に切り替えるとき選びます。詳しくは、「音声言語/音声/字幕/アングルを切り替える」(➡ 76 77 ページ参照)をご覧ください。

● 1/3 **アングル設定**　DVDビデオ
複数のアングルを持つDVDの再生中、アングルを切り替えるとき選びます。詳しくは、「音声言語/音声/字幕/アングルを切り替える」(➡ 76 77 ページ参照)をご覧ください。

● PROG. **プログラム再生**　オーディオCD　ビデオCD
プログラム再生をするとき選びます。
ディスクの再生が停止しているとき使います。詳しくは、「順番を決めて再生する」(➡ 72 ページ参照)をご覧ください。

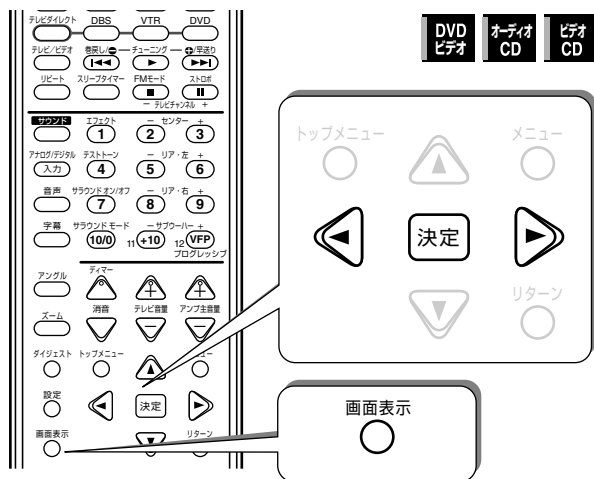
● RND. **ランダム再生**　オーディオCD　ビデオCD
ランダム再生をするとき選びます。
ディスクの再生が停止しているとき使います。詳しくは、「無作為な順番で再生する」(➡ 73 ページ参照)をご覧ください。

メニューバーを使う

メニューバーを使って様々な操作をします。

• **操作の前に、リモコンのDVDボタンを押してリモコンの操作モードをDVDにしてください。**

ディスクの時間情報を見る

ステータスバーの時間表示の切り替えをします。
メニューバーを使って切り替えます。

《再生中または停止中に》

1 画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる

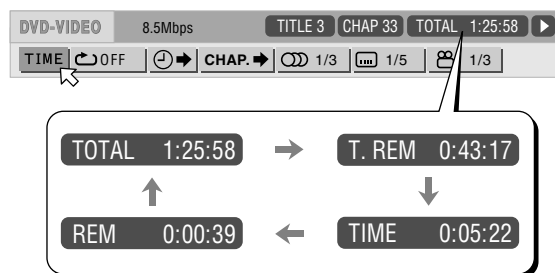
例:DVDビデオのとき

2 カーソル(►/◄)ボタンをくり返し押して ↖ を TIME まで移動させる

選択中の項目の色が変わります。

3 決定ボタンをくり返し押してお好みの時間表示を表示させる

ボタンを押すごとに、ステータスバーの時間表示は次のように切り替わります。

• 本体の表示窓の時間表示も切り替わります。

DVDビデオのとき

TOTAL：タイトルの再生経過時間
T. REM：タイトルの残り再生時間
TIME　：チャプターの再生経過時間
REM　：チャプターの残り再生時間

• 停止中はすべての時間表示が「– –:– –:– –」となります。

DVDビデオ以外のとき

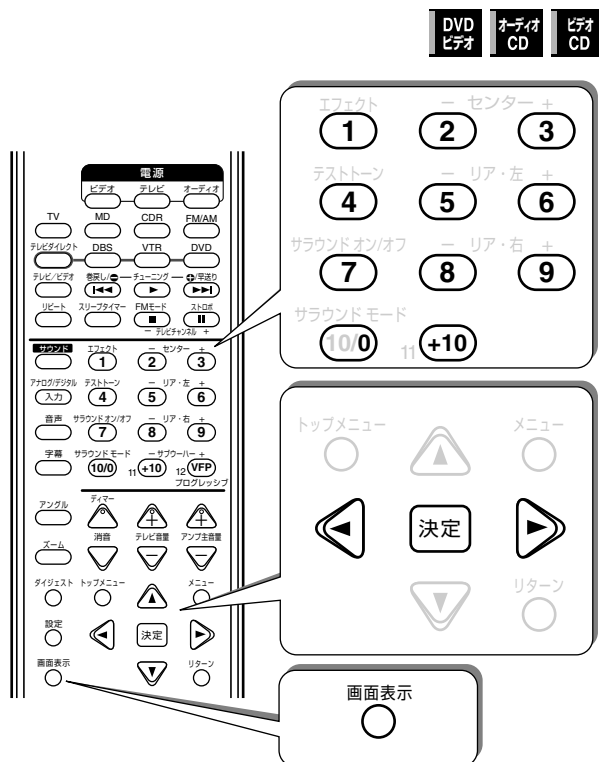
TOTAL：ディスクの頭からの再生経過時間
T. REM：ディスクの残り再生時間
TIME　：トラックの再生経過時間
REM　：トラックの残り再生時間

ステータスバーを消すには

画面表示ボタンをステータスバーが消えるまでくり返し押します。

メニューバーを使う(つづき)

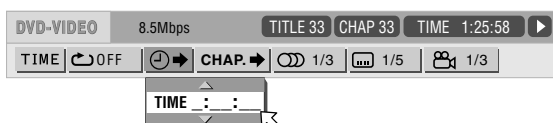
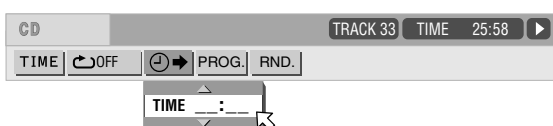
指定した時間から再生する<タイムサーチ>

タイムサーチ機能を使うと、現在のタイトル(DVDビデオのとき)またはディスクの頭(DVDビデオ以外のとき)からの経過時間を指定することによって、希望の位置から再生を始めることができます。ただしDVDビデオの中には時間情報が記録されていないものもあります。そのようなディスクに対してはこの機能を使えません。

≪DVD　：いつでも≫
≪CD　：いつでも≫
≪ビデオCD　：停止中またはPBCオフで再生中に≫

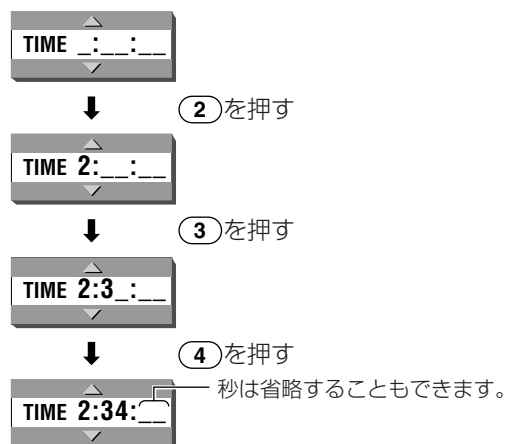
1 画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる

2 カーソル(►/◄)ボタンをくり返し押して ↖ を ⌚➡ に合わせ、決定ボタンを押す

時間を入力するプルダウンメニューが表示されます。

例：DVDビデオ再生中のとき

例：CD再生中のとき

3 数字ボタン(1〜9、0)を使って時間を入力する

指定した時間がプルダウンメニューに表示されます。DVDビデオでは「時・分・秒」で最大9時間59分59秒まで、その他のディスクでは「分・秒」で最大99分59秒まで指定します。

例：DVDを2時間34分から再生するとき

- **入力時間を間違ったときは**
  カーソル(◄)ボタン使って数字を消しながら戻り、正しい時間を入力し直してください。

4 決定ボタンを押す

指定した時間から再生が始まります。

ステータスバーを消すには

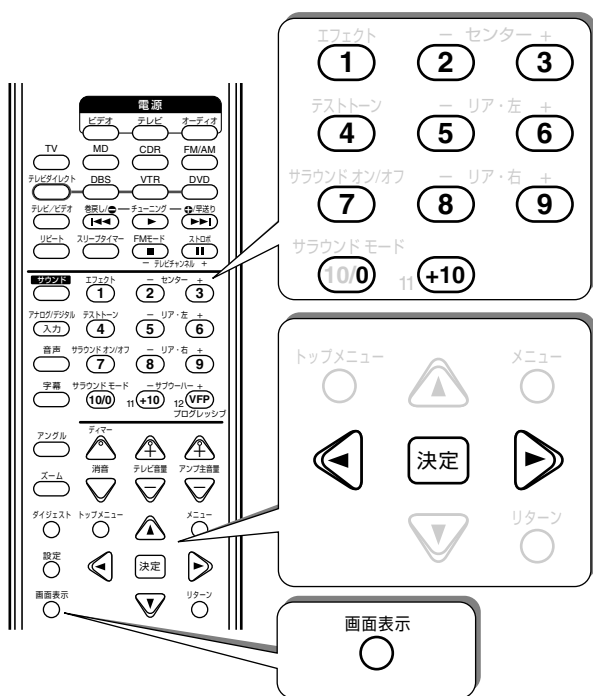
画面表示ボタンをステータスバーが消えるまでくり返し押します。

ご注意

- 手順**4**で ⃠ が表示されときは･･･
  入力した時間がディスクの収録時間の範囲にないので、タイムサーチは機能しません。また、ディスクによってはこの機能を受け付けない場合があります。
- PBC再生中のビデオCDではタイムサーチ機能は働きません。

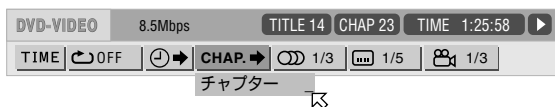
指定したチャプターから再生する
＜チャプターサーチ＞

チャプターサーチ機能を使うと、現在再生中のタイトルのチャプターを指定して再生を始めることができます。

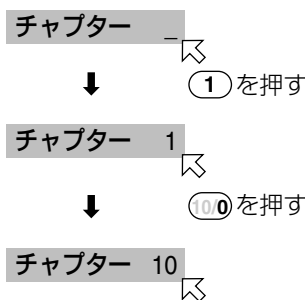
- **操作の前に、リモコンのDVDボタンを押してリモコンの操作モードをDVDにしてください。**

≪再生中に≫

1 画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる

2 カーソル(►/◄)ボタンをくり返し押して を CHAP.➡ に合わせ、決定ボタンを押す

チャプター番号を入力するプルダウンメニューが表示されます。

3 数字ボタン(1～9、0)を使って時間を入力する

指定したチャプターが番号プルダウンメニューに表示されます。

例:チャプター10から再生するとき

- **チャプター番号を間違ったときは**
  正しい数字ボタンを押し直してください。

4 決定ボタンを押す

指定したチャプターから再生が始まります。

ステータスバーを消すには

画面表示ボタンをステータスバーが消えるまでくり返し押します。

ご注意

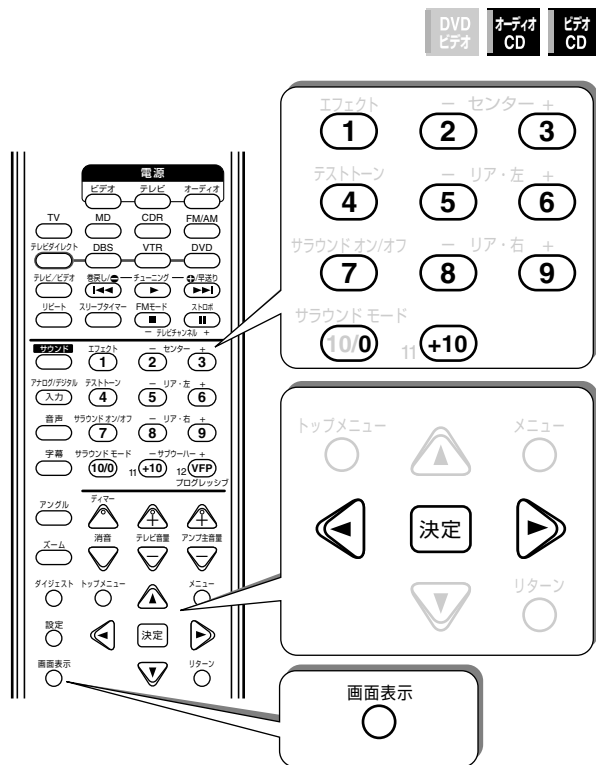
- 手順**4**で ⃠ が表示されときは･･･
  入力したチャプター番号が再生中のタイトルにないので、チャプターサーチは機能しません。また、ディスクによってはこの機能を受け付けない場合があります。

メニューバーを使う(つづき)

順番を決めて再生する <プログラム再生>

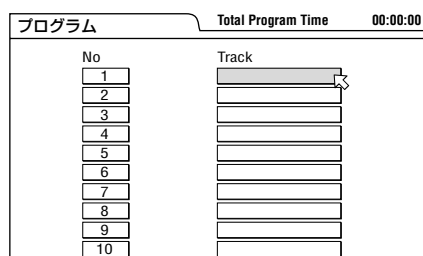
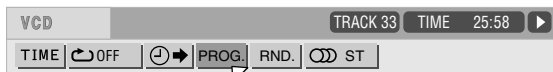
再生するトラックの順番を、最大99トラックまで自由に決めることができます。同じトラックを2回以上再生することもできます。

- **操作の前に、リモコンのDVDボタンを押してリモコンの操作モードをDVDにしてください。**

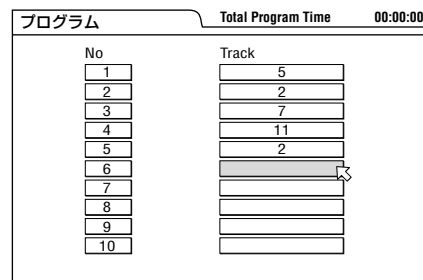
DVDビデオ オーディオCD ビデオCD

《停止中に》

1 画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる

2 カーソル(►/◄)ボタンをくり返し押して を PROG. に合わせ、決定ボタンを押す

プログラム画面が表示されます。

- 本体の表示窓のPROGRAM(プログラム)表示も点灯します。

3 数字ボタン(1～10、+10)を使って再生したい順にトラック番号を選ぶ

No	Track
1	5
2	2
3	7
4	11
5	2
6	
7	
8	
9	
10	

99トラックまで設定することができます。また、一度選んだトラックをもう一度選ぶこともできます。

- **プログラムの設定を間違えたときは**
  修正したいところまで を動かし、**■(停止)**ボタンを押します。

4 ►(再生)ボタンを押して再生する

プログラムした順番で再生が始まります。

プログラム再生を途中でやめるには

■(停止)ボタンを押します。
プログラム画面が表示されます。

プログラム画面を消すには

画面表示ボタンを押します。
プログラム画面は消えますが、プログラムの内容は消去されません。
►(再生)ボタンを押すと、再びプログラム再生が始まります。

プログラムの内容を消去するには

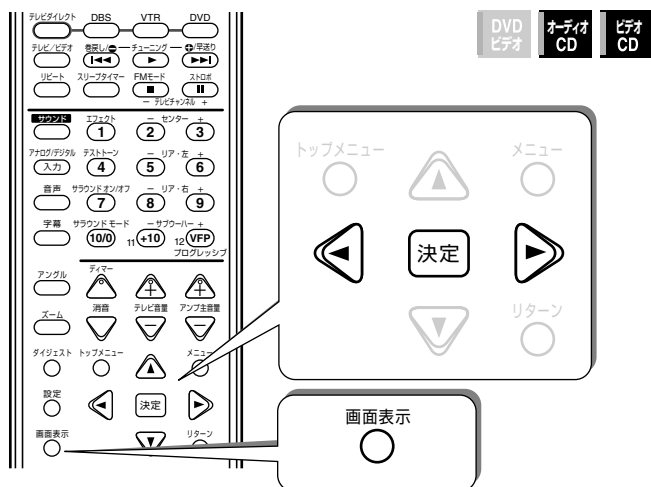
停止中に、プログラム画面を消して**■(停止)**ボタンを押します。すべてのプログラム内容が消去され、本体の表示窓のPROGRAM表示も消えます。

お知らせ

- プログラム再生中、►►|ボタンを押すと次にプログラムされているトラックにスキップし、|◄◄ボタンを押すと再生中のトラックの頭に戻ります。
- プログラムされたすべてのトラックの再生が終わると停止しますが、プログラムの内容は残ります。
- 次の操作をするとプログラムの内容が消去されます。
  －ディスクトレイを開ける
  －ソース(音源)を切り替える
  －電源「**切**」にする

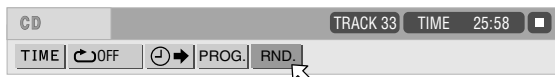
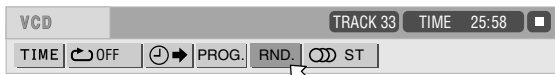
無作為な順番で再生する <ランダム再生>

ランダム再生では、トラックの順番がランダム(無作為)に一度ずつ再生されます。

DVDビデオ オーディオCD ビデオCD

《停止中に》

1 画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる

2 カーソル(►/◄)ボタンをくり返し押して ⇖ を RND. に合わせる

オーディオCDのとき:

ビデオCDのとき:

3 決定ボタンを押す

ランダム再生が始まります。
ランダム再生中は、本体の表示窓のRANDOM(ランダム)表示が点灯します。

すべてのトラックの再生が終了すると、ランダム再生は解除されます。

ランダム再生を途中で解除するには

ランダム再生中に ⇖ を RND. に合わせて、**決定**ボタンを押すと、ランダム再生が解除され、再生しているところからの通常再生になります。

ランダム再生をやめるには

■(**停止**)ボタンを押します。
ランダム再生は解除されます。

お知らせ

- ランダム再生では、すべてのトラックが1回ずつ再生されます。
- 次の操作をするとランダム再生は解除されます。
  - ディスクトレイを開ける
  - ソース(音源)を切り替える
  - 電源「**切**」にする

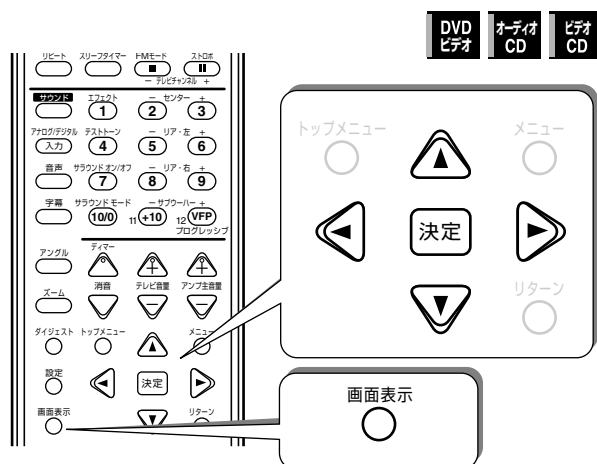
ステータスバーとメニューバー(つづき)

メニューバーを使う(つづき)

くり返し再生する <リピート再生>

再生中のチャプターやタイトル(DVDビデオのとき)、再生中のトラックや全トラック(DVDビデオ以外のとき)をくり返して再生することができます。また、指定した範囲をくり返し再生することができます(A-Bリピート)。

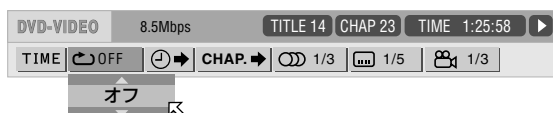
- **リピート**ボタンを使ってリピート再生をすることもできます(➡ 60 ページ参照)。

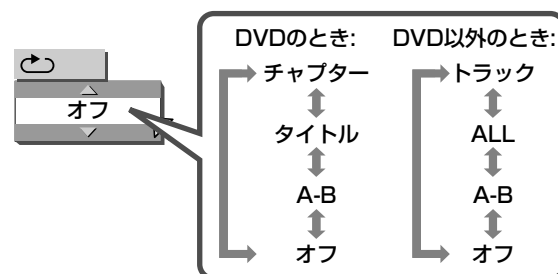
● タイトル/チャプター/トラック/全トラックをくり返す

DVD ビデオ　オーディオ CD　ビデオ CD

≪DVD　　:再生中に≫
≪CD　　:停止中または再生中に≫
≪ビデオCD　:停止中またはPBCオフで再生中に≫

1 **画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる**

2 **カーソル(►/◄)ボタンをくり返し押して ↖ を [OFF] に合わせ、決定ボタンを押す**

プルダウンメニューが表示されます。

3 **カーソル(▲/▼)ボタンをくり返し押してお好みのリピート再生を選ぶ**

押すごとに次のように切り替わります。

DVDビデオのとき

チャプター	: チャプターのリピート再生
タイトル	: タイトルのリピート再生
A-B*	: 指定範囲のリピート再生
オフ	: リピート再生の解除

DVDビデオ以外のとき

トラック	: トラックのリピート再生
ALL	: 全トラックのリピート再生
A-B*	: 指定範囲のリピート再生
オフ	: リピート再生の解除

* 停止中には「A-B」は表示されません。

4 **決定ボタンを押す**

リピート再生が始まります。
本体の表示窓のREPEAT(リピート)表示が点灯します。

- 停止中のときは、►**(再生)**ボタンを押して再生を始めます。

リピート再生をやめるには

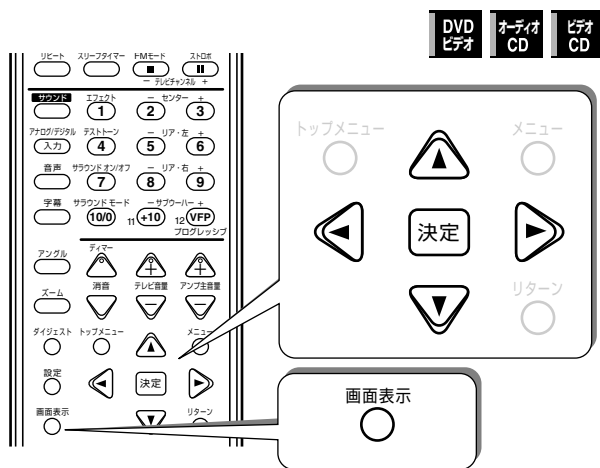
■(停止)ボタンを押します。
DVDビデオのときは、再生を停止すると同時にリピート再生も解除されます。DVDビデオ以外のときは、再生は停止しますがリピート再生は解除されません。

リピート再生を解除するには

手順**3**で「オフ」を選びます。
本体の表示窓のREPEAT(リピート)表示が消灯します。

ステータスバーを消すには

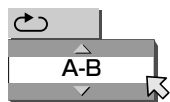
画面表示ボタンをステータスバーが消えるまでくり返し押します。

● 指定した範囲をくり返し再生する<A-Bリピート>

≪DVD　　　：再生中に≫
≪CD　　　　：再生中に≫
≪ビデオCD　：PBCオフで再生中に≫

1 画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる

2 カーソル(►/◄)ボタンをくり返し押して を OFF に合わせ、決定ボタンを押す

プルダウンメニューが表示されます。

3 カーソル(▲/▼)ボタンをくり返し押して「A-B」を選ぶ

• プルダウンメニューでの切り替えについては、前のページの手順**3**をご覧ください。

4 くり返したい部分の頭で、決定ボタンを押す(Aポイント)

プルダウンメニューが消え、メニューバーに A- が表示されます。

5 くり返したい部分の終わりで、決定ボタンを押す(Bポイント)

メニューバーの表示が A-B に替わり、AポイントBポイント間のリピート再生が開始されます。

A-Bリピート再生を解除するには

■**(停止)**ボタンを押すと、再生が停止し、A-Bリピート再生は解除されます。
または、メニューバーの A-B に を合わせ、**決定**ボタンを押しても解除されますが、通常の再生は続きます。
►►|または|◄◄ボタンを押しても、A-Bリピート再生は解除されます。

ステータスバーを消すには

画面表示ボタンをステータスバーが消えるまでくり返し押します。

ご注意

• ⃠ が表示されたときは･･･
ディスクによってはA-Bリピート再生ができないものもあります。
• タイトル、またはトラックをまたがるA-Bリピート再生はできません。
• プログラム再生中やランダム再生中、またはリピート再生中は、A-Bリピートはできません。

本体表示窓のリピート表示について

リピート再生中には、本体表示窓のREPEAT(リピート)表示が次のように点灯します。

REPEAT表示

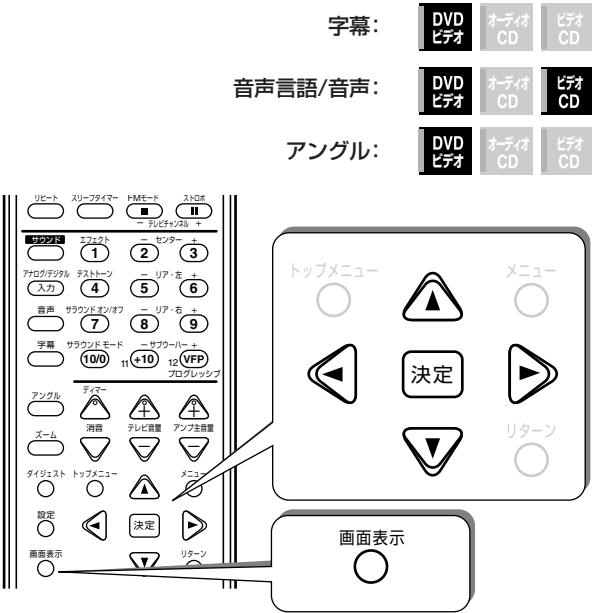
• **DVDビデオのとき**
REPEAT　　　：タイトルのリピート再生
REPEAT 1　　：チャプターのリピート再生
REPEAT A-B：A-Bリピート再生

• **DVDビデオ以外のとき**
REPEAT　　　：全トラックのリピート再生
REPEAT 1　　：トラックのリピート再生
REPEAT A-B：A-Bリピート再生

メニューバーを使う(つづき)

音声言語/音声/字幕/アングルを切り替える

メニューバーから音声言語/音声、字幕、アングルを切り替えます。**音声**ボタン(➡ 63ページ参照)、**字幕**ボタン(➡ 64ページ参照)や**アングル**ボタン(➡ 65ページ参照)を使って、切り替えることもできます。

字幕: DVDビデオ
音声言語/音声: DVDビデオ ビデオCD
アングル: DVDビデオ

《再生中に》

1 画面表示ボタンをくり返し押してメニューバーを表示させる

2 カーソル(►/◄)ボタンをくり返し押して を切り替えたい項目に合わせ、決定ボタンを押す

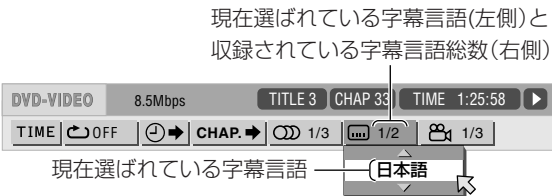
各項目のプルダウンメニューが表示されます。

例:DVDビデオで字幕を切り替えるとき 1/2

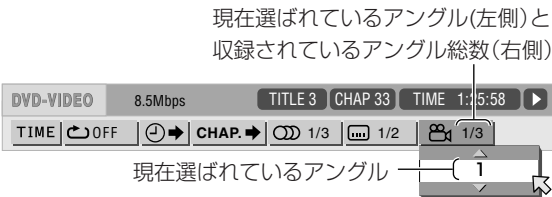
現在選ばれている字幕言語(左側)と収録されている字幕言語総数(右側)

現在選ばれている字幕言語

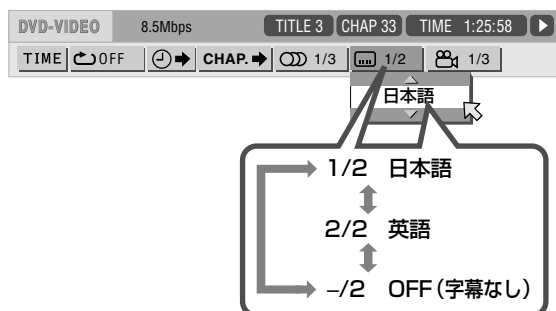
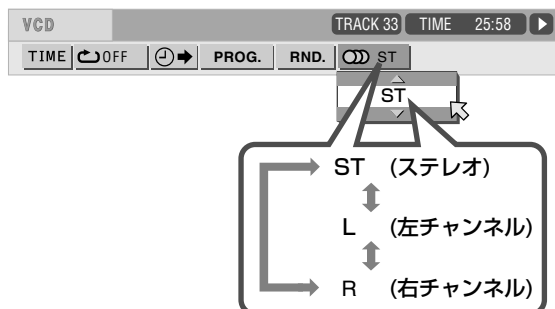
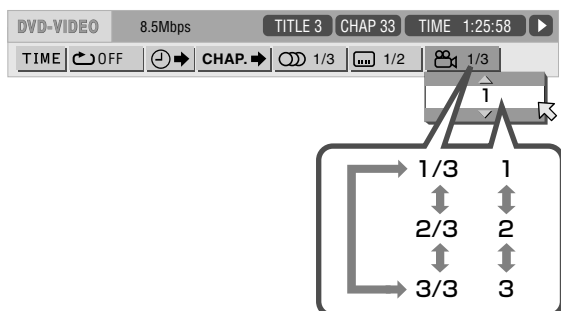
例:ビデオCDで音声を切り替えるとき ST

現在選ばれている音声

例:DVDビデオでアングルを切り替えるとき 1/3

現在選ばれているアングル(左側)と収録されているアングル総数(右側)

現在選ばれているアングル

3 カーソル(▲/▼)ボタンを押して設定を切り替える

カーソル(▲/▼)ボタンを押すごとに設定が切り替わります。

例:DVDビデオで字幕を切り替えるとき 1/2

例:ビデオCDで音声を切り替えるとき ST

例:DVDでアングルを切り替えるとき 1/3

4 決定ボタンを押す

選んだ設定に切り替わり、プルダウンメニューが消えます。

ステータスバーを消すには

画面表示ボタンをステータスバーが消えるまでくり返し押します。

音声言語と字幕言語の表記について

DVDビデオ再生中、プルダウンメニューに表示される言語のうち、英語、スペイン語、フランス語、中国語、ドイツ語、イタリア語、日本語以外は言語コード(➡ 84ページ参照)で表示されます。

ご注意

- 🚫 が表示されたときは･･･
  ディスクに該当する項目が収録されていないか、その操作が禁止されています。
- 字幕や音声の切り替えは、ディスクに収録されていない字幕言語や音声言語/音声については、ご使用になれません。

MP3 ディスクを再生する

MP3ディスクについて

MP3とは

少ないデータ容量で高音質のステレオデータを記録することのできる記録方法です。本機はMP3フォーマットで記録されたCD-R/CD-RWディスクを再生することもできます。本取扱説明書ではこれらのディスクを「MP3ディスク」と呼びます。

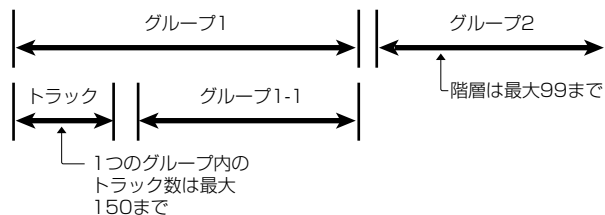
また、MP3ファイルとJPEGファイルの両方を含むディスクの場合、映像メニューの「MP3/JPEG」で設定されたファイルを再生します。(➡ 86 ページ参照)

MP3ディスクの構造

MP3ディスクには、それぞれの曲が各「**トラック**(ファイル)」として記録されています。さらに複数の**トラック**は、カテゴリー別、アーティスト別などの「**グループ**(フォルダ)」としてまとめて分類することができます。

このトラック/グループは、パソコンにおけるファイル/フォルダの構造と同様に階層構造をつくることができます。

本機はディスク内に最大99グループまで、1グループ内に最大150トラックまでを識別し再生することができます。これらを超えるグループやトラックは再生できません。

- MP3ディスクにMP3ファイル以外のファイルがある場合、それらもトラックとして数えます。

CD-R/CD-RWドライブを使ってMP3ディスクを作るときの注意点

ご自分でMP3ディスクを作成する場合は、以下の点にご注意ください。

MP3ファイルについて

- 本機では、次のようなファイルは再生できません。
  - 低ビットレート(64kbps以下)で作成されているもの
  - 「.MP3」「.mP3」「.Mp3」「.mp3」の拡張子のないもの
- ファイル名は、漢字・ひらがな・カナ・全角英数字が使用されていると、正しく表示されない場合があります。ID3タグの表示には対応していません。

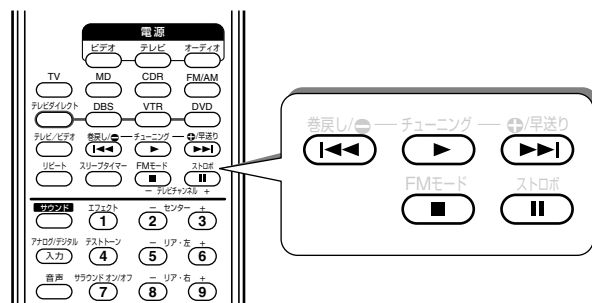
MP3ディスクについて

- 本機では、次のようなディスクについては、一部またはすべてを再生できません。
  - ディスクフォーマットが「ISO9660」でないもの
  - 6以上のマルチセッション記録やパケットライト方式で記録されたもの
  - ファイナライズされていないもの

ご注意

- ディスクの記録状態や特性により、再生できないことがあります。
- MP3作成ソフトとCD-R/CD-RW作成ソフトによっては、本機で再生できないこともあります。

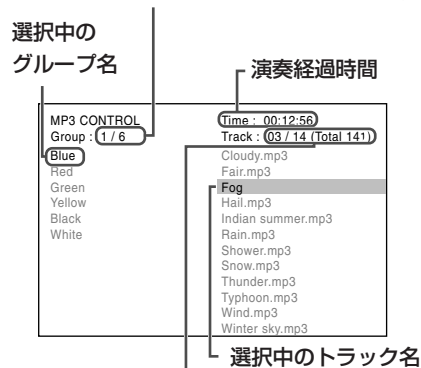
基本操作

- **操作の前に、リモコンのDVDボタンを押してリモコンの操作モードをDVDにしてください。**

次のような操作ができます。

►(**再生**)ボタン	：再生を始めます
■(**停止**)ボタン	：再生を停止します
ıı(**一時停止**)ボタン	：再生を一時停止します
►►ıまたはı◄◄ボタン	：前後のトラック*を再生します

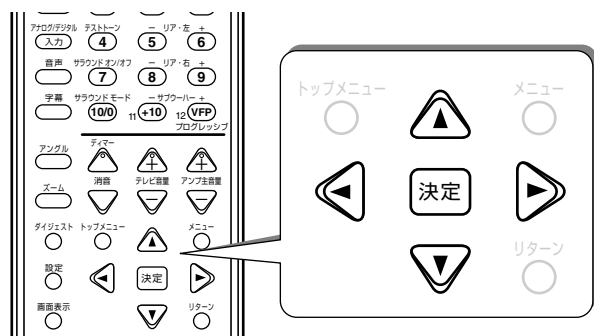
* 再生中のトラックと異なるグループのトラックは、選択できません。

テレビ画面上には「MP3 CONTROL(コントロール)」画面が表示されます。

- 表示されるグループやトラックの順番は、作成時と異なることがあります。

ご注意

- ディスクの特性によって、再生までの読み取り時間が長くなることがあります。
- デジタル出力端子からは音声は出力されません。
- 早送り/早戻し再生、リジューム再生、プログラム再生およびランダム再生はできません。
- MP3以外のファイルはテレビ画面に表示されません。
- 現在の演奏経過時間以外の時間情報は表示されません。

グループやトラックを指定する

MP3ディスクをセットすると、ディスクを読み込んだ後に、MP3コントロール画面がテレビ画面に表示されます。
この画面から再生するグループやトラックを指定することができます。

1 カーソル(►/◄)ボタンをくり返し押してグループを選ぶ

選んだグループ内のトラックが表示されます。
- グループは階層に関係なく、すべて表示されます。
- 再生中のときは、選んだグループの最初のトラックが再生されます。
- どのグループにも属さないトラックがあるときは、それらを選ぶこともできます。その場合、**決定**ボタンを押すと再生が始まります。

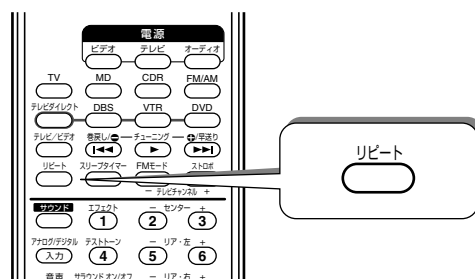
2 カーソル(▲/▼)ボタンをくり返し押してトラックを選ぶ

- ►►Iまたは I◄◄ボタンをくり返し押して選ぶこともできます。
- 再生中のときは、選んだトラックの再生が直ちに始まります。

3 決定ボタンを押して再生する

- ►**(再生)**ボタンを押して再生することもできます。

くり返し再生する(リピート)

トラックや1つのグループまたはディスク全体をくり返し再生することができます。

リピートボタンを押す

ボタンを押すごとにリピート再生が次のように切り替わります。

REPEAT TRACK ：トラックのリピート再生
REPEAT GROUP ：グループのリピート再生
REPEAT ALL ：全トラックのリピート再生

表示窓のREPEAT(リピート)表示も点灯します。

リピート再生をやめるには

■**(停止)**ボタンを押します。
ただし、リピート再生は解除されません。

リピート再生を解除するには

リピートボタンを押してMP3 CONTROL画面のリピート表示を消します(または、表示窓のREPEAT表示を消灯させます)。

JPEGディスクの操作

JPEGディスクについて

JPEGとは

JPEG(Joint Photographic Experts Groupの略称)とはインターネットやデジカメなどに広く利用されている静止画情報圧縮フォーマットのひとつです。

本機はJPEGフォーマットで記録されたCD-R/CD-RWディスクを再生することができます。本取扱説明書ではこれらのディスクを「JPEGディスク」と呼んでいます。

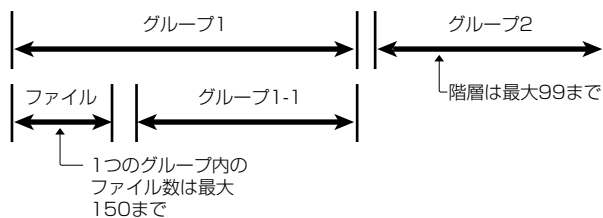
MP3ファイルとJPEGファイルの両方を含むディスクの場合、映像メニューの「MP3/JPEG」で設定されたファイルを再生します。(➡ 86 ページ参照)

JPEGディスクの構造

JPEGディスクには、それぞれの画像が各「**ファイル**」として記録されています。さらに複数の**ファイル**は、カテゴリー別などの「**グループ**(フォルダ)」としてまとめて分類することができます。

このファイル/グループは、パソコンにおけるファイル/フォルダの構造と同様に階層構造をつくることができます。

本機はディスク内に最大99グループまで、1グループ内に最大150ファイルまでを識別し再生することができます。これらを超えるグループやトラックは再生できません。

- JPEGディスクにJPEGファイル以外のファイルがある場合、それらもファイルとして数えます。

CD-R/CD-RWドライブを使ってJPEGディスクを作るときの注意点

ご自分でJPEGディスクを作成する場合は、以下の点にご注意ください。

JPEGファイルについて

- 本機では、次のようなファイルは再生できません。
  - ベースライン方式以外のフォーマットで作成されているもの
  - 「.jpg」「.jpeg」「.JPG」「.JPEG」の拡張子のないもの
- ファイル名は、漢字・ひらがな・カナ・全角英数字が使用されていると、正しく表示されない場合があります。
- ファイル読み込み速度上、解像度640×480以内のファイルをお使いになることをおすすめします。

JPEGディスクについて

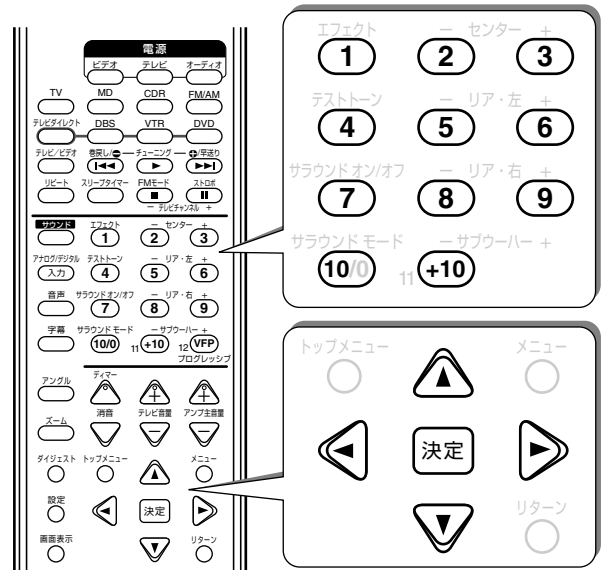
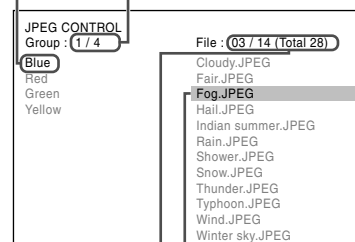
- 本機では、次のようなディスクについては、一部またはすべてを再生できません。
  - ディスクフォーマットが「ISO9660」でないもの
  - 6以上のマルチセッション記録やパケットライト方式で記録されたもの
  - ファイナライズされていないもの

ご注意

- ディスクの記録状態や特性により、再生できないことがあります。

基本操作

JPEGディスクをセットすると、ディスクを読み込んだ後に、「JPEG CONTROL」画面がテレビ画面に表示されます。

- **操作の前に、リモコンのDVDボタンを押してリモコンの操作モードをDVDにしてください。**

JPEG CONTROL画面表示中に、次のような操作ができます。

- カーソル(►/◄)ボタン：グループを選びます。
- カーソル(▲/▼)ボタン：ファイルを選びます。
- **数字**ボタン(1～10、+10)：ファイルを選び、再生します。その後は、スライドショー再生(➡ 81 ページ参照)になります。
- **決定**ボタン：選んだファイルを再生します。

- 表示されるグループやファイルの順番は、作成時と異なることがあります。

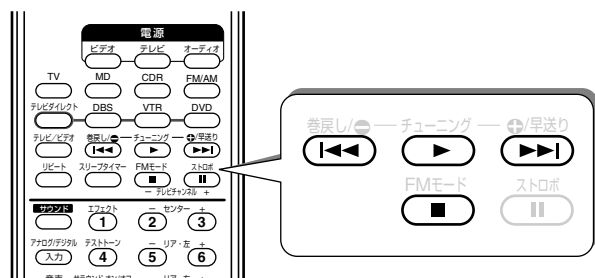
JPEGコントロール画面に戻すには

■(停止)ボタンを押します。

ご注意

- ディスクにJPEG以外のファイルが収録されている場合、それらは表示されません。

ファイルを連続再生する<スライドショー>

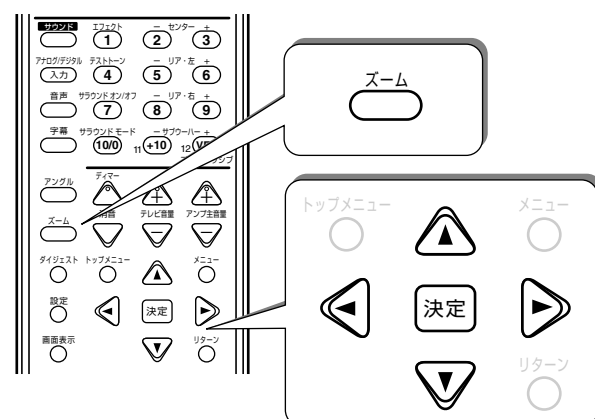
画像を3秒間再生したあと、自動的に他のファイルも3秒間ずつ連続して表示させることができます(スライドショー再生)。
- **操作の前に、リモコンのDVDボタンを押してリモコンの操作モードをDVDにしてください。**

►(再生)ボタンを押す

スライドショー再生が始まります。
- 画像が選択されているときに**►(再生)**ボタンを押すとそこからスライドショー再生が始まります。
- 次の画像が再生される前に、►►|または|◄◄ボタンを押すと、前後の画像を表示させることができます。

スライドショー再生を途中でやめるには

■(停止)ボタンを押します。
JPEG CONTROL画面が表示されます。

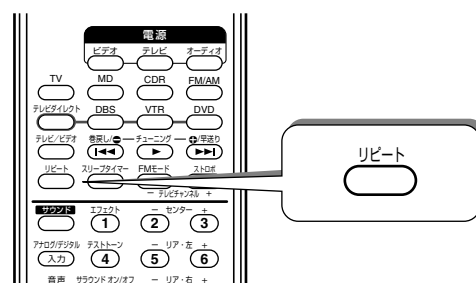
画面を拡大する(ズーム)

再生中の画像を拡大してみることができます。
- 詳しい操作方法は 62ページをご覧ください。
- スライドショー再生中の画像は拡大表示できません。

画像表示中に、次のような操作ができます。

ズームボタン　：画像を拡大します。繰り返し押すと倍率が大きくなります。
カーソル(▲/▼/►/◄)ボタン　：拡大する場所を選びます。
決定ボタン　：ズームを解除します。

ご注意
- 拡大すると、画質が悪化したり、画像がブレることがあります。

くり返し再生する(リピート)

ファイルまたは1つのグループをくり返し再生することができます。

リピートボタンを押す

ボタンを押すごとにリピート再生が次のように切り替わります。

REPEAT GROUP：グループのリピート再生
REPEAT ALL　：全ファイルのリピート再生

表示窓のREPEAT(リピート)表示も点灯します。

リピート再生をやめるには

■(停止)ボタンを押します。
JPEG CONTROL画面が表示されます。ただし、リピート再生は解除されません。

リピート再生を解除するには

リピートボタンを押してJPEG CONTROL画面のリピート表示を消します(または、表示窓のREPEAT表示を消灯させます)。

テレビ画面で設定を変更する

お買い上げ時(本機の工場出荷時)の各種設定を設定メニュー画面で変更できます。

内蔵DVDプレーヤーの音声言語設定などの設定を変更するときは、操作の前に、リモコンのDVDボタンを押してリモコンの操作モードをDVDにしてください。

- ソース(音源)がラジオのときは、設定メニューは使えません。
- 設定メニューを使うときは、テレビの電源を入れて、正しい映像入力を選んでください。
- 音声、スピーカー設定の中には各ソース(音源)ごとに記憶されるものがあります(➡ 39ページ参照)。ソース(音源)ごとに調節するときは、操作の前に、リモコンのソース機器選択ボタンを押してから設定してください。
- MP3ディスク/JPEGディスクが入っているときは、設定メニューを使うことはできません。

設定メニューの構成について

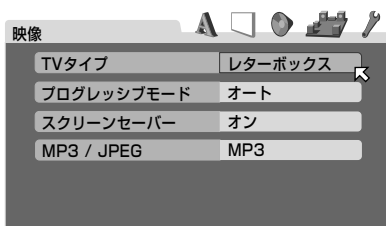
設定メニューには次のようなものがあります。

:言語メニュー (➡ 84ページ)

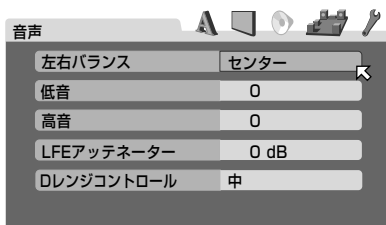
DVD再生時の各言語設定と設定メニューの言語を設定します。

言語
メニュー言語 日本語
音声言語 英語
字幕言語 日本語
画面表示言語 日本語

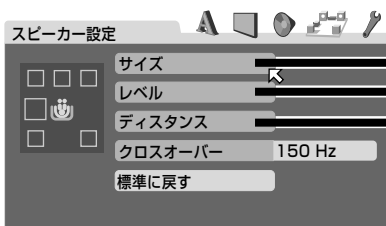
:映像メニュー (➡ 85 86ページ)

映像出力の設定などをします。

:音声メニュー (➡ 86ページ)

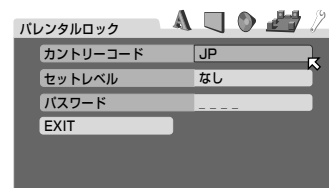
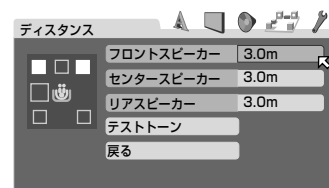
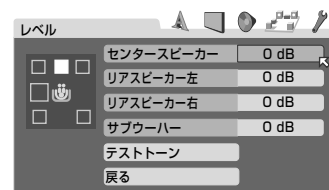
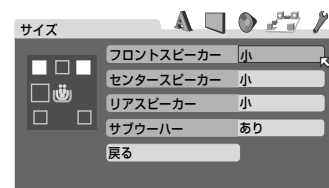
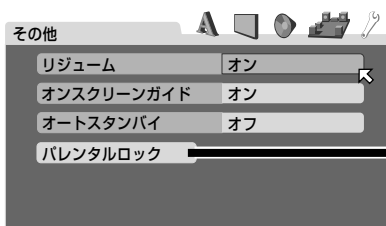
音声出力の設定をします。

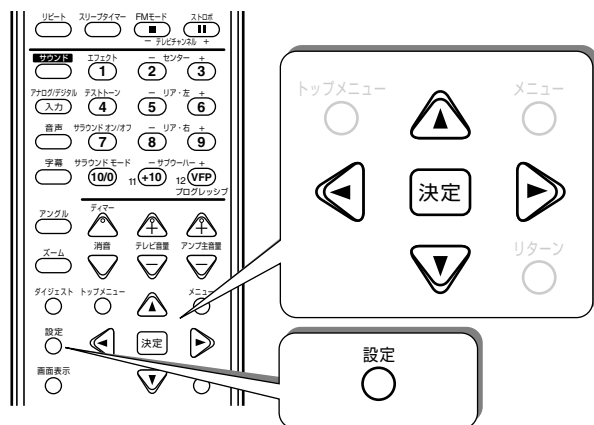
各ソース(音源)ごとに(ラジオは除く)設定することができます。

:スピーカー設定メニュー (➡ 87 88ページ)

スピーカーの設定をします。

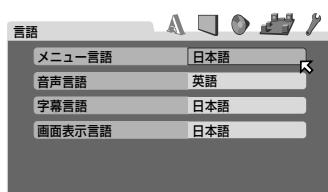
サイズ、レベル、ディスタンスの3つのサブメニューがあります。

:その他メニュー (➡ 89ページ)

その他の設定をします。

パレンタルロックのサブメニューがあります。

基本操作

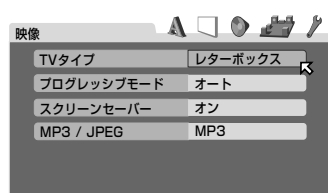
操作の例として「映像メニュー」の「スクリーンセーバー」の設定を変更します。

1 設定ボタンを押す

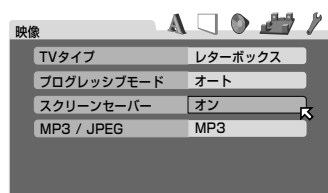
言語メニュー画面が表示されます。
例：DVDビデオのとき

言語	
メニュー言語	日本語
音声言語	英語
字幕言語	日本語
画面表示言語	日本語

- ソース（音源）によっては表示されないメニューもあります。

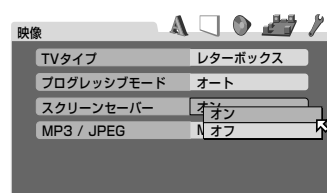
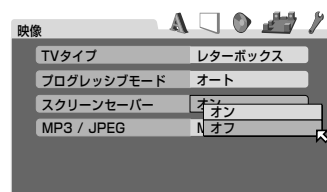
2 カーソル（►/◄）ボタンをくり返し押して映像メニューを表示させる

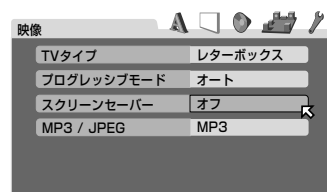
- ボタンを押すごとにメニュー画面は切り替わります。

映像	
TVタイプ	レターボックス
プログレッシブモード	オート
スクリーンセーバー	オン
MP3 / JPEG	MP3

3 カーソル（▲/▼）ボタンをくり返し押して ↖を「スクリーンセーバー」に合わせる

映像	
TVタイプ	レターボックス
プログレッシブモード	オート
スクリーンセーバー	オン
MP3 / JPEG	MP3

- メニュー画面によっては、他の項目の設定によって選択できない項目もあります。

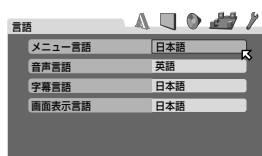
4 決定ボタンを押す

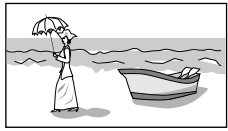
選んだ項目のプルダウンメニューが表示されます。

5 カーソル（▲/▼）ボタンをくり返し押して ↖をお好みの設定にあわせる

6 決定ボタンを押す

設定が変更されました。

設定メニューを消すには

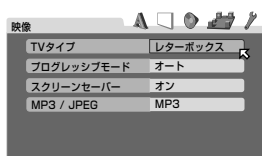
設定ボタンを押します。

テレビ画面で設定を変更する（つづき）

言語メニュー

メニュー言語、音声言語、字幕言語、画面表示言語など、言語に関する設定を行う画面です。

設定項目	設定内容 （ がお買い上げ時の設定です。）	備考
メニュー言語 DVDのメニュー画面に表示される言語を選びます。	英語⟷スペイン語⟷フランス語⟷中国語⟷ドイツ語⟷イタリア語⟷日本語 ⟷AAからZUまでの言語コード 言語コードは言語コード一覧表をご覧ください。	選択したメニュー言語がディスクに収録されていないときには、ディスクに標準設定されている言語で表示されます。
音声言語 DVDの音声言語を選びます。	英語⟷スペイン語⟷フランス語⟷中国語⟷ドイツ語⟷イタリア語⟷日本語 ⟷AAからZUまでの言語コード 言語コードは言語コード一覧表をご覧ください。	
字幕言語 DVDの字幕言語を選びます。	オフ⟷ 英語⟷ スペイン語⟷ フランス語⟷ 中国語⟷ドイツ語⟷イタリア語⟷日本語 ⟷AAからZUまでの言語コード 言語コードは言語コード一覧表をご覧ください。	
画面表示言語 設定メニューなどの画面上に表示される表示言語を選びます。	日本語⟷英語	—

〈言語コード一覧〉

コード	言語	コード	言語	コード	言語	コード	言語
AA	アファル語	GD	スコットランドゲール語	MI	マオリ語	SL	スロベニア語
AB	アブバジア語	GL	ガルシア語	MK	マケドニア語	SM	サモア 語
AF	アフリカーンス語	GN	グアラニ語	ML	マラヤーラム語	SN	ショナ語
AM	アムハラ語	GU	グジャラード語	MN	モンゴル語	SO	ソマリ語
AR	アラビア語	HA	ハウサ語	MO	モルダビア語	SQ	アルバニア語
AS	アッサム語	HI	ヒンディー語	MR	マラータ語	SR	セルビア語
AY	アイマラ語	HR	クロアチア語	MS	マライ（マレー）語	SS	シスワティ語
AZ	アゼルバイジャン語	HU	ハンガリー語	MT	マルタ語	ST	セストゥ語
BA	バシキール語	HY	アルメニア語	MY	ミャンマー語	SU	スンダ語
BE	ベラルーシ語	IA	国際語	NA	ナウル語	SV	スウェーデン語
BG	ブルガリア語	IE	国際語	NE	ネパール語	SW	スワヒリ語
BH	ビハーリー語	IK	イヌピック語	NL	オランダ語	TA	タミール語
BI	ビスラマ語	IN	インドネシア語	NO	ノルウェー語	TE	テルグ語
BN	ベンガル語、バングラ語	IS	アイスランド語	OC	プロバンス語	TG	タジク語
BO	チベット語	IW	ヘブライ語	OM	（アフォン）オロモ語	TH	タイ語
BR	ブルトン語	JI	イディッシュ語	OR	オリヤー語	TI	ティグリニャ語
CA	カタロニア語	JW	ジャワ語	PA	パンジャブ語	TK	トゥルクメン語
CO	コルシカ語	KA	グルジア語	PL	ポーランド語	TL	タガログ語
CS	チェコ語	KK	カザフ語	PS	パシュトー語	TN	セツワナ語
CY	ウェールズ語	KL	グリーンランド語	PT	ポルトガル語	TO	トンガ語
DA	デンマーク語	KM	カンボジア 語	QU	ケチュア語	TR	トルコ語
DZ	ブータン語	KN	カンナダ語	RM	ラエティ - ロマン語	TS	ツォンガ語
EL	ギリシャ語	KO	韓国（朝鮮）語	RN	キルンディ語	TT	タタール語
EO	エスペラント語	KS	カシミール語	RO	ルーマニア語	TW	トウィ語
ET	エストニア語	KU	クルド語	RU	ロシア語	UK	ウクライナ語
EU	バスク語	KY	キルギス語	RW	キニヤルワンダ語	UR	ウルドゥー語
FA	ペルシャ語	LA	ラテン語	SA	サンスクリット語	UZ	ウズベク語
FI	フィンランド語	LN	リンガラ語	SD	シンド語	VI	ベトナム語
FJ	フィジー語	LO	ラオス語	SG	サンド語	VO	ヴラピュク語
FO	フェロー語	LT	リトアニア語	SH	セルボアクロアチア語	WO	ウォロフ語
FY	フリジア語	LV	ラトビア語、レット語	SI	シンハラ語	XH	コーサ語
GA	アイルランド語	MG	マダガスカル語	SK	スロバキア語	YO	ヨルバ語
						ZU	ズール語

映像メニュー

TVのタイプ、プログレッシブモード、スクリーンセーバー、MP3/JPEGの切り替えなど、映像に関する設定を行う画面です。

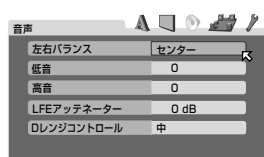
設定項目	設定内容　（　　　　がお買い上げ時の設定です。）	備考
TV タイプ お使いのテレビに合わせて画面表示方法を選びます。	**16:9ノーマル⟺16:9オート⟺レターボックス⟺パンスキャン** **・ 16:9ノーマル** 画面サイズが16:9に固定されているワイドテレビと接続したとき、この設定にします。(本機が4:3で収録されたＤＶＤビデオを再生するとき、出力信号の画面幅を自動調節します)	「16:9ノーマル」設定で4:3画面のDVDを再生すると、画面幅を変換しているため画質が変わります。
	・ 16:9オート 普通のワイドテレビと接続したとき、この設定にします。	
	・レターボックス 上下に黒い帯がある状態で映ります。左右両端の映像は切り取られません。通常のテレビ(縦横比4:3)に接続したとき、この設定にします。	
	・パンスキャン 左右両端が切り取られた状態で映ります。上下に黒い帯は映りません。通常のテレビ(縦横比4:3)に接続したとき、この設定にします。	ディスクが4:3パンスキャンに対応していないときは、パンスキャンを選択していてもレターボックス表示になります。
プログレッシブモード プログレッシブモードを選びます。 この設定はスキャンモードがプログレッシブスキャンに設定されているときに限り有効です。(➡ 38 ページ参照)	**オート ⟺ ビデオ ⟺ フィルム** **・ オート** ディスクの再生から素材のタイプ（フィルムまたはビデオ）を判定して、モードを切り換えます。フィルム素材とビデオ素材が混在しているディスクの再生に適しています。通常はこれに設定します。	ディスクの中には「オート」モードで正しく再生されないものがあります。特定のDVDビデオで映像にスジ状のノイズが入ったり不鮮明なときは、設定を変えてみてください。
	・ ビデオ ディスクに収録された素材をビデオ素材として奇数フィールドと偶数フィールドを合成してから、プログレッシブ変換します。 比較的動きの少ないビデオ素材のディスクの再生に適しています。	
	・ フィルム ディスクに収録された素材をフィルム素材としてプログレッシブ変換します。 フィルム素材、またはプログレッシブスキャン方式で記録されたビデオ素材のディスクの再生に適しています。	

86 ページへ続く

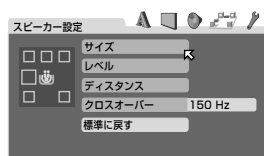
テレビ画面で設定を変更する(つづき)

映像メニュー(つづき)

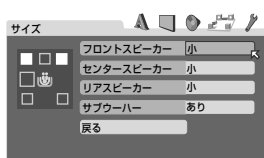
設定項目	設定内容　（ 　　　 がお買い上げ時の設定です。）	備考
スクリーンセーバー 画面の焼き付きを防止するスクリーンセーバー(➡ 54 ページ参照)を使うか、使わないかを選びます。	**オン** ⬌ **オフ** ・**オン** 画面が暗くなります。 ・**オフ** スクリーンセーバーは機能しません	—
MP3/JPEG CD-R/CD-RW ディスクにMP3、JPEGの両ファイルが含まれている場合、どちらのファイルを再生可能にするかを選びます。	**MP3** ⬌ **JPEG** ・**MP3** MP3 ファイルを再生します。 ・**JPEG** JPEG ファイルを再生します。	—

音声メニュー

フロントスピーカー出力の左右バランス、低音、高音、LFE（エルエフィー）アッテネーター、D レンジコントロールなど、音声に関する設定を行う画面です。

設定項目	設定内容　（ 　　　 がお買い上げ時の設定です。）	備考
左右バランス 左右のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に置けないときは、左右のフロントスピーカーの音量バランスを調節します。	**右－21⬌・・・⬌右－1⬌センター** 右スピーカーの出力を下げます。 **センター⬌左－1⬌・・・⬌左－21** 左スピーカーの出力を下げます。	各ソース(音源)ごとに、設定できます。
低音 低音の調節をします。 **高音** 高音の調節をします。	**－10 ⬌・・・⬌ －2 ⬌ 0 ⬌ +2 ⬌・・・⬌ +10** －10から+10まで、2 ずつ設定できます。数値が大きくなるほど、効果は大きくなります。	各ソース(音源)ごとに、設定できます。
LFE アッテネーター ドルビーデジタルの音声を再生中、低音がひずむときに設定します。	**－10 dB ⬌ 0 dB** 通常は「0 dB」に設定します。 音がひずむときに「－10 dB」に設定します。	この機能はサブウーハーを「あり」に設定し(➡ 87 ページ参照) LFE音声信号が入力されたときに限り働きます。
Dレンジコントロール ドルビーデジタルの音声を再生しているときにダイナミックレンジ(最大音声と最小音声の差)を圧縮(コンプレッション)することができます。夜間にサラウンドをお楽しみいただくときに使います。	**大 ⬌ 中 ⬌ オフ** ・**大、中** D レンジコントロール機能が働きます。「大」では、よりダイナミックレンジを圧縮してお楽しみいただけます。 ・**オフ** D レンジコントロール機能が働きません。	—

スピーカー設定メニュー

スピーカーのサイズ、レベル、ディスタンス、クロスオーバーの設定をします。

設定項目	設定内容 （　　　がお買い上げ時の設定です。）	備考
サイズ スピーカーのサイズや使用する/しないの設定をします。 **レベル** 各スピーカーの出力の調節をします。 **ディスタンス** 各スピーカーのリスニングポジションからの距離を登録します。	**サイズ、レベル、ディスタンスのサブメニューを表示します。**	レベルについては、各ソース(音源)ごとに、設定できます。
クロスオーバー 小型スピーカーのサイズに応じて、クロスオーバー周波数を設定します。	80 Hz ⬌ 100 Hz ⬌ 120 Hz ⬌ 150 Hz ⬌ 200 Hz 設定値を大きくすると、小さな口径(12cm以下)のスピーカーを接続した場合でも、低音要素は損なわれにくくなります。	「サイズ」の設定ですべてのスピーカーを「大」に設定しているときは、この機能は働きません。
標準に戻す これを選択すると、すべての音声設定とスピーカー設定がお買い上げ時の設定に戻ります。	—	—

● **サイズメニュー**

お使いのスピーカーのおおまかなサイズを本機に登録します。スピーカーの接続を終えてから設定します。

お使いのスピーカーに内蔵されているスピーカーユニットの口径が12cm以上なら「大」を選び、12cm以下なら「小」を選びます。

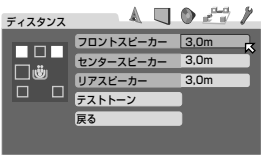
設定項目	設定内容（　　　がお買い上げ時の設定です。）	備考
フロントスピーカー **センタースピーカー** **リアスピーカー**	大 ⬌ 小 ⬌ なし	フロントスピーカーは「なし」に設定できません。 サブウーハーを「なし」に設定しているときは、フロントスピーカーは「小」に設定できません。 フロントスピーカーを「小」に設定しているときは、センタースピーカー、リアスピーカーを「大」に設定できません。
サブウーハー	あり ⬌ なし	—
戻る これを選択すると、スピーカー設定メニューに戻ります。	—	—

スピーカー設定メニュー(つづき)

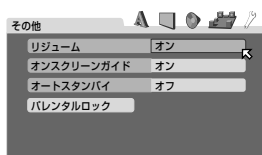
● レベルメニュー

センタースピーカー、左右リアスピーカー、サブウーハーの出力レベルを調節します。

設定項目	設定内容(がお買い上げ時の設定です。)	備考
センタースピーカー リアスピーカー左 リアスピーカー右 サブウーハー	−10dB ⇔・・・⇔ −1dB ⇔ **0dB** ⇔ +1dB ⇔・・・⇔ +10dB −10dBから+10dBまでの範囲を、1dBずつ設定できます。数値が大きくなるほど、出力レベルは大きくなります。	スピーカーを使わない設定のときやサラウンドモードによっては、調節のできないスピーカーがあります。 各ソース(音源)ごとに、設定できます。
テストトーン テストトーンを使うとき選択します。	—	もう一度選択するとテストトーンは止まります。
戻る これを選択すると、スピーカー設定メニューに戻ります。	—	—

● ディスタンスメニュー

ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドや、MPEG-2 AACサラウンドで効果的な音場を構成するには、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離が同じであることが理想的です。本機では、リスニングポジションから各スピーカーまでの実際の距離を登録するだけで、どの距離も同じであるように音場を調節することができます。

設定項目	設定内容(がお買い上げ時の設定です。)	備考
フロントスピーカー センタースピーカー リアスピーカー	0.3m ⇔・・・⇔ 2.7m ⇔ **3.0m** ⇔ 3.3m ⇔・・・⇔ 9.0m 0.3mから9.0mまでの範囲を、0.3mずつ設定できます。	—
テストトーン テストトーンを使うとき選択します。	—	もう一度選択するとテストトーンは止まります。
戻る これを選択すると、スピーカー設定メニューに戻ります。	—	—

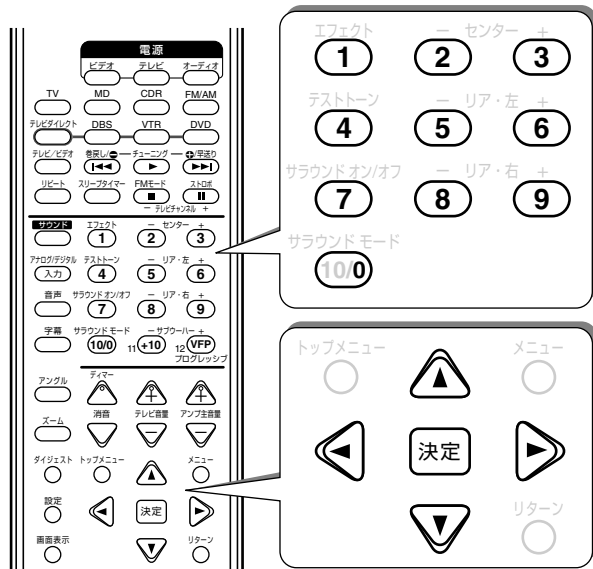
その他メニュー

リジューム、オンスクリーンガイド、オートスタンバイ、およびパレンタルロック（視聴制限）の設定を行う画面です。

設定項目	設定内容 （ がお買い上げ時の設定です。）	備考
リジューム リジューム再生（➡ 55 ページ参照）を使うか、使わないかを選びます。	**オン ⟺ オフ** ・**オン** リジューム機能が働きます。 ・**オフ** リジューム機能が働きません。	—
オンスクリーンガイド 再生している映像に重ねてディスクの収録状態や本機の動作状態を示すマーク（、、 など）や文字を表示するか、表示しないかを選びます。	**オン ⟺ オフ** ・**オン** マークや文字が表示されます。 ・**オフ** マークや文字が表示されません。	—
オートスタンバイ ソース（音源）がDVDのとき、ディスクの再生が一定の間停止し続けた場合、自動的に本機を電源「**切**」にするか、しないかを選びます。	**60 ⟺ 30 ⟺ オフ** ・**60** 60分後に電源が「**切**」になります。 ・**30** 30分後に電源が「**切**」になります。 ・**オフ** オートスタンバイ機能は働きません。	—
パレンタルロック 視聴制限（パレンタルロック）を設定します。 この項目を選ぶと、パレンタルロック設定画面が表示されます。	設定方法については 90 91 ページをご覧ください。	—

DVDの視聴制限を設定する<パレンタルロック>

過激なシーンを含むDVD映画ソフトを再生するときなど、ディスクが対応しているときパレンタルロックの設定に応じて、そのようなDVD映画ソフトの視聴を制限することができます。

はじめに設定する

- **操作の前に、リモコンのDVDボタンを押してリモコンの操作モードをDVDにしてください。**

《ディスク停止中、またはディスクが入っていないときに》

1 設定ボタンを押す

設定メニューが表示されます。

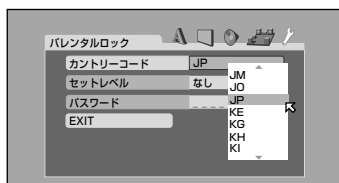
2 カーソル(►/◄)ボタンを押し、「その他メニュー」に ⇖ を合わせる

その他メニューが表示されます。

3 カーソル(▲/▼)ボタンをくり返し押して ⇖ を「パレンタルロック」に合わせ、決定ボタンを押す

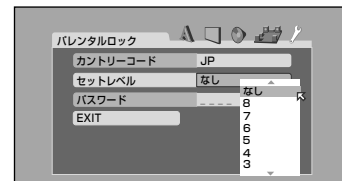
パレンタルロック設定画面が表示されます。

4 ⇖ が「カントリーコード」を指しているときに、決定ボタンを押す

カントリーコードのプルダウンメニューが表示されます。

5 カーソル(▲/▼)ボタンを使ってカントリーコードを選び、決定ボタンを押す

カントリーコードが設定され、⇖ が「セットレベル」に移動します。カントリーコード一覧（➡ 92 ページ参照）をご覧ください。

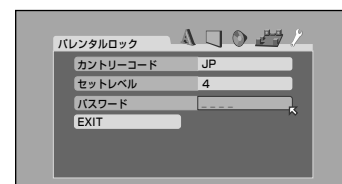
6 ⇖ が「セットレベル」を指しているときに、決定ボタンを押す

セットレベルのプルダウンメニューが表示されます。

7 カーソル(▲/▼)ボタンを使ってレベルを選び、決定ボタンを押す

1～8の中から選びます。セットレベル「なし」が視聴制限を全くしない設定です。設定したレベル値以上のレベルのDVDは再生できなくなります。したがって設定したレベル数値が小さいほど、制限が厳しくなります。

レベルが設定され、⇖ が「パスワード」に移動します。

8 数字ボタン（1～9、0）を使って任意のパスワード（4ケタの数字）を入力する

パスワードを間違えたら決定ボタンを押す前に入力し直してください。

9 決定ボタンを押す

パスワードが設定されます。
⇖ が「EXIT」に移動します。もう一度**決定**ボタンを押すとその他メニューに戻ります。

はじめに設定する(つづき)

設定を変更するときは

パスワードの設定を終えた後に設定の変更をするときは、前ページの「はじめに設定する」とほぼ同じ手順で進めます。

手順**3**の次に、**現在のパスワード**の入力を要求されます。続けて手順**4**から手順**8**まで進めて、手順**9**で**新しいパスワード**を入力してください。

パスワードについて

- 現在のパスワードを忘れてしまったときは「8888」を入力してください。新しいパスワードを設定できるようになります。
- パスワードの入力を3回間違えると、パレンタルロックの設定変更ができなくなります。このとき は[EXIT]に移動し動かせなくなります。**決定**ボタンを押してもう一度最初からやり直してください。

パレンタルロックを一時解除する

パレンタルロックを厳しく設定しているときは、再生しようとしても全く見ることができないことがあります。このようなときは、パレンタルロックを一時的に解除することができます。

《DVDビデオで下の画面が表示されたら》

1 **カーソル(▲/▼)ボタンを使って を「一時解除する」に合わせ、決定ボタンを押す**

が[パスワード]に移動します。

- 「一時解除しない」を選んだときは、このディスクを再生することはできません。本体の**▲(開/閉)**ボタンを押してディスクを取り出してください。

2 **設定されているパスワードを数字ボタン(1〜9、0)を使って入力する**

正しいパスワードを入力するとパレンタルロックが一時解除され、ディスクが再生されます。
間違って入力した場合、「違います。やり直してください」と表示されますので、もう一度入力してください。

ご注意

- パスワードの入力を3回間違えると、カーソル(▲/▼)ボタンは働かなくなります。**決定**ボタンを押してパレンタルロック画面から抜け、ディスクを取り出してください。

カントリーコード一覧

パレンタルロックの画面で表示されるカントリーコードの一覧です。

AD	Andorra
AE	United Arab Emirates
AF	Afghanistan
AG	Antigua and Barbuda
AI	Anguilla
AL	Albania
AM	Armenia
AN	Netherlands Antilles
AO	Angola
AQ	Antarctica
AR	Argentina
AS	American Samoa
AT	Austria
AU	Australia
AW	Aruba
AZ	Azerbaijan
BA	Bosnia and Herzegovina
BB	Barbados
BD	Bangladesh
BE	Belgium
BF	Burkina Faso
BG	Bulgaria
BH	Bahrain
BI	Burundi
BJ	Benin
BM	Bermuda
BN	Brunei Darussalam
BO	Bolivia
BR	Brazil
BS	Bahamas
BT	Bhutan
BV	Bouvet Island
BW	Botswana
BY	Belarus
BZ	Belize
CA	Canada
CC	Cocos (Keeling) Islands
CF	Central African Republic
CG	Congo
CH	Switzerland
CI	Côte d'Ivoire
CK	Cook Islands
CL	Chile
CM	Cameroon
CN	China
CO	Colombia
CR	Costa Rica
CU	Cuba
CV	Cape Verde
CX	Christmas Island
CY	Cyprus
CZ	Czech Republic
DE	Germany
DJ	Djibouti
DK	Denmark
DM	Dominica
DO	Dominican Republic
DZ	Algeria
EC	Ecuador
EE	Estonia
EG	Egypt
EH	Western Sahara
ER	Eritrea
ES	Spain

ET	Ethiopia
FI	Finland
FJ	Fiji
FK	Falkland Islands (Malvinas)
FM	Micronesia (Fedelated States of)
FO	Faroe Islands
FR	France
FX	France, Metropolitan
GA	Gabon
GB	United Kingdom
GD	Grenada
GE	Georgia
GF	French Guiana
GH	Ghana
GI	Gibraltar
GL	Greenland
GM	Gambia
GN	Guinea
GP	Guadeloupe
GQ	Equatorial Guinea
GR	Greece
GS	South Georgia and the South Sandwich Islands
GT	Guatemala
GU	Guam
GW	Guinea-Bissau
GY	Guyana
HK	Hong Kong
HM	Heard Island and McDonald Islands
HN	Honduras
HR	Croatia
HT	Haiti
HU	Hungary
ID	Indonesia
IE	Ireland
IL	Israel
IN	India
IO	British Indian Ocean Territory
IQ	Iraq
IR	Iran (Islamic Republic of)
IS	Iceland
IT	Italy
JM	Jamaica
JO	Jordan
JP	Japan
KE	Kenya
KG	Kyrgyzstan
KH	Cambodia
KI	Kiribati
KM	Comoros
KN	Saint Kitts and Nevis
KP	Korea, Democratic People's Republic of
KR	Korea, Republic of
KW	Kuwait
KY	Cayman Islands
KZ	Kazakhstan
LA	Lao People's Democratic Republic
LB	Lebanon

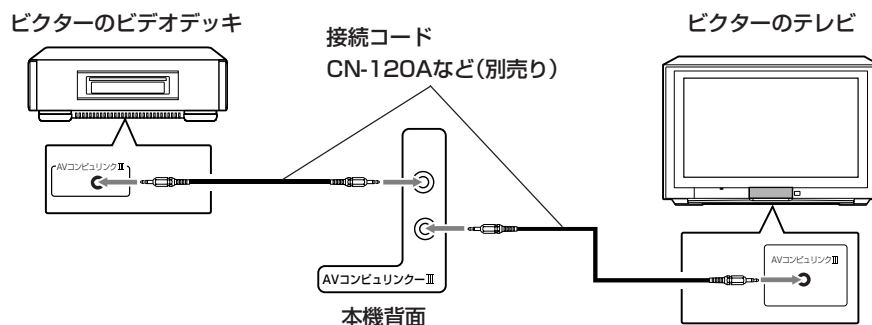
LC	Saint Lucia
LI	Liechtenstein
LK	Sri Lanka
LR	Liberia
LS	Lesotho
LT	Lithuania
LU	Luxembourg
LV	Latvia
LY	Libyan Arab Jamahiriya
MA	Morocco
MC	Monaco
MD	Moldova, Republic of
MG	Madagascar
MH	Marshall Islands
ML	Mali
MM	Myanmar
MN	Mongolia
MO	Macau
MP	Northern Mariana Islands
MQ	Martinique
MR	Mauritania
MS	Montserrat
MT	Malta
MU	Mauritius
MV	Maldives
MW	Malawi
MX	Mexico
MY	Malaysia
MZ	Mozambique
NA	Namibia
NC	New Caledonia
NE	Niger
NF	Norfolk Island
NG	Nigeria
NI	Nicaragua
NL	Netherlands
NO	Norway
NP	Nepal
NR	Nauru
NU	Niue
NZ	New Zealand
OM	Oman
PA	Panama
PE	Peru
PF	French Polynesia
PG	Papua New Guinea
PH	Philippines
PK	Pakistan
PL	Poland
PM	Saint Pierre and Miquelon
PN	Pitcairn
PR	Puerto Rico
PT	Portugal
PW	Palau
PY	Paraguay
QA	Qatar
RE	Réunion
RO	Romania
RU	Russian Federation
RW	Rwanda
SA	Saudi Arabia
SB	Solomon Islands

SC	Seychelles
SD	Sudan
SE	Sweden
SG	Singapore
SH	Saint Helena
SI	Slovenia
SJ	Svalbard and Jan Mayen
SK	Slovakia
SL	Sierra Leone
SM	San Marino
SN	Senegal
SO	Somalia
SR	Suriname
ST	Sao Tome and Principe
SV	El Salvador
SY	Syrian Arab Republic
SZ	Swaziland
TC	Turks and Caicos Islands
TD	Chad
TF	French Southern Territories
TG	Togo
TH	Thailand
TJ	Tajikistan
TK	Tokelau
TM	Turkmenistan
TN	Tunisia
TO	Tonga
TP	East Timor
TR	Turkey
TT	Trinidad and Tobago
TV	Tuvalu
TW	Taiwan, Province of China
TZ	Tanzania, United Republic of
UA	Ukraine
UG	Uganda
UM	United States Minor Outlying Islands
US	United States
UY	Uruguay
UZ	Uzbekistan
VA	Vatican City State (Holy See)
VC	Saint Vincent and the Grenadines
VE	Venezuela
VG	Virgin Islands (British)
VI	Virgin Islands (U.S.)
VN	Viet Nam
VU	Vanuatu
WF	Wallis and Futuna Islands
WS	Samoa
YE	Yemen
YT	Mayotte
YU	Yugoslavia
ZA	South Africa
ZM	Zambia
ZR	Zaire
ZW	Zimbabwe

AVコンピュリンク・リモートコントロールシステム

ビクター製の各機器を別売りの接続コード(CN-120Aなど)を使って、各ビデオ機器のAVコンピュリンク端子どうしを接続します。すべての機器を橋渡しするように接続します。順番に決まりはありません。

- **接続する前に、必ず電源プラグを家庭用コンセントから抜いておいてください。**
  すべての接続が終わってから電源を入れてください。

AVコンピュリンクの接続

ご注意

- AVコンピュリンクでは、DBS端子に接続しているBS/CSチューナーを、操作することはできません。

お知らせ

- ビデオデッキのリモコンコードは「A」に設定してください。
- 操作するビデオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

テレビの自動入力切り替え

本機のソース(音源)をDVDにすると、テレビの入力が自動的に切り替わります。

- S映像入力端子に接続しているとき「**ビデオ1**」に切り替わります。
- 映像入力端子に接続しているときは、「**ビデオ2**」に切り替わります。(ただし、ビクター製テレビではBSデコーダー入力として「**ビデオ2**」が使われているときは「**ビデオ3**」に切り替わります。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。)
- D映像入力端子またはコンポーネント映像入力端子に接続しているときは、「**ビデオ3**」に切り替わります(テレビ側が対応しているとき)。

自動電源「入」⟷「切」

TV端子やVTR端子に接続されているテレビやビデオデッキの電源が、本機の電源に連動して「**入**」⟷「**切**」します。

本機の電源を入れると:

- 前回選択していたソースが「VTR」のとき、テレビとVTR端子に接続されているビデオデッキの電源も自動的に入ります。
- 前回選択していたソースが「DVD」、「TV」、「DBS」のとき、テレビの電源も自動的に入ります。

本機の電源を切ると:

テレビやビデオデッキの電源も自動的に「**切**」になります。

お知らせ

- ビデオデッキで録画中に、本機の電源を切っても、ビデオデッキの電源は切れず録画が続きます。
- AVコンピュリンクを正しく動作させるためには、本機の映像出力の設定を行う必要があります。本機とテレビとの接続に合わせて、正しく設定してください。ビデオデッキで録画中に、本機の電源を切っても、ビデオデッキの電源は切れず録画が続きます。
- 「TV」を選んでいるときは、AVコンピュリンクがテレビの入力を自動的に「テレビ」に切り替えるため、テレビ画面でメニューを見ることはできません。
  テレビの入力切換を本機からの出力に変えれば、メニューを見ることができます。
- AVコンピュリンクⅢ対応以前の製品をお使いのときは、正しく動作しない場合があります。

リモコンでビクター製の機器を操作する

本機に付属しているリモコンでビクター製のAV機器を操作することができます。

オーディオ機器を操作する

その前に・・・

- 接続した機器の操作については、機器に付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

リモコンで操作する前に・・・

- リモコンは、お使いになる機器のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 本体のソース機器選択ボタンで選んだときは、リモコンで操作できないことがあります。必ずリモコンのソース機器選択ボタンを使って選んでください。

本機のチューナー部

FM/AM　:FM放送/AM放送を選びます。

FM/AMボタンを押したあとで、次の操作ができます。

チューニング ⊕/⊖　:FM放送/AM放送の選局をします。
1〜10、+10　:記憶してある放送局のプリセット番号を直接選びます(プリセット選局)。

> (例)・プリセット番号5を選ぶときは、
> 5 を押します。
> ・プリセット番号15を選ぶときは、
> +10 ➡ 5 と押します。
> ・プリセット番号20を選ぶときは、
> +10 ➡ 10/0 と押します。

FMモード　:FM放送の受信モードを切り替えます。

本機のアンプ部

サウンドボタンを押したあとで、次の操作ができます。

サラウンドオン/オフ　:サラウンドを「**入**」⬌「**切**」します。
サラウンドモード　:サラウンドモードを選びます。
サブウーハー +/−　:サブウーハーの出力レベルを調節します。
センター +/−　:センタースピーカーの出力レベルを調節します。
リア・左 +/−　:左リアスピーカーの出力レベルを調節します。
リア・右 +/−　:右リアスピーカーの出力レベルを調節します。
エフェクト　:エフェクトレベルを調節します。
テストトーン　:サラウンド時に、テストトーンを出力します。

サウンドボタンを押した後に、通常の使いかたで**数字**ボタンを使うときは、ソース機器選択ボタンを押してからお使いください。

MDレコーダー

MDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

►(再生)　:演奏を始めます。
|◄◄　:演奏中の曲(または前の曲)の頭に戻ります。
►►|　:次の曲の頭にスキップします。
■(停止)　:演奏(または録音)を停止します。
II(一時停止)　:演奏(または録音)を一時停止します。再び演奏(または録音)を始めるときは、**►(再生)**ボタンを押します。
1〜10、+10　:曲番号を直接選びます(ダイレクト選曲)。

> (例)・曲番号5を選ぶときは、
> 5 を押します。
> ・曲番号15を選ぶときは、
> +10 ➡ 5 と押します。
> ・曲番号20を選ぶときは、
> +10 ➡ 10/0 と押します。
> ・曲番号30を選ぶときは、
> +10 ➡ +10 ➡ 10/0 と押します。

CDレコーダー

CDRボタンを押したあとで、次の操作ができます。

►(再生)　:演奏を始めます。
|◄◄　:演奏中の曲(または前の曲)の頭に戻ります。
►►|　:次の曲の頭にスキップします。
■(停止)　:演奏(または録音)を停止します。
II(一時停止)　:演奏(または録音)を一時停止します。再び演奏(または録音)を始めるときは、**►(再生)**ボタンを押します。
1〜10、+10　:曲番号を直接選びます(ダイレクト選曲)。

> (例)・曲番号5を選ぶときは、
> 5 を押します。
> ・曲番号15を選ぶときは、
> +10 ➡ 5 と押します。
> ・曲番号20を選ぶときは、
> +10 ➡ 10/0 と押します。
> ・曲番号30を選ぶときは、
> +10 ➡ +10 ➡ 10/0 と押します。

ビデオ機器を操作する

その前に･･･

- 本機と各ビデオ機器を映像/音声コードで接続したあとで、AVコンピュリンク端子も接続しておきます。
  (➡ 93 ページ参照)
- 日本ビクター製のビデオデッキには、「A」、「B」2種類のリモコンコードを使えるものがあります。
  本機のリモコンを使って、お手持ちのビクター製ビデオデッキをお使いになるには、VTR入力端子に接続したビデオデッキのリモコンコードを「A」にしておく必要があります。
- 接続した機器の操作については、機器に付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

リモコンで操作する前に･･･

- リモコンは、お使いになる機器のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 本体のソース機器選択ボタンで選んだときは、リモコンで操作できないことがあります。必ずリモコンのソース機器選択ボタンを使って選んでください。

テレビ

テレビ電源　：テレビの電源を「**入**」⬌「**切**」します。
テレビ音量+/−　：音量を調節します。
テレビ/ビデオ　：テレビの入力を切り替えます。

TVボタンを押したあとで、次の操作ができます。

テレビチャンネル+/−：チャンネルを変更します。
1〜10、11、12　：受信チャンネルを選びます。

デジタルテレビは本機のリモコンでは操作できません。

ビデオデッキ

- ビデオデッキのリモコンコードは「A」に設定してください。

ビデオ電源　：ビデオデッキの電源を「**入**」⬌「**切**」します。

VTRボタンを押したあとで、次の操作ができます。

1〜9、0　：ビデオデッキのチューナーの受信チャンネルを選びます。
►(再生)　：再生を始めます。
巻戻し(I◄◄)　：テープを巻き戻します。
早送り(►►I)　：テープを早送りします。
■(停止)　：再生(または録画)を停止します。
II(一時停止)　：再生(または録画)を一時停止します。再び再生(または録画)を始めるときは、**►(再生)**を押します。

リモコンで他メーカーの機器を操作する

本機のリモコンで他メーカーのテレビやビデオデッキを操作することができます。

リモコンで他メーカーのテレビやビデオデッキを操作するときは、それぞれのメーカーに対応したコードを設定する必要があります。お使いの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

・リモコンの乾電池を交換したときは、もう一度メーカーの設定をやり直してください。

テレビのメーカーを設定する

1. テレビ電源ボタンを押したまま･･･ TVボタンを押したあと、数字ボタン(1～9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

例： お使いのテレビが松下製(86)のとき

TV ➡ 8 ➡ 6 と押す

各メーカーのコード番号は下記の表をご覧ください。

2. テレビ電源ボタンを離す

3. テレビ電源ボタンを押して設定を確認する

テレビの電源が「入」⟷「切」できたら設定は終了です。
もしうまく機能しないときは、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定をやり直します。

テレビを操作する

テレビ電源：テレビの電源を「入」⟷「切」します。
テレビ音量＋/－：テレビの音量を調節します。
テレビ/ビデオ：テレビの入力を切り替えます。

TVボタンを押したあとで、次の操作ができます。

1～10、11、12：テレビの受信チャンネルを選びます。
テレビチャンネル＋/－：テレビのチャンネルを変更します。

デジタルテレビは、本機のリモコンでは操作できません。

•メーカーコード番号一覧(テレビ)

機器名	メーカー名	コード番号
テレビ	ビクター	00、02、13、14、47、74
	松下	86、87
	サンヨー	01、05、81
	サムソン	06、08、16、34、35、49
	日立	08、09、10、49、78
	三菱	08、18、19、20
	フィリップス	15、17、28、75
	シャープ	37、38、77、88
	東芝	37、43、44、79
	ソニー	39、80
	アイワ	82
	NEC	83
	富士通	84
	パイオニア	85
	フナイ	89、90
	アカイ	01、02
	パナソニック	24～27、76

ビデオデッキのメーカーを設定する

1. ビデオ電源ボタンを押したまま･･･ VTRボタンを押したあと、数字ボタン(1～9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

例： お使いのビデオデッキが松下製(77)のとき

VTR ➡ 7 ➡ 7 と押す

各メーカーのコード番号は下記の表をご覧ください。

2. ビデオ電源ボタンを離す

3. ビデオ電源ボタンを押して設定を確認する

ビデオデッキの電源が「入」⟷「切」できたら設定は終了です。
もしうまく機能しないときは、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定をやり直します。

ビデオデッキを操作する

ビデオ電源：ビデオデッキの電源を「入」⟷「切」します。

VTRボタンを押したあとで、次の操作ができます。

►(再生)：再生をはじめます。
■(停止)：再生(または録画)を停止します。
II(一時停止)：再生(または録画)を一時停止します。再び再生(または録画)を始めるときは、**►(再生)**ボタンを押してください。
巻戻し(I◄◄)：テープを巻き戻します。
早送り(►►I)：テープを早送りします。
1～9、0：ビデオデッキのチューナーの受信チャンネルを選びます。

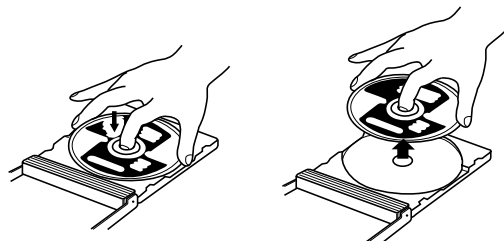
•メーカーコード番号一覧(ビデオ)

機器名	メーカー名	コード番号
ビデオデッキ	ビクター	00、26～29、58、67、83、84
	松下	77、78
	サンヨー	03、48、49
	サムソン	45、47、59、61～63
	日立	18、23～25、66、74
	三菱	30～35、80、81
	フィリップス	04、19、21、24、41、42
	シャープ	37、50、75
	東芝	43、44、71、72
	ソニー	52～54、68～70
	アイワ	01、02、82
	NEC	26、27
	パイオニア	73
	フナイ	01、76
	ゴールドスター	07
	パナソニック	19、24、39、40、79

ディスクの取り扱いとお手入れ

取り扱い時の注意

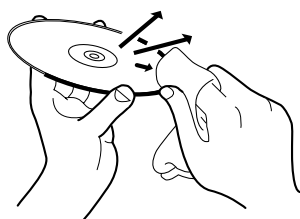
ディスクを取り扱う際、以下のようなことに注意してください。正しく取り扱わないと、信号を読み取れなくなったり、ノイズが生じたり、また誤動作の原因となることがあります。

- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながらディスクを持ち上げてください。
- ディスクに傷をつけないでください。
- ディスクの信号面（鏡面）を汚したり、ラベル面に紙やセロハンテープなどを張らないでください。
- ディスクを反らせないでください。

ディスクの保管

使用するディスクは、ほこり、傷、変形などを防ぐため、必ず専用のケースの中に入れて保管し、次のようなところには絶対に置かないでください。

- 直射日光の当たるところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 暖房器のそばや車の中など

ディスクのクリーニング

- ディスクの信号面についたほこりや指紋は、柔らかい乾いた布でディスクの中心から外に向かって軽く拭いてください。ディスクの円周方向には拭かないでください。
- レコードクリーナーやレコードスプレー、シンナーおよびベンジンなどの溶剤を、ディスクのクリーニングには使用しないでください。

お知らせ

- ハートや花などの形をしたシェイプCD（特殊形状のCD）は、絶対に使用しないでください。本機の故障の原因となります。

故障かな?と思う前に

故障かな？と思ったら、修理に出す前に以下の点検をしてください。下記の項目に当てはまらないときは、本システム以外の原因も考えられます。接続している機器なども併せてお調べください。なお、下記の項目をチェックしても直らないときは、「保証とアフターサービス」(➡ 100 ページ参照)をお読みの上、修理を依頼してください。

電源について

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電源コードがコンセントから抜けている。	電源プラグをしっかりと差し込む。
再生中に電源が「**切**」になる。	おやすみタイマーまたはオートスタンバイが設定されている。	おやすみタイマーまたはオートスタンバイを解除する。 (おやすみタイマー➡ 35 ページ参照) (オートスタンバイ➡ 89 ページ参照)

リモコン操作について

症　状	原　因	処　置
リモコンが働かない。	本機から離れすぎているか、本機のほうに向けていない。	リモコン受光部に向けて約5m以内で障害物を避けて送信する。
	電池が消耗している。	電池を交換する。(➡ 25 ページ参照)
	電池の極性(⊕、⊖)が違う。	電池を正しく入れ直す。(➡ 25 ページ参照)
	リモコン受光部に日光が直接当たっている。	直射日光をさえぎる。
数字ボタンが働かない。	**サウンド**ボタンが押されている。	ソース機器選択ボタンを押してリモコンの操作モードを切り替える。
テレビまたはビデオデッキが操作できない。	入力した他メーカーのコード番号が間違っている。	正しいコード番号を入力し直す。 (➡ 96 ページ参照)

音声について

症　状	原　因	処　置
音が出ない。	スピーカーコードが接続されていない。	正しく接続する。(➡ 16 ページ参照)
	スピーカーコードがショート(短絡)している。	正しく接続し、本機の電源を入れ直す。
	オーディオコードを正しく接続していない。	正しく接続する。(➡ 18 ～ 24 ページ参照)
	間違ったソースが選ばれている。	正しいソースを選ぶ。
	消音機能が働いている。	**消音**ボタンを押して消音機能を解除する。 (➡ 34 ページ参照)
	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする。 (➡ 97 ページ参照)
片方のスピーカーからしか音が出ない。	スピーカーコードを正しく接続していない。	接続を確認する。
	左右のバランスが合っていない。	バランスを正しく調節する。 (➡ 47 ページ参照)
本体表示窓に「NO AUDIO」と表示され音が出ない。	再生中のディスクが不法なコピーディスクの可能性がある。	ディスクをお買い上げの店に確認する。
音がひずむ。	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする。 (➡ 97 ページ参照)
	録音モードが「ON」になっている。	「RECMODE OFF」と表示されるまで **REC MODE**ボタンを押し続ける。 または、本機の音量を下げる。 (➡ 39 ページ参照)

映像について

症　状	原　因	処　置
映像が出ない。	ビデオコードを正しく接続していない。	正しく接続する。
	間違ったソースが選ばれている。	正しいソースを選ぶ。
	テレビの入力選択が間違っている。	正しい入力を選ぶ。
画面サイズがおかしい。	「TVタイプ」の設定がお手持ちのテレビに合っていない。	「TVタイプ」を正しく設定する。(➡ 85 ページ参照)
映像がひずむ。	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする。(➡ 97 ページ参照)
	本機とテレビの間にビデオデッキを接続している。または本機をビデオ一体型テレビに接続している。	本機とテレビを直接接続する。(➡ 20 21 ページ参照)

DVDプレーヤーについて

症　状	原　因	処　置
「リージョンコードエラー!」と表示される。	本機とディスクのリージョン番号が異なっている。	ディスクを取り換える。
再生ができない。(本体表示窓に「0:00」と表示されて、再生が始まらない。)	ディスクが正しくセットされていない。	ディスクを正しくセットする。
	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	ディスクを確認する。(➡ 9 10 ページ参照)
	暖房を始めた直後や、寒いところから急に暖かいところへ移動したことによって本機の内部に水滴がついている。	電源を入れたままラジオなどを聞き、数時間してからディスクを入れる。
	視聴制限が設定されている。	パレンタルロックの設定を変更する。(➡ 90 91 ページ参照)
	MP3ディスク/JPEGディスクの設定が合っていない。	「MP3/JPEG」を正しく設定する。(➡ 86 ページ参照)
	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングする。(➡ 97 ページ参照)
「言語メニュー」の設定項目が切り替えられない。	ディスクを再生している。	再生を止めて「言語メニュー」の設定をする。(➡ 84 ページ参照)
音声言語/音声/字幕言語が切り替えられない。	再生中のディスクに複数の言語が収録されていない。	複数の言語が収録されているディスクと入れ替える。
字幕が出ない。	再生中のディスクに字幕が収録されていない。	字幕が収録されているディスクと入れ替える。
	「字幕言語」設定が「オフ」になっている。	「字幕言語」を正しく設定する。(➡ 84 ページ参照)
	A-Bリピート中は字幕が正しく表示されないことがあります。	—
アングルが切り替えられない。	再生中のディスクに複数のアングルが収録されていない。	複数のアングルが収録されているディスクと入れ替える。

ラジオ/その他について

症　状	原　因	処　置
FM/AM放送を受信中に連続的に雑音が入る、または受信できない。	受信している電波が弱すぎる。	FM屋外アンテナを接続するか、お買い上げの販売店に問い合わせる。
	放送局が遠い。	別の放送局を選ぶ。
	アンテナが正しく接続されていない。	正しく接続する。
正しく動作しない。	雷や電子ノイズでマイコンが誤動作している。	いったん電源「**切**」にして、電源プラグを接続し直す。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

この機器の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後８年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

98 99 ページの「故障かな？と思う前に」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。このとき不具合の発生したディスクも一緒にご用意ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品　名	プログレッシブDVD内蔵AVレシーバー
型　名	RX-DV3
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印等も併せてお知らせください
お　名　前	
電話番号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　）　-

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

修　理　料　金　の　仕　組　み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定機器等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検にかかる費用です。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

ビクターサービス窓口案内（ビクターサービスエンジニアリング株式会社）

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
北海道				
北海道	札幌 S.C.	(011)898-1180	004-0005	札幌市厚別区厚別東5条1-2-29
	旭川 S.C.	(0166)61-3659	070-8012	旭川市神居二条3-2-15
	北見 S.S.	(0157)25-8557	090-0037	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.S.	(0154)24-0797	080-0005	釧路市松浦町3番3号
	帯広 S.S.	(0155)24-4493	080-0806	帯広市東六条南12-11
	函館 S.S.	(0138)52-5324	040-0001	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
東北				
青森	青森 S.C.	(017)723-2261	030-0844	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178)44-4521	031-0803	八戸市諏訪2-2-36
	弘前 S.S.	(0172)28-0165	036-8084	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019)637-0121	020-0835	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢 S.S.	(0197)22-2773	023-0815	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018)824-3189	010-0953	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186)43-0980	017-0874	大館市美園町5-6
	横手 S.S.	(0182)32-8873	013-0064	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台 S.C.	(022)287-0151	984-0011	仙台市若林区六丁の目西町7-13
	石巻 S.S.	(0225)94-7711	986-0853	石巻市門脇字四番谷地8-18
山形	山形 S.C.	(023)642-0279	990-2412	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234)26-7145	998-0842	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024)952-6331	963-0205	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246)27-7991	973-8409	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
	会津若松 S.S.	(0242)38-1355	965-0831	会津若松市表町1-44ハイツシンフォニー101
	福島 S.S.	(024)553-9437	960-0103	福島市本内字南原26-1
関東・甲信越				
新潟	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(025)241-4003	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	新潟 S.C.	(025)242-3431	950-0084	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258)24-8391	940-0012	長岡市下下条2-1366-1
	上越 S.S.	(0255)45-1734	942-0081	上越市五智1-11
長野	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(026)221-7607	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	長野 S.C.	(026)221-6583	380-0913	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263)25-9165	390-0828	松本市庄内2-4-21
群馬	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(027)255-5982	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	前橋 S.C	(027)255-5921	371-0854	前橋市大渡町1-19-1
栃木	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(028)635-2938	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	宇都宮 S.C	(028)638-1639	321-0953	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	土浦 S.C.	(0298)21-8756	300-0813	土浦市富士崎1-10-1
	水戸 S.S.	(029)246-1560	310-0836	水戸市元吉田町1077
山梨	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(055)227-5773	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	甲府 S.S.	(055)237-4016	400-0864	甲府市湯田2-11-5
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	千葉 S.C.	(043)246-2588	261-0001	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏 S.C.	(0471)75-4322	277-0863	柏市豊四季512-10-67
	浦安 S.S.	(047)353-6189	279-0001	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	本郷 S.C.	(03)5684-8254	113-0033	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	秋葉原 S.S	(03)3251-2128	101-0021	千代田区外神田1-6-6
	練馬 S.C.	(03)3993-7520	176-0014	練馬区豊玉南1-19-1
	大田 S.C.	(03)3727-9385	145-0062	大田区北千束2-20-6
	八王子 S.C.	(0426)46-6914	192-0045	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	首都圏メンテナンスセンター	(03)3874-5231	110-0003	台東区根岸5-4-3
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大宮 S.C.	(048)654-5241	330-0037	さいたま市東大成町2-658-1
	熊谷 S.S.	(048)553-5105	361-0057	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	横浜 S.C.	(045)651-0403	231-0028	横浜市中区翁町1-3-1
	川崎 S.C.	(044)975-1879	216-0024	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平塚 S.C.	(0463)36-2160	254-0065	平塚市南原2-4-5
	相模原 S.C	(042)776-2052	229-0004	相模原市古淵3-7-4

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
東海・北陸				
静岡	静岡 S.C.	(054)282-4141	422-8043	静岡市中田本町62-31
	沼津 S.S.	(0559)22-1557	410-0041	沼津市筒井町6-5
	浜松 S.S.	(053)421-3441	435-0041	浜松市北島町785
愛知	名古屋 S.C.	(0568)25-3235	481-0041	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河 S.C.	(0564)51-5931	444-0833	岡崎市桂曙3-10-12
	豊橋 S.S.	(0532)64-0815	440-0853	豊橋市佐藤5-19-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058)274-1947	500-8367	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重 S.S.	(0593)52-0841	510-0076	四日市市堀木2-15-2
	津 S.S.	(059)229-7780	514-0815	津市大字藤方485-18
富山	富山 S.C.	(076)425-2397	939-8211	富山市二口町四丁目1-3
石川	金沢 S.C.	(076)269-4821	921-8062	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井 S.S.	(0776)53-6916	910-0843	福井市西開発3-211
近畿				
滋賀	滋賀 S.S.	(077)582-5812	524-0033	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	京都 S.C.	(075)644-0247	612-8401	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山 S.S.	(0773)22-8664	620-0059	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	奈良 S.S.	(0744)24-6271	634-0007	橿原市葛本町834-2
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	大阪南 S.C.	(06)6768-5489	543-0028	大阪市天王寺区小橋町10-16
	堺 S.C.	(0722)54-2881	591-8032	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	大阪メンテナンスセンター	(06)6304-6715	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山 S.S.	(073)472-6799	640-8323	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S.	(0739)22-9976	646-0031	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	神戸 S.C.	(078)252-0562	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路 S.S.	(0792)34-3833	670-0975	姫路市中地南町11-1
中国				
岡山	岡山 S.C.	(086)243-1566	700-0927	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082)243-9839	730-0825	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(0849)31-6984	721-0973	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(083)973-3708	754-0022	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山 S.S.	(0834)27-1331	745-0042	徳山市野上町2-35
	下関 S.S.	(0832)51-1040	751-0852	下関市熊野町2-14-23
島根	山陰ビクター販売（株）サービスセンター（松江・米子担当）	(0852)31-8900	690-0823	松江市学園1-16-39
	出雲営業所サービス係	(0853)21-4611	693-0001	出雲市今市町854
	浜田営業所サービス係	(0855)22-1584	697-0023	浜田市長沢町671-1
鳥取	鳥取営業所サービス係	(0857)23-2151	680-0911	鳥取市千代水1丁目22-1
四国				
香川	高松 S.C.	(087)866-1200	761-8057	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.C.	(088)622-7387	770-8052	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.S.	(088)882-0546	780-8122	高知市高須新町4-143
愛媛	松山 S.C.	(089)923-0372	791-8015	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895)20-1018	798-0087	宇和島市坂下津甲407-40
九州・沖縄				
福岡	福岡 S.C.	(092)-431-1261	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S	(0942)-39-3495	830-0038	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093)921-3981	802-0064	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎 S.C.	(095)862-5522	852-8021	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S	(0956)33-5568	857-1166	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.S.	(097)543-1422	870-0882	大分市大道町4-1-2
熊本	熊本 S.C.	(096)353-4536	861-4101	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985)24-5401	880-0032	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S	(0982)35-7707	882-0857	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099)282-8818	890-0034	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098)898-3631	901-2224	沖縄県宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0302

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。

主な仕様

• JEITAは電子情報技術産業協会に定められた測定方法による数値です。

• 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

	項目	仕様
	再生可能ディスク	DVDビデオ、ビデオCD、オーディオCD、CD-R/RW (オーディオCD、ビデオCD、MP3ディスク、JPEGディスク)
	映像信号方式	JEITA標準、NTSCカラーテレビジョン方式
	水平解像度	500本
	S/N比	63 dB
映像入力端子		**入力感度 / インピーダンス**
	映像(コンポジット)	DBS、VTR ： 1.0 V(p-p)/75 Ω、同期負
	S映像	DBS、VTR
		Y入力 ： 1.0 V(p-p)/75 Ω、同期負
		C入力 ： 0.286 V(p-p)/75 Ω
映像出力端子		**出力レベル / インピーダンス**
	映像(コンポジット)	VTR、モニター ： 1.0 V(p-p)/75 Ω、同期負
	S映像	VTR、モニター
		Y出力 ： 1.0 V(p-p)/75 Ω、同期負
		C出力 ： 0.286 V(p-p)/75 Ω
	コンポーネント、D1/D2映像	DVD
		Y出力 ： 1.0 V(p-p)/75 Ω
		P_B/C_B、P_R/C_R出力 ： 0.7 V(p-p)/75 Ω
実用最大出力 (JEITA)	**フロント**	100W+100W (6 Ω)
	センター	100W (6 Ω)
	リア	100W+100W (6 Ω)
音声入力端子		**入力感度 / インピーダンス**
	アナログ入力	TV、MD/CDR、DBS、VTR ： 220 mV/47 kΩ
	デジタル入力	同軸デジタル1 ： 0.5 V(p-p)/75 Ω
		光　デジタル2 ： −21 dBm ～ −15 dBm
		(サンプリング周波数　32kHz、44.1kHz、48kHzに対応)
音声出力端子		
	アナログ出力	モニター、MD/CDR、VTR
		サブウーハー
		ヘッドホン(ø3.5)
	デジタル出力	光 ： −21 dBm ～ −15 dBm (ピーク)
	その他の端子	AVコンピュリンクⅢ (×2)
	S/N比	TV、MD/CDR、DBS、VTR ： 87 dB ('66 IHF)
	周波数特性	TV、MD/CDR、DBS、VTR ： 20 Hz～20 kHz (±1 dB)

FMチューナー

受信周波数	76.0 MHz～108.0 MHz
アンテナ	75 Ω不平衡型

AMチューナー

受信周波数	531 kHz～1629 kHz
アンテナ	アンテナ外部端子(ループアンテナ)

その他

スリープタイマー	10、20、30、60、90、120、150分
電　源	AC 100 V、50 Hz/60 Hz共用
消費電力	電源「入」時　215 W 電源「切(待機)」時　2 W
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	435 mm×100 mm×403.5 mm
質　量	7.9 kg

• 付属品は 8ページをご覧ください。

本機でお使いいただけるサラウンドと音声信号の対応表です。
詳しくは「サラウンドを使う」(➡ 50～53ページ参照)をご覧ください。

音声信号/サラウンド対応表

サラウンド／音声信号	STEREO サラウンド「切」	DOLBY DIGITAL	MPEG-2 AAC	DTS	PLⅡ MOVIE	PLⅡ MUSIC	LIVE CLUB	DANCE CLUB	HALL	PAVILION	ALL CH STEREO
ドルビーデジタル(マルチチャンネル)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ドルビーデジタル(2 チャンネル)	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
DTS デジタルサラウンド(マルチチャンネル)	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
DTS デジタルサラウンド(2 チャンネル)	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
MPEG-2 AAC サラウンド(マルチチャンネル)	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
リニア PCM	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○
アナログ	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○

用語解説

あ

アスペクト比
表示される映像の縦横比のことです。通常のテレビの横：縦の比は4：3、ワイドテレビおよびHDテレビの横：縦は16：9の比率をもっています。

か

カーソル
一般的には数字などの挿入ポイントのことをいいます。

片面ディスク
DVDディスクのうち、信号読み出し面が片面のみのものをいいます。片面1層と片面2層があります。

コンポジット
輝度信号と色信号を周波数多重技術で複合した映像信号と、色の基準となるバースト信号、同期信号を組み合わせた複合映像信号のことです。

コンポーネント
光の3原色からなる映像信号を再現するために必要な情報の一部を、各々別の信号線で伝送するビデオ信号方式のことです。R/G/BやY/C_B/C_Rなどの信号形式があります。

さ

再生可能地域管理（リージョンコード）
あらかじめ設定された地域についてのみ、再生を可能とするシステムのことです。世界各国を8つの地域に分け、これに各地域番号（リージョン番号）をつけ識別します。ディスクに設定された再生可能地域番号の中に、プレーヤーに付与された地域番号と合致する番号があれば、プレーヤーはこのディスクを再生できます。

サラウンド
視聴者の周囲にスピーカーを複数配置し、臨場感あふれる立体音場を作りだすシステムをいいます。

サンプリング周波数
アナログ信号からデジタル信号に変換する際の標本化周波数のことです。1秒間に何回の割合で、もとのアナログ信号を標本化し、デジタル信号に変換するかを数値で表したものです。

色差信号
R/G/Bのそれぞれの信号から輝度信号（Y信号）を引いた信号で、色相と色の濃さを表す信号をいいます。

た

ダウンミックス
サラウンド方式(3ch以上)で記録されたマルチチャンネル音声トラックを、ステレオ2ch音声に変換して再生する機能をいいます。一般には、信号チャンネル数よりも、スピーカーの数が少ないときに行なわれるミキシングのことです。

チャプター
タイトル内の各章のことです。

ディスクメニュー
DVDビデオに複数記録されたタイトルの映像や音声、字幕、マルチアングル等を選ぶために用意された画面をいいます。

ドルビーデジタル
家庭用デジタルサラウンド方式として開発されたドルビーデジタル（AC-3）方式のことをいいます。最大フロント3ch、リア2chおよびサブウーハー0.1chで構成される5.1chが特長です。

は

パレンタルロック
映像および音声の内容が視聴者に対して適切なものかどうか（たとえば教育上好ましくないシーン等に対して）を、あらかじめソフトに設定されたパレンタルレベルと、本システムに視聴者が設定した再生可能パレンタルレベルの上限とを照らし合わせ、本システムが自動的に判断し再生する機能です。

ビットストリーム
各種エンコード作業によって作成されたデジタルデータをさします。

ビットレート
1秒間に送りだすデジタルデータのデータ量のことです。本システムではMP3再生時に、録音時のビットレートを表示します。

プレイバックコントロール（PBC）
ビデオCD（バージョン2.0）に記録されている、再生をコントロールするための信号です。PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面を使って、対話型のソフトや検索機能を持ったソフトなどが楽しめます。

ま

マルチアングル
一つのタイトルの中に、同一時間で進行する複数の場面を収録し、これをユーザーの操作により切り換えて視聴できるようにした機能です。

マルチチャンネル
DVDビデオでは、一本の音声トラックで一つの音場を構成するように定められていますが、このうち3つ以上のチャンネルをもった音声トラックの構成をいいます。

マルチランゲージ
一つのタイトルが複数の言語に対応して制作されていることを一般的にマルチランゲージといいます。

ら

リニアPCM音声
アナログ音声信号をデジタル信号に変換して扱う方式の一つで、変換に際して圧縮をまったくしない方式のことです。

両面ディスク
DVDディスクのうち、信号読み出し面が両側のものです。反対の面を再生するには、ディスクを裏返す必要があります。

レターボックス
4：3テレビに映画などの横長の画像を欠けることなく映し出すために画面の上下に黒などの帯を付け、画面中央部にこの横長画像を映し出す手法です。
画面が文字通り郵便受けに似ていることから名付けられたものです。

用語索引

ア行

カ行

サ行

タ行

用語索引(つづき)

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

アルファベット

別売りアクセサリー

- オーディオコード : CN-510E
- 映像接続用コード : VX-110E
- Sビデオコード : VC-S110E
- コンポーネントビデオコード : VX-D115E
  （ピンプラグ×3～ピンプラグ×3）
  : VX-DS110（Dプラグ～Dプラグ）
- 同軸デジタルコード : CN-D110E
- 光デジタルケーブル : XN-110SA
- アンプ内蔵サブウーハー : SP-PW800
- TVサイドスタンド : LS-THA10VJ

別売りアクセサリーは、お買い上げの販売店でお求めください。

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記のご相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
101ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	東京 ☎(03) 5684-9311 FAX(03) 5684-9317 〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目14-7 ビクター本郷ビル 大阪 ☎(06) 6765-4161 FAX(06) 6765-4891 〒543-0028 大阪市天王寺区小橋町10-16 大阪ビクタービル

ビクターインターネットホームページアドレス　http://www.jvc-victor.co.jp/

日本ビクター株式会社
パーソナル＆モビールネットワークビジネスユニット
〒371-8543　群馬県前橋市大渡町一丁目10番地の1 ☎（027）254-8952

0602NHMMDWJEM